

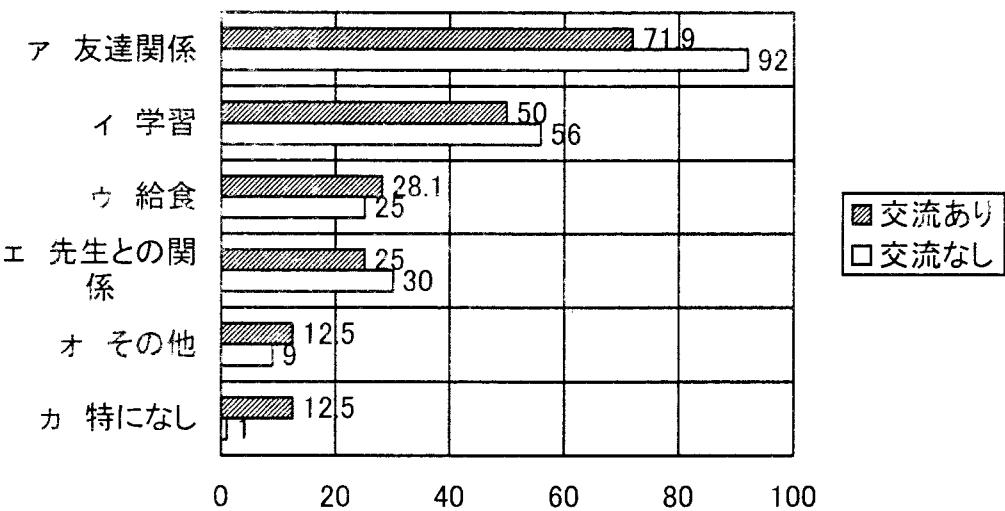
# 調査統計部

幼・保・小連携に関するアンケート調査結果と報告（平成19年6月実施・保護者配布版）

## 幼・保・小連携に関するアンケート結果のお知らせ

平方小学校では、幼児期から児童期への滑らかな接続を図るため、幼・保・小連携事業に取り組んでいます。それにつきまして、1学期中に、平方小学校の1年保護者の方々に、「幼・保・小連携に関するアンケートのお願い」という意識調査のアンケートを実施致しました。ご協力いただいた意識調査の結果は、次の通りとなっています。（小学校就学前の経験で、平方幼稚園と西上尾第二保育所に通わっていた方は「交流あり（31人）」、それ以外の幼稚園や保育所に通わっていた方は「交流なし（56人）」で統計を出してあります。）

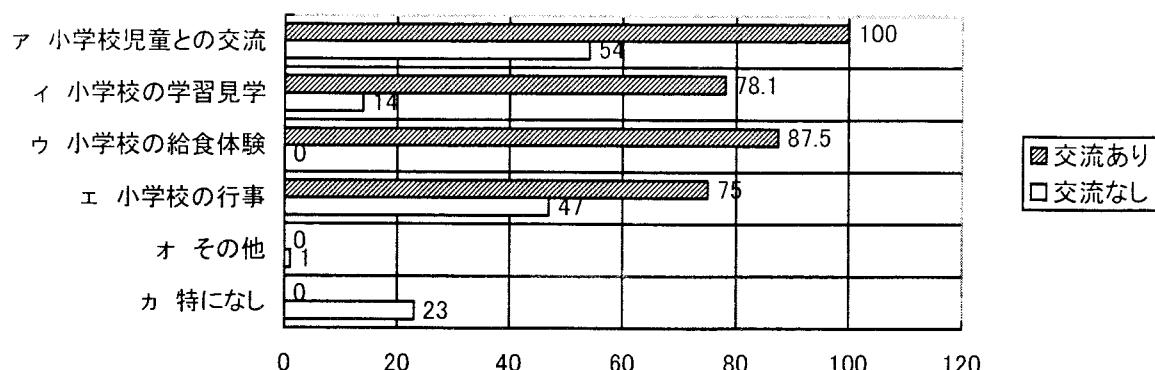
- （1）お子様の小学校入学にあたり、保護者として不安なことはどんなことでしたか。  
 （複数回答可）



### ◇調査結果の考察

- 「ア友達関係」が二者（交流あり、交流なし）とも一番多くなっている。
  - ・小学校という初めての環境での人間関係が懸念されている。
  - ・コミュニケーションがとれない子が増えていると思われる。
  - ・交流なしがとりわけ数値が大きいのは、知っている子がいないことや新しい友達を作れるかどうかということを心配しているからであると考えられる。
- 「ウ給食」において、「交流あり」の方が高く、逆に「交流なし」の方が低くなっている。
  - ・昨年度に給食体験の交流をもったことで、どのように配膳をするのかが分かり、給食の見通しがついたが、仕事を分担したり給食着の脱ぎ着や準備を一人でできるかどうかを心配していると考えられる。
  - ・好き・嫌い等の給食内容で心配している傾向も考えられる。
- 「オその他」における特記事項としては、「朝の支度」「通学時間が長い」「歩くのが遅い」「言葉遣い」「先生の指導法」が挙げられていた。

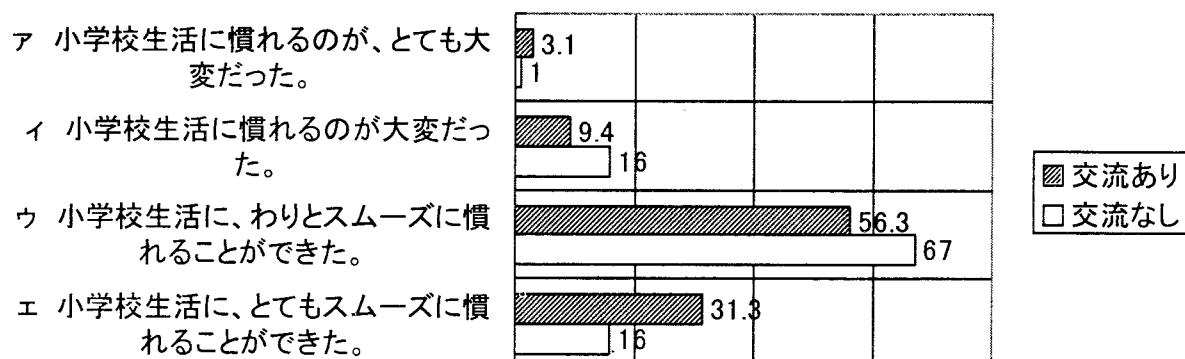
(2) お子様は、入学前に以下の内容の経験はありましたか。(複数回答可)



#### ◇調査結果の考察

- 「ア小学校児童との交流」において「交流あり」が 100%であるのに対して、「交流なし」が 54%と約半分の割合となっている。
  - ・「交流なし」は、入学前に小学校児童と接する機会のない子もいることが明らかになった。
  - ・家のまわり等でも、小学校児童と遊んだりふれ合ったりする機会が無くなってきたているようだ。
- 「ウ給食体験」において、「交流なし」の場合は、入学するまでに給食体験をしている子がない。
  - ・交流活動に「給食体験」が行われているので、「交流あり」は、ある程度の見通しの中で、給食が行えるが、逆に体験しているがゆえに不安が多いことも考えられる。

(3) 入学当初、お子様の小学校生活への適応の様子はいかがでしたか。



#### ◇調査結果の考察

- 二者共に、「ウ小学校生活に、わりとスムーズに慣れることができた」が一番多い。
  - ・幼・保において、入学前に園内でしっかり集団生活の基本を身につけている実態がある。
- 「交流あり」は、「エ小学校生活に、とてもスムーズに慣れることができた」が、「交流なし」の二倍の数値となっている。
  - ・交流活動を体験したことにより、小学校においての学校生活の流れを、ある程度把握することができ、異学年の小学校児童の知り合いがいたことでスムーズに慣れることができたと考えられる。

(4) 交流学習等を経験して、お子様の様子で気づいた点について、自由にお書きください。

＜交流あり＞

- ・緊張が少なかった。
- ・学校がこういうところだとわかってよかったです。スムーズにとけ込めた。
- ・上級生と関わり喜んでいた。
- ・教師と関われてよかったです。
- ・表現力や感情に幅が広がった。
- ・入学を楽しみにしているようだった。
- ・楽しそうだった。
- ・異学年の友人ができる。
- ・校長・教員がよくしてくれて心強い。
- ・小学校生活に対し前向きな考えを持てた。
- ・小学校生活に「不安」を感じていたのが、交流を通して「楽しみ」や「期待」に変わった。
- ・子どもの交流も大切だが、先生との交流も子どもにとって左右されると思う。
- ・小2のお姉さんに優しくしてもらったのが印象的だったので、自分も幼稚園児に優しくしてあげたいと言っていたので良い経験だったと思う。
- ・小と幼が同じ敷地内にある環境が素晴らしいと思う。
- ・上級生に知り合いができ、声をかけてもらえることが嬉しい様子であった。
- ・先生方が幼稚園にすることで先生に対する緊張感がなくなったように感じる。

＜交流なし＞

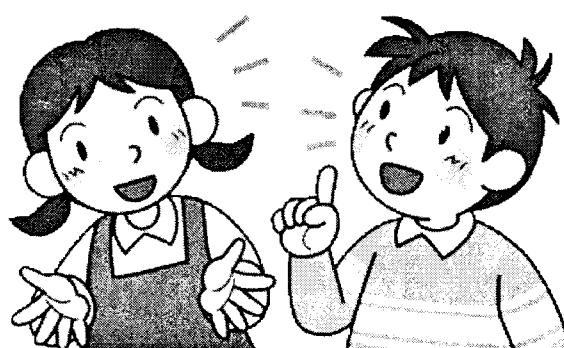
- ・養護学校との交流はあるのか。今後、検討してほしい。  
※障害のある子と接することで、優しい心が育まれる。とても大切なことだと思う。

・決まった園だけでなく、来年度入学予定の園児全員を対象にしてほしい。入学予定の園児全員に活動参加の案内があれば公平だと思う。

・他の幼稚園等を卒園した子や保護者にとっては、疎外感のように感じる。

※上尾市全体が、近隣の幼稚園・保育所・小学校で連携が進むことを願い、研究を進めている。

ご協力頂いた保護者の皆様、ありがとうございました。これらのアンケート結果を基にして、今後の幼保小連携事業に取り組んでいきます。



## 交流活動・交換経験研修を振り返って（感想の分析）

### 1 プール参観（小学校→幼稚園）

- 一斉指導よりも個別の声かけを重視していた。
- 小学校の教員に、幼稚園の子どもが親しんでいた。
- 幼稚園児は、予想外に泳力があり、楽しんでいる様子がみられた。園内のプールでの様子ではどのくらい泳げるかが分からなかったが、小学校のプールでは泳力がよく見えた。
- 話の聞き方が上手で、指示がよく通る。
- 子どもが集中するまで待つ時間があり、感心した。
- 自由時間になっても自由に遊ばず、復習をする姿に感心した。
- ◆広いプールで不安を感じたのか、一部の子は自由に遊ぶことができなかつた。

### 2 運動会（幼児徒競争）

- 上級生が一生懸命に首にメダルを掛けてあげていた。
- 園児は小学校に親しみを持っていたようだった。
- 幼児達は笑顔を見せて嬉しかったようだった。
- 商品を渡す児童がはりきっていた。
- ◆レースの間隔が短かったので、声掛けまではできていなかつた。
- ◆交流としての意味は感じなかつた。
- ◆不特定多数の参加だったので、就学児童に絞れると良いのではないか。

### 3 チャレンジ集会（幼稚園・保育所→小学校）

- 小学校の児童が手本を見せて、それを見ながら園児が挑戦するという種目もあり、かかわりがもてた。
- 6年生が幼児の大きさに合わせて挑戦する道具のサイズを選んであげていて良かった。
- 幼児が成功すると、児童が拍手するなど関わる姿が見られた。
- 幼児が来ると、児童が緊張する場面が見られた。児童の平常とは違う姿を見ることができ、良かった。
- 幼児が好奇心いっぱい楽しくチャレンジした。「難しいよ。」というと「だからチャレンジするんでしょう。」と純粋に楽しんでいた。
- 交流は少なかつたが、児童が幼児に優しく挨拶したり、上級生が全体の運営をスムーズに進めようとしている姿を幼児が見たりすることで、いい刺激になつた。
- 幼児達は、大きな小学生のなかでも学校という場に慣れてきていたため、十分に楽しむことができた。
- 「僕は2回入った。」などうれしかったことを小学校の先生に話しかける様子もあり、慣れてきて関わりをもてるようになってきた。
- ◆引率の先生が幼児への指示を全部してしまっていたので、幼児と児童のかかわりという面では課題が残つた。
- ◆一緒に何かするという活動ではないので、交流が限られてしまう。児童の中から「お世話係」をつけるなど、関わりを持てるようにしてみてはどうか。
- ◆出来上がつた行事に参加しているので、交流になつていない。交流させるのであれば事前の打ち合

わせが必要だが、時間帯の違いで無理がある。

- ◆どこかの学年と兄弟姉妹グループを作ってみてはどうか。
- ◆幼稚園と保育所で交流してみることで、幼児の姿がはっきり見えてくるのではないか。
- ◆小学生や、小学校の先生に対して、幼児が自分から「ありがとう。」「お願いします。」「こんにちは。」などの言葉が出なかった。身近な人や慣れているだけでなく、誰に対しても自分からそういった言葉が出せるように指導していく必要がある。

#### 4 平方小運動会に参加した平方幼稚園児（年長）

- 小学校の校庭で走ることが経験できたことで、「来年は自分たちもここで運動会をやるんだ。」という気持ちをもった幼児が多くいた。
- お兄さん・お姉さん達の様子が見られて、小学生の足の速さや迫力に感動していた。

#### 5 平方小持久走大会を見学した平方幼稚園児（年長・年少）

- 年長児は一年生とペアになり、虫探し・落ち葉拾いと一緒に楽しんだ経験の後だったので、一年生が走っている時には「僕と手をつないでる子だっ！！」「○○ちゃんが走ってたよ」とペアの子を探したり、一生懸命応援したりし、昨年まで応援に行っていた時よりも、こども達も親しみを持って応援することが出来たように感じた。
- ◆小学生のコースの邪魔になってしまったりし、どこで応援するといいのか事前に確認をしておけば良かったと感じた。

#### 6 職員間の交換保育体験（小学校職員→幼稚園・保育所へ）

##### （1）子どもの実態について

- 年長さんは数が数えられており（算数の基礎）、ゲームの回数なども把握していた。また、子ども同士で本の内容を説明し合っている姿も見られた。遊びを通して基礎を学び、表現力や思いやりが自然と育っていくように思えた。
- 行儀が大変よく、洋服も自分できちんとたためていた。
- 幼稚園では、子どもたちが包丁を使っていたことに驚いた。
- 保育所では役割分担がしっかりできており、掃除も自分たちで行っていた。
- 曲がかかるとすぐに体を動かし、自分から踊り出す。
- 保育所では、半数以上が鉄棒や跳び箱ができている。
- 保育所は、会話や行動が小さな大人社会で、幼稚園にはないような衝突が見られる。しかし、喧嘩やもめ事が起きた時に、周囲の子どもが子ども同士で収める姿が見られた。
- ◆とても素直なので、思ったことをすぐに口にしてしまうようだ。
- ◆年長さんと年少さんの伝え合いが、言葉でできていないようだった。

##### （2）指導について

- 廃材集めが参考になった。材料（環境）を教員が集めておき、環境を整えてあげると、アイデアが生まれるのかも知れない。
- 保育園では、自分のことは自分でさせると言う方針が随所に見られた。対して、幼稚園では、子どもたちの活動において、教師が周到に準備を行っているという印象が残った。

- 小学校と比較して、時間に融通が利くように感じた。また、子ども同士のトラブルを解決する方法や様の面で、時間をかけて落ち着いて取り組める点が小学校と大きく違うと感じた。
- 複数の目で安全面への配慮をしている。
- 単語ではなく、最後まできちんと話をさせている。伝え合う力を育てるには大切なことだと感じた。
- 保育園では、時間がかかっても最後まで給食を食べさせる指導をしていた。
- 幼稚園と比較すると、保育所では教師が介入せず見守ることが多いように感じた。

## 7 職員間の交換保育体験（幼稚園・保育所職員→小学校へ）

### (1) 子どもの実態について

- 自分の役割を理解しており、班ごとの清掃がきちんとできていた。
- 新しい友達との様子、授業態度が見られ、成長を感じられた。
- 国語の書き取りで、大きな字をしっかりと書けていたことに感心した。
- ◆1年生になって2ヶ月で字をしっかりと書けるようになっていた。一から覚える児童は大変だろうと思った。
- ◆聞く耳をもてない児童もいたので、これからは聞く耳をもてるように育てていきたいと思った。
- ◆給食のペースの早さを改めて感じた。残さず食べさせるためにも、時間を少しずつ小学校に近付けていかなければならぬと思った。

### (2) 指導について

- 幼稚園で生活していた時との違いや、学習が進んでいく過程、幼稚園から小学校への移行時期の様子が分かったので、つながりを持たせるための参考になった。
- 1年生の授業の進め方、児童の集中の度合いが分かった。また、1学期にどの程度のことができるようにならなければいけないかが分かり、話を聞く姿勢、約束、友達との関わりなど、就学前に身につけておきたいことを考える機会となった。
- 歯ブラシの管理が保健室できちんとできていることに驚いた。
- プール指導では、約束事を児童にも言わせていましたが参考になった。また、じゃんけん遊びを早速保育所でも取り入れたところ、とても喜んでやっていた。
- ◆休み時間など、遊ぶ時間が少なく感じた。
- ◆道徳や図工の時間はどんな補助をしたらいいのか迷ってしまい、立ちつくしてしまった。

調査統計部 活動のまとめ（○成果と◆課題）

- 幼・保・小連携教育の成果について、小1保護者を対象に意識調査ができたことは、この事業を進めていく上で、大変参考になった。
- 幼・保・小各教育現場での教育の特色・子どもの実態が明らかになった。子どもの発達を理解する上で、大変重要であることに気づけた。
- ◆本年度は実態調査とその結果の公表にとどまってしまった。今後は、日常の教育活動に生かせるよう、年度当初の段階で配慮していきたい。
- ◆各教育機関がそれぞれの特長を理解した上で指導していくことが大切である。したがって、今後も交流事業を続けていきながら、教職員同士が互いを意識しながら教育活動を開拓する必要があると感じた。

## ア にこにこ先生体験（一日先生体験）

- ① 対象 在籍している園児の保護者
- ② 内容 1学級1名の配置  
自分の子どもが在籍していない並行学級の保育補助  
終了後、アンケート用紙に記入し、提出
- ③ 時間 登園から降園まで（9時～14時と9時～14時30分）
- ④ 参加方法 予定した日程や内容等を知らせた手紙を配布し、希望した日を調整して決定
- ⑤ 当日までの流れ
- ・参観日等の全体会で、保護者に主旨を説明
  - ・年間の予定や内容・参加方法などを記述した手紙を保護者全員に配布
  - ・希望者の募集
  - ・事前打ち合わせ  
※活動内容やその日のねらい、援助の仕方、守秘義務等について打ち合わせ
  - ・「にこにこ先生」の保育参加



## イ 各種園行事への参加や手伝い

- 年度初めに、原則として、園児一人につき1回は園行事への準備や手伝いに携わることを条件に、募集する

### （本年度の予定）

項目 日程	参 加 事 業	保護者		合 計	おもな内 容
		父	母		
6/18	プール清掃	0	5	5	年長児と一緒に使うプール清掃の共同作業
7/10	カレーパーティー	0	4	4	カレーの調理の手伝い
9/18～9/26	運動会の準備	0	16	16	園児の衣装や小道具作りの手伝い
11/2	焼き芋パーティー	3	0	3	枯葉を燃やして焼き芋作り
12/11	おもちつき	4	7	11	父親はお米を捏ねてつき、母親は出来上がったお餅にあんこやきな粉を付ける作業
2/6～2/14	劇の発表会の準備	0	16	16	園児の衣装や小道具作りの手伝い
3/5	お別れ遠足	0	2	2	丸山公園までの交通整理
3/12	昼食バイキング	0	7	7	バイキングメニューの下ごしらえ
合 計		7	57	64	

## （その他の園行事）

### ❖誕生会（毎月1回）❖

誕生会に、誕生日の園児の保護者（父や母）を招待し、一緒にお祝いをする。その際、自分の子どもの誕生した時のエピソードや名前の由来、いちばん嬉しかった出来事など、お話ししていただく時間を設けている。終了後、親子で記念撮影をしたり、クラスでおやつを食べたりして一日を過ごす。また、誕生会の様子を録画し、後でDVDに編集してプレゼントする。



### ❖参加型の参観日❖

学年で年1回、全員の保護者が園児と一緒に幼稚園の活動に参加する。内容は、運動遊びや製作活動等である。

平成27年度

## 研究集録

### 研究テーマ 発達過程を踏まえた造形教育の在り方

～様々な表現を楽しむための教師のかかわり～



上尾市立平方幼稚園

## 様々な表現を楽しむために教師のかかわり

### <2年保育4歳児>

月	活動内容	素材と経験したこと	(☆)環境 (◇)教師のかかわり (○)幼児の姿
4月	こいのぼりづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵の具を使って画用紙に手形を押す</li> </ul>  <p>☆前日に水で新聞紙に手形スタンプ遊びができるように水・新聞紙を用意する。</p> <p>○「手の形になつた」「指の所が見えない」など繰り返し遊ぶ中で、しっかりと付けることや押し方を変えて楽しむ。</p> <p>☆布に絵の具を染みませて置いておく。水色とピンクはテーブルを別にする。</p> <p>◇絵の具の感触を楽しみながら手形スタンプを押すことができるよう、「絵の具冷たいね」「上手に手の形が出たね」などの言葉掛けをした。</p> <p>○水とは違い、手に絵の具が付くことに抵抗のある幼児もいる。</p> <p>◇教師も一緒にやりながら数は少なくともできることを認めていく。</p> <p>☆手形スタンプを押した画用紙をこいのぼりの形に切る。絵の具は布に染み込ませておく。</p> <p>○前日の手形スタンプの経験があったので、進んで指スタンプでうろこ作りをしている。</p> <p>◇やりすぎてしまいそうな幼児には様子を見ながら声をかけていく。</p> <p>☆のりの板・のりの手拭きを個々に用意する。</p> <p>○のりを指で付けることが初めての幼児が多く、付ける量や伸ばし方など試している。</p> <p>◇のりを指で端までのばすことができるように声を掛けたり、やって見せたりする。</p> <p>☆絵の具で輪郭を描いた画用紙を用意する。</p> <p>○髪の毛や顔を描く。「髪の毛は長いんだよ」「メガネをかけてる」などお母さんを思い出しながら描いていた。</p> <p>◇描くことが苦手な幼児やクレヨンの経験があまりない幼児はなかなか進まないので、一緒にお母さんを思い出しながら描けるようにする。</p> <p>☆様々な色や形の花を用意する。</p> <p>○自分なりに色や形を組み合わせて作ることを楽しんでいる。</p> <p>◇幼児なりに考えたり、組み合わせたりする姿を認めたり出来たことを一緒に喜んだりする。</p>	 

イチゴケーキ作り  
・イチゴの折り紙を折る



- ・ケーキにクリームやフルーツを貼る



- ☆赤い折り紙・いちごのヘタを用意する。

△初めての折り紙なので、基本形でわかりやすい折り方の折り紙を選んだ。

△少人数で折り紙を行なうことで個々の幼児の把握をする。

△指先を使って折ることがなかなか上手くできない幼児も多い。幼児の様子を見ながら個々に援助したり、認めたりしていく。

- ☆台紙にケーキの画用紙を貼つておく。帯(クリーム)と色や形の異なったフレーツを用意する。

△クリーム(帯)の中に4種類の色や形の違うフルーツを1つずつ貼ることを伝える。糊の量や端まで付かれるよう見守りながら貼つたりする。

○それぞれに貼り方や並び順を考えながら貼つている。同じフレーツを貼つてしまふ幼児もいる。

## 父の日のプレゼント作り

- ・お父さんの顔を描く

- ・メッセージボードに飾り付けをする



- ・画用紙にタンポをする

## 6月

## あじさい作り

## 短冊作り

- ・障子紙を染める



- ☆絵の具の輪郭を描いておく。洋服を数種類用意する。

○母の日の時にも顔を描いたので、比較的スムーズに顔や髪の毛を描くことができた。

○お父さんの好きな色や模様などを考え、洋服を選んでいた。

○ハートや星、ひし形などの形、メッセージボードの土台となる画用紙(数枚)を用意する。

△画用紙の周りに模様を貼ることを話す。幼児の遊び方や貼り方を見守りながら幼児の考え方や工夫を認める。

○「お父さん喜んでくれるかな」「使ってくれるといいな」などプレゼントすることを楽しみながら製作している。

- ☆少し大きめの画用紙を用意する。ガーゼで作ったタンボと布に含ませて絵の具を用意する。

○ピンク・水色・紫の好きな色を選び、友達と一緒にタンボ遊びを楽しめるようにする。

○タンボで押した模様に不思議さを感じたり、押すたびに色の濃さや形の違いを楽しんでいる。

- ☆絵の具(ピンク・黄色・水色・黄緑・紫)を水で溶き、容器に入れておく。

○障子紙を三角に4回折る。一つ目を一緒に行なったら、2枚目3枚目と自分で折る。

△染める手順をやって見せながら話をすると。特に染めた紙を広げる時には慌てず、丁寧に行なうこと話をす。

○個々に色を選んで模様の出方を楽しんだり、色の混ざり方、変化などを楽しんだり、驚いたりしている。

○回数を重ねるごとに絵の具を付ける量や組み合わせなどを工夫している。

○染めた紙を広げる時に、1枚ずつ開いていくことができず、破れてしまふ幼児もいる。

<p><b>7月</b></p> <p>泥粘土</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泥粘土に触れて遊ぶ</li> </ul>	<p>☆泥粘土に水を含ませて捏ね、幼児が使いやすい方さ、大きさにしておく。</p> <p>○初めての泥粘土に戸惑いを感じている幼児もいる。</p> <p>△教師も幼児と一緒にちぎったり、丸めたりして泥粘土の感触に共感したり、ダイナミックに楽しんだりする。</p> <p>○慣れてくると、手だけではなく足で踏んで触る足で泥粘土を使って大きな形を作ったりすることを自分なりに楽しんでいる。</p> <p>○場を大きく取っておいたことで、ダイナミックに遊び幼児、粘土と同じように遊ぶ幼児など思いに楽しんでいた。</p>
<p><b>9月</b></p> <p>自分で作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の顔を描く</li> </ul>	<p>☆洋服・スカート、ズボンの色や形を変えて用意しておく。腕は別に作り、まっすぐ・曲がっているなど用意する。</p> <p>○洋服の色や形を楽しみながら選び、組み合わせを変えたり、試したりしている。</p> <p>△腕の付ける位置がわからぬない幼児もいるので、教師の体を使ってどこから手が出ているか、どのような向きで、幼児によって教師が輪郭を描いたり、手を持つて一緒に描いてみたりする。</p>
<p><b>10月</b></p> <p>運動会の絵を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に運動会の絵を描く</li> </ul>	<p>・洋服を選び張り合わせる</p>



- ☆洋服・スカート、ズボンの色や形を変えて用意しておく。腕は別に作り、まっすぐ・曲がっているなど用意する。
- 洋服の色や形を楽しみながら選び、組み合わせを変えたり、試したりしている。
- △腕の付ける位置がわからぬない幼児もいるので、教師の体を使ってどこから手が出ているか、どのような向きで、幼児によって教師が輪郭を描いたり、手を持つて一緒に描いてみたりする。
- ☆洋服用紙を用意する。
- 同じ競技の絵を描きたい幼児同士がみんなで1つの絵を書き上げていく。描くことが苦手な幼児も自分の描ける所に参加することで無理なく描くことができた。
- 同じ経験をしていてもイメージや印象がそれぞれ違うので、自分が思っていないことを他の幼児に描かれてしままい、言い合いになってしまったこともあった。
- ☆楽器の見本と木の実、カップなどの材料を用意しておく。
- 興味をもった幼児が見本をみて自分なりに作り、曲に合わせて鳴らして楽しんでいたことで他の幼児にも広がり、真似をしたり、自分なりに木の実をえたり、容器を選んだりして作っていた。
- ・タペストリー作り

		<p>◇なかなかイメージが膨らまない幼児には、友達が作っている様子に気付かせたり、どんなものを作りたいかと一緒に考えたりする。</p> <p>◇ボンドの使い方、小さい木の実への接着の仕方などを知らせ、幼児の取り組みを見守ったり、幼児がイメージを実現できるように援助したりする。</p> <p>○出来上がりタペストリーを友達と見せ合ったり、飾って楽しむことができた。友達の発想に刺激を受け、遊びの中で新しく作る幼児もいた。</p>
11月	おいもほりの絵を描く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵の具やクレヨンを使って絵を描く</li> </ul> <p></p>
12月	クリスマスバッック作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・線で囲まれた空間をクレヨンで塗る</li> <li>・油性ペンで線を書く</li> </ul> <p>◇はじき絵の手法を知らせ、幼児が絵を描く時の選択肢の1つとして提案する。</p> <p>○最初にはじき絵の手法を知らせたことで、幼児が興味をもつてクレヨンと絵の具を使つたはじき絵の手法を取り入れていた。ただ絵を描くだけではなく力を入れてクレヨンを塗ることに気をつけたり、絵の具がクレヨンをはじく様子を不思議がつたりしていた。</p> <p>◇白い画用紙、さつまいも(3色)・土・空の絵の具、画面を用意する。</p> <p>◇画面の使い方を知らせる。</p> <p>◇はじき絵の手法を知らせ、幼児が絵を描く時の選択肢の1つとして提案する。</p> <p>○最初にはじき絵の手法を知らせたことで、幼児が興味をもつてクレヨンと絵の具を使つたはじき絵の手法を取り入れていた。ただ絵を描くだけではなく力を入れてクレヨンを塗ることに気をつけたり、絵の具がクレヨンをはじく様子を不思議がつたりしていた。</p> <p>◇白い画用紙に二等辺三角形を書き、左右にハート・星・丸などの模様をつける。</p> <p>◇教師の指示にあわせて模様同士を線で繋げていく。幼児がわかりやすいように絵での表示も利用する。</p> <p>○繋ぎ合わせる模様を探したり、複数ある模様のどこを繋げるかを考えたりしながら教師の指示に沿つて線で繋げていた。</p> <p>◇クレヨンで塗ることを考え、できるだけ遠い模様同士で繋げられるように言葉かけをしたり、気付かせたりする。</p> <p>◇隣同士が同じ色にならないように話をする。また、黒や茶色など使わない色を知らせる。</p> <p>○自分なりに色を考えて塗つた。最後まで丁寧に塗ることができた幼児と筆圧が弱かったり、集中力に欠けたりし、飽きてしまう幼児がいた。</p> <p>・線で囲まれた空間をクレヨンで塗る</p> <p>・クリスマスツリーに毛糸を巻く</p> <p>・クリスマスツリーの形に切った紙に入れ込みを入れておく</p> <p>○指先を使うので、毛糸を巻くことに難しさを感じる幼児がいた。</p> <p>◇毛糸を軽く引っ張りながら切れ込みにかけていくことを知らせ、一緒にやりながら出来上がったことを認めたり、一緒に喜んだりする。</p> <p>・紙袋にクリスマスツリー、星の切り紙を貼る</p> <p>・クリスマスツリーに両面テープを貼る。金色の折り紙を折つておく。</p> <p>◇両面テープを剥がすということにも指先を使うので、幼児の様子や指の使い方を見守つたり、剥がし始める場所を知らせたりする。</p> <p>○折った紙を切ることで、星の形になることや切る角度によって星の形が違う感動や驚きが幼児から聞かれた。</p>

## 1月 風作り



- ・ビニールに絵を描く

・竹ひごを印に合わせて貼り付ける

- △風がどうやってできるのか、楽しみにしながら絵を描いたり、飛ばしたときの向きを気にしたりながら絵を描いていたりする幼児もいた。
- △しっかりと留めることができるように、セロハンテープの向きに気付かせたり、少しづつ貼っていくことを知らせたりした。また、一人で留めることが難しい幼児は友達に自分から声をかけ、押さえてもらえるように援助した。
- △竹ひご同士が重なり合っている場所の近くは接着が難しいので、1つずつ確認をし、補強した。
- 「風ってこうやって作るんだ」とたこができる工程に興味をもつている幼児や「いっぱい飛ぶかな」と自分の作った風をあげることを楽しみにしながら作っている幼児の様子が見られた。

## 1月 鬼のお面作り

- ・画用紙をお面の形に折る



- ☆赤と青の画用紙を用意する。
- △画用紙が折り紙よりも硬いため、折り目をしつかりつけることが難しい幼児もいた。大きめの画用紙がだつたため、ひとつひとつ工程は折りやすそうだった。
- 画用紙を折ることに興味をもつて取り組んでいた。普段使っている素材でもその素材をどうやって使うかによって幼児の興味・関心は大きく変わる。

- ・画用紙を切って鬼の顔を作る  
(重ねて切る)



- ☆様々な色や大きさの画用紙を用意する。
- △実際にやって見せながら重ね切りの手法を知らせる。
- 複数枚必要で重ね切りが必要なもの、鼻のように1枚でいいものを使い分けることがスムーズにできる幼児とどこに複数枚必要かがなかなかわからない幼児がいた。
- 重ねて切ることで同じ形ができることに驚きや喜びを感じている。
- 円錐を作る工程では手先の動きや使い方、発達が顕著に見られた。なかなか形にできず苦戦している幼児もいた。

- やり方やコツがわかるとたくさんできていくことを喜んだり、楽しんだりしていた。
- ボンドなど接着に必要な素材の量やつけ方など自分で必要な量を考え付けることができるようになっている。
- 折り方はコップと同様だため、今までの経験で教師の話を聞きながらスムーズに折ることができていた。
- 画用紙で折ることも鬼のお面で経験しているためしっかり折り目をつけることなども意識している幼児が多くいた。

## 2月 雛人形作り

・折り紙でお内裏様とお雛様の体を作る

- ・画用紙で作った型を組み合わせ、顔や飾りを作れる
- ・台を貼る



・発泡球に色を塗り、ぼんぼりを作る



・切り紙で桃の花を作る



・トイレットペーパーの芯に布を貼る



・芯やフォトフレームにレースやリボンを付ける



- 折る位置がはっきりと決まらないか戸惑つたり、自信がなくひとつひとつ確認しながら折る幼児もいた。
- 「指を入れて開いてつぶす」ということも鬼のお面での経験があつたため、スムーズにできた。

☆髪の毛や扇子、柄などのパーツを用意する。

○髪の毛の位置や顔と体のバランスなど自分なりに考えて作っていた。

△幼児が考えてつくる姿を見守り、それぞれの考え方や工夫を認めていくようにした。

○自分でできたことを認めてもらえたことで、楽しみながら自信をもつて取り組むことができた。

- ボンドを使って貼る素材、のりを使って貼る素材が違うので、できるだけまとめて行なうようにした。素材によって接着剤を変えることが1つの作品の中で経験することができる。

☆発泡球を半分に切っておく。

△筆を使ってプライカラーを塗る時には、筆の使い方、絵の具の量など、一緒にやりながら知らせる。

- ひとつめの切り紙と一緒に作つていき、それを基に自分で折つたり切つたりできるようにした。一度の経験でできる幼児と何回説明しても一人で進めていくことができない幼児との差がとても大きい。
- どこに貼るか、どの色を使うかなど自分で考えたり工夫したりして自分でだけのひな飾りを作っていた。

- 布にボンドをのばし、端までつけることに苦戦している幼児もいたが、「年長児にプレゼントしたい」という気持ちをもつて丁寧に取り組む姿が見られた。

△3枚の布の組み合わせ方を自分なりに考えて貼り合わせていたが、巻くことが難しい幼児には布を置き、芯を転がして巻いていく方法を伝え、できるだけ教師の手を借りず、自分で作つたという気持ちや自信がもてるようになつた。

☆レースを必要な長さに切つて種類ごとに置いておく。

- プレゼントする年長児のことを考え、色や柄、種類を一生懸命考えていた。プレゼントをする相手のことを考えながらひとつひとつ丁寧に取り組むことができるようになった。

## 様々な表現を楽しむための教師のかかわり

### <2年保育5歳児>

月	活動内容	素材と経験したこと	(☆)環境 教師のかかわり 幼児の姿
4月	こいのぼりづくり	<p>○布にマスキングテープで模様をつけてローラー遊びをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色の混色を楽しむ</li> <li>・ローラー遊びを楽しむ</li> </ul> 	<p>☆20センチ×15センチくらいの白い布を1人3, 4枚遊べるように用意した。</p> <p>その布をこいのぼりのうろこにした。</p> <p>・ローラーは年少の時に使って遊んでいたが、教師がマスキングテープを貼つた上からローラーで色をつけ、はがした時に模様が真っ白にできることに感動し、「早くやってみたい」とわくわくしながら喜んで遊び始めた。</p> <p>・マスキングテープを着る所が考へていた以上に指先の作業に難しさを感じる幼児が見られた。<u>扱い方を知らせていくと</u>、慣れていき、自分でできるようになり、経験としてよかったですと感じた。</p> <p>・初めは、直線に貼つて、ローラーで色をつけてはがし、試していたが、<u>友達の出来上がりの声を知らせる</u>と、次第に線路や縞模様に工夫して貼つて楽しんでもいた。また、付けた色合いやはがした後の模様からイメージが生まれたりしていおり、<u>教師はその声に共感しながら、まわりの幼児にも伝わるよう</u>にすると、そこからさらに工夫をしたり、イメージが広がったりしており、一人一人の遊びではあるが、まわりの友達から遊びがより楽しくなっていった。</p> <p>☆絵の具は4テーブルに3色ずつおいて、自分で色合いの好きなコーナーを選んでできるようにした。</p> <p>・自分なりの色の混ざり方や色の使い方(2色にしてみたり、重ね方を変えたり)を試して楽しんできたので、一人一人が自分の布で繰り返し遊べたのがよかったです。</p> <p>・この経験とつなげて、混色でスチレン版画をする活動も楽しいのではと考えた。</p>
4月	迎える会プレゼントづくり		<p>・昨年に続き、じやばら折りペンダントをつくった。進級して間もないでの、行程の少ない、わかりやすいつくり方の物を考えた。そのことで、幼児が「何色が好きかな?」「どんな動物が喜ぶかな?」など考えて、安心して楽しんでつくることができた。教師もつくり方を伝えることよりも、幼児が気持ちをこめてつくる姿を十分に受け止めたり、プレゼントを渡すこととに期待がもてるような声かけやかかわりをしたりした。</p> <p>○じやばら折りペンダントをつくる</p>

## 5月

### 染物 (バッック)



- ・輪ゴムで巻きつけるのが上手な幼児が多く、輪ゴムを取る時にも、あまり苦戦していない様子がなかった。年少のときの毛糸の経験がつながっているのではないかと感じ、この基礎があつたことで、ビー玉をつける位置や数を考えながら楽しんで工夫してきた。
- ・出来がつた時の感動や輪ゴムを取る時のワクワクした気持ちは染め物ならではの経験であり、どんな模様も失敗がないところが幼児が出来上がりの大満足感になつていた。教師はその気持ちに共感し、感動体験を一緒に楽しんだ。また、それがプレゼントになり、お母さん方が使ってくれることがとても嬉しい様子だった。
- ・ビー玉と輪ゴムで模様をつける

## 5月

### 折り紙 (だまし舟・風車)

○つくれた折り紙で遊ぶ

○形が変化する折り方を楽しむ

- ・折り方の行程が長いので全体ではなく、興味をもつた児から伝えていくようにしたことで、出来上がった時に面白さを感じ、友達同士で伝え合う姿につながっていった。
- ・風車にストローをつけて、まわるようにしてみたことでも遊べる楽しさを味わつていた。
- ・風車・だまし舟・ヨットといろいろな形に変化することが楽しく、繰り返し折つて遊んでいる中で今までよりも少し難しい折り方も習得していた。

## 6月

### 絵の具で好きな絵を描く



- ・絵の具の基本的な使い方を知る(筆の扱い方、色を変える)という部分に丁寧に時間をかけたが、年少組で筆の扱い方は経験しているので、年長では「色を変えたい時にどうしたらいいか」「色を重ねる時は…」という2つのポイントでいいと思われるのと、『虹』の基本だけでもいいと感じた。
- ・色を重ねる基本の経験では「ケーキのクリームを塗り、フルーツやチョコレートを描くなど」もできるのではないか
- ・好きなテーマで白い大きな紙(4ツ切り)を渡すと、まだイメージが形にならない幼児も多く、少し描いて友達のを見て「もう一枚描く」という姿があつたり、何を描こうと戸惑う様子もあつた。教師も何枚も描こうとする幼児に紙を渡すことを

<p>・好きなテーマで絵の具で絵を描く</p>	<p>戸惑う気持ちにもなった。絵の具で好きな絵を味わう経験にしたいの であれば、「大きな紙でみんなで自由に描く」方がその経験になつたのではないか いだろか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな絵の描いて貼つておくことで、友達の絵を見てまねして自由帳にクレヨン でクワガタを描いたり、「また、描きたい」と話したりする様子があつた。絵は模倣や経験を重ねることでイメージが広がつたり、形になつたりしていくのではないかと感じた。</li> </ul>	<p>○木材で船をつくる(親子)</p>  	<p>☆時の記念日にちなんで、いろいろな種類の時計を廊下に飾つて置いた。 ☆自分で材料を選んで、ほしい時計をつくれるよう材料を置いておき、数字 をシールで貼れるようになります。針が動くようにワリピンを用意したりした。 ・腕時計を喜んでつくる幼児が多く、「お屋は何時から?」と時計の針を合わせ て生活の中でも時計を使って遊んでいた。遊びに取り入れられるものが幼児 にとって、つくる楽しさやつくる楽しさに大きくなつたといふ感持ちはなかった。</p>
<p>6月</p>	<p>木工遊び</p>	<p>○自分で押し花にする ・押し花でフレームを飾る</p>	<p>6月 時計づくり</p> <p>○空き箱や容器を使って好きな時計をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腕時計</li> <li>・掛け時計</li> </ul>
			<p>6月</p>

- ・鳩時計など

## 6月

### 泥粘土

(6/25, 26, 7/16)



## 6月

### 七夕飾りづくり



- また、時計や時間への関心にもつながっていた。

- ・材料を選んだり、割りピンの扱い方等友達と伝え合つてつくつている姿を見守る  
ことで、友達とのかかわりも大きかった。
- ・いろいろな時計の種類があり、イメージがわきやすく、イメージに合う材料を選ひながら、工夫してつくつていた。イメージが広がると工夫する楽しさが味わえるようだつた。

- 泥粘土に触れて遊ぶ

- 初めて触れた泥粘土に初めはドキドキしながら触れていたが、投げてみたりふんでみたり、「ツルツル」「冷たい」「重い」など一人一人の感触も様々で、自由にのびのびと触れて遊び始めた。**その気持ちは感動を味わっている姿に共感したり、十分に楽しめる時間を確保したりした。**
- ☆一人一人が十分に触れられるように5つのコーナーに泥粘土を分けておいた。
- ・触れて遊ぶことから始まり、トンネルや道、ロケット、人、イス…など様々な形に変化させて遊ぶ姿になつていった。粘土はかんたんにいろいろな形にでき、また、見立てることができることがとても楽しい様子だった。
- ・友達と一緒に場でつくつたり、道路をつけたり、宇宙のイメージを共有したりして友達と同じ場でつくつたり、遊んだりすることを楽しんだ。
- ・遊びの中での友達との会話がイメージの広がりにつながつている様子があつたので、**友達のつくつているものや遊んでしていることがまわりの友達にも伝わつてしまふにしたり、それぞれの夢しんでいることを知らせるようにしたりした。**
- ・3回目は泥粘土の固さが固すぎたり、柔らかすぎたりし、幼児が形にしづらい様子があつた。そうなつてしまふと、遊びの広がりが停滞してしまうので**粘土の扱いやすい固さを準備するにこぎが大切だと感じた。**

- ・貝殻の数えながら友達と比べたり、より長くしようとしたりしながら楽しんでつくつていた。**教師も一緒に数えてみたり、長さが感じられるように室内に飾つたりすることで飾りが増えていく喜びや美しさを感じながら、七夕飾りづくりの楽しさが十分に味わえるようにした。また、一人一人の色合いの違いを見ることも楽しい様子だつた。**
- ・折り紙に5月から多く触れていたことで、折り紙での飾りづくりを一層楽しむことができた。
- ・ちようちんや貝殻つなぎでは、**まさみの扱い方を一人一人丁寧に見ることができ**、

## ○クラスでセタ飾りをつくる



## 7月 宇宙ごっこ

### ○宇宙のイメージで友達と遊ぶ

- いろいろな素材を使ってイメージを広げて遊ぶ



## 夏休みの絵



## ○大きな紙に絵の具で絵を描く

- 大きな紙に描くことを楽しむ

- 自分の使いたい絵の具を選ぶ

個々に合わせた指導ができた。また、丁寧に切ることやつくることをねらいにすることで年長のこの時期にできることが増えたことが実感できた。

・大きなセタ飾りづくりでは、**クラスで色合いやできることを考える話し合いの時間**をもち、みんなで話し合って決めて大きな飾りをつくる経験になるようした。

・「一緒に」「つなげよう」「力を確かめよう」など友達と分担したり、協力したりすることは初めての経験ながら、つくり進めていく中で「僕たち、遠くできあがるよ」「みんな、あと4本だよ」など友達と力を合わせてつくる楽しさを感じることができた。「○くんのどつないけたら、もつと長くなるね」と教師は、友達に必要とされていることと一緒につくることにより長くできたり、大きなものが出来上がりする達成感を味わえたりするように言葉かけした。

・ロケット飛ばして遊んだり、段ボールで宇宙基地やロケットをつくったりして空き箱や段ボールなどイメージを形にしたり、なりきって遊んだりすることを楽しめるようにした。

・気の合う友達と同じものをつくって楽しんだり、「ここは女の子星です」と場をつくつて遊んだりして数人の友達とイメージや場を共有しながら遊んでいた。その中で「隕石だ」とイメージを広げて遊んだり、「ドアがないからつくろう」と必要なものを考えてつくって遊んでいた。

・まだ、イメージを形にすることが難しかったり、友達とイメージがつながらなかったりするので、**幼児が話してたことや前日の続きで遊べるように場を用意したり、音楽をかけたり、部屋を暗くしたり、イメージに合う段ボールを用意したりしておくこと**で、友達と誘い合って遊んだり、相談しながら遊んだりする様子が見られた。

☆ホールの床にタイベックス(白)、ラシャ紙(黒、水)を3カ所に置く。  
☆絵の具をペットボトルに溶いておく。牛乳パックの入れ物と太さの違う筆をそれぞれ用意しておく。

・夏休みの絵験をそれぞれに伸び伸びと描く姿が見られた。一枚の画用紙に描く時は違い、好きな色の絵の具を選び、好きな場所で好きなものを描くという、とても自由な雰囲気の空間になつた。夏休みの思い出を語りながら振り返る子供たちに

対して、教師側も余裕をもつてかかわることができた。一枚の画用紙だと、たくさんの経験の中からどれか一つを選ばなくてはならないが、今回は花火の絵を描いたり、海の絵を描いたり、旅行の絵を描いたりと場所を自由に移動できたので、幼児の「全部の思い出も描きたい」という気持ちを十分に出し切ることができたのではないかと思う。



- 画用で顔のペーパーをつくる(顔・首・胴・手・足)  
・体のバランスに気付かながらつくる  
○割りピンで留める  
・体の部分のつながりに気付く



## 9月 自分の全身を紙でつくる

- ☆顔、手、胴、腕、足 それぞれの大きさの画用紙を用意しておく  
・手は自分の手の形を鉛筆でかたどり、切る。顔もほぼ自分と同じ大きさ。  
・それ以外の腕や胴、足は体のバランスを気づかせながら、つくっていった。  
・できたらバーツを割りピンでとめたり、のりで接着したりする。  
○一つ一つのペーパーをつくる過程ではあまり感じられなかつたが、割りピンでそれを留めてつなげると「本物のからだみたい!」「おもしろい!」とつくった人に動きが生まれたことを楽しんでいる様子がうかがえた。  
・一学期の時計づくりで割りピンに触れていたので、要領をつかむと、自分で行う姿が多く見られた。(経験を重ねることが大切)

- おじいちゃん、おばちゃんにメッセージカードをつくる  
○得意な折り紙を折る  
・相手のことを思しながらつくる



## 9月 敬老の日 (メッセージカード)

- ☆折れるようになつたり、得意な折り紙を折つてカードを作つた。個人差が見られるが、太分細かい部分も折れるようになつてきていた。作品のために折り紙に触れるのではなく、普段から遊びに使つる折り方(ハート、パックンチヨ、やつこ、財布など)により多く触れ、親しめるようが継続した教師のかかわりや保育計画、環境設定が必要だと感じた。

- 正面テープをつけた土台に木の実を飾る  
・いろいろな自然物に触れる  
・組み合わせを樂しいながらつくる  
○おがくずをまぶす



## 10月 木の実の飾り

- ☆画用紙、おがくず、木片(丸くスライスされたもの)、野菜チップ、押し葉、小豆、種、小枝等、乾燥させた植物、両面テープ、ボンド  
・夏季実技研修で学んだ技法を保育に取り入れた。  
・教師自身が研修で感動した経験が保育に大きく影響した。  
・大人以上に子供たちの素材の組み合わせや並べ方は斬新であった。「何でもあり」という状況が想像を豊かにし、満足いくまで素材に触れていた。教師も子供たちの自由な想像に寄り添いながら、「その形おもしろいね」「どんな模様になるかなあ?」など会話をして活動を進めていった。  
・おかげで全て隠してしまうという技法が、子供たちにとって不思議だったよう

<p>・浮き上がった模様を楽しむ</p>	<p>10月 運動会の絵</p> <p>○画用紙に運動会の絵を描く(四つ切)</p> <p>・運動会の思い出を絵に残す</p>	<p>☆画用紙(四つ切)、クレヨン</p> <p>・年少児に比べ、印象に残っている場面がはっきりしており、運動会を思い出しながらそれぞれに描く姿が見られた。</p> <p>・ただ、正直などろ経験の絵を書く難しさ(子供の記憶、運動会を経験をしたことだけ満足しているのではないかという疑問、思い出を絵として残そうとする教師(大人)の意図)が入り混じっていた気がする。</p> <p>・子供の表現を十分に受け止めないと意識しているものの、「空はどうだった?」「周りには誰がいたかな?」「何色の帽子をかぶっていたかな?」など「それらしい絵」になるような言葉掛けをしてしまいました。絵画表現の難しさを感じた。</p>	<p>☆A1の画用紙を13枚ずつつなげ、2枚つくる(人数分の枚数)、クレヨン、絵の具</p> <p>・夏休みの絵の経験から、大きな紙に描くことへの楽しさや期待が感じられた。</p> <p>・絵を描き始めると、「友達と同じように描かなくては」と感じている幼児が多く見られた。「伸び伸びと」「という姿より、「描かなくては」という気持ちの方が強く見られた気がする。地中のもの(サツマイモ)を掘っている自分の絵を客観的に描くのは難しいような気がした。</p> <p>・夏休みの絵を描いた時の違いは、夏休みの絵は一人一人経験が違うので、「夏休みの絵」というテーマの下、それぞれが自分の絵を描くことができた。一方、お芋ほりの絵は「お芋ほりの絵」というテーマのもの、「お芋ほり」の絵を「描かなくてはいけない」という活動になってしまったため、どこか表現を制限されるような「正解を探すような幼児の戸惑い(教師も同様)が感じられたように思う。</p>	<p>☆段ボール、素材(紙類、カッป、毛糸、ストロー、木の実など)、絵の具、接着剤</p> <p>・昨年の経験がとても大きく、「遠足に行つたら、僕たちでも動物園開くんでしょう!」と動物園ごっここの活動を見据えたスタートとなつた。</p> <p>・動物の形になるように段ボールを組み合わせたり、いろいろな素材を付けたりして製作を進めた。友達と「これにしよう」「いいね」「こっちのほうがいいよ」などと、</p>
	<p>10月 お芋ほりの絵</p> <p>○大きな紙にお芋ほりの絵を描く(絵の具・クレヨン)</p> <p>・お芋ほりの思い出を絵に残す</p>	<p>10月 お芋ほりの絵</p> <p>○大きな紙にお芋ほりの絵を描く(絵の具・クレヨン)</p> <p>・お芋ほりの思い出を絵に残す</p>	<p>10月 動物づくり</p> <p>○ダンボールで動物をつくる</p> <p>○絵の具で色を塗る</p> <p>○いろいろな素材を組み合わせる</p>	<p>11月 動物づくり</p> <p>○ダンボールで動物をつくる</p> <p>○絵の具で色を塗る</p> <p>○いろいろな素材を組み合わせる</p>

- ・友達と一緒に一つの作品をつくり上げる楽しさや嬉しさを感じる
- ・自分の思ひを出したり、友達の思ひに気付いたりしながら取組みを進める



- ・共感したり、時には考え方を衝突させたりしながら完成に向けてつくる姿が見られた。
- ・動物の完成度や活動の意図をどう設定するかで、教師のかわりが大きく変化するよう感じた。教師側も、動物づくりに関する「幼児に気付いて欲しいこと」「教師が気付かせたいこと」を明確にして取り組む必要があると思う。
- ・6年生との連携活動では幼児だけでは思いつかないアイディアをもらうことができ、動物づくりがさらに進んでいった。かかわり方としては、少し受け身がちで「やつてもらう」形になってしまったのは課題だと思う。

## 絵画

- ・モースクール
- ・クリスマス

- ・これまで自由画帳の使い方にについて課題をあげていたが、絵を描く経験そのものが少ないと実感した。教師から意識的にテーマ(今回なら「モースクール」の絵)「クリスマスの絵」)を出して、絵を描くきっかけをつくる必要性を感じた。
- ・自由画帳よりも画用紙(普通紙でも)がいつも置いてあり、自由に使える方が幼児が「描きたい」と思った時に描けるようだと思った。

## クリスマスバッグ

- いろいろな素材を使ってクリスマスバッグをつくる
- ・サンタさんが来るのを楽しみにしながらバッグをつくる



## たこづくり

- ・画用紙にクリスマスのモチーフを描いたり、タンポをしたり、マスキングテープや画用紙を切ったものを貼り付けたりする
- ・これまで扱ったことがあるものを使用したので、子供たちが自分のイメージに合わせて素材を使っている様子が合った。
- ・絵を描く幼児、画用紙を貼る幼児、マスキングテープを組み合わせる幼児など、それぞれが自分だけのバッグを作ることができるので、愛着をもつてクリスマスを楽しみにすることができた。
- できあがつたバッグは怒に飾り、友達同士で見せ合えるようになした。**
- ・新しい技法やつくり方を紹介し、つくってみることも大切だが、これまで経験したことなどを生かして製作を重ねていくことも大切だと感じた。
- ☆好きな色のビニールを選んで自分で好きな絵を描けるようにしておく
- ・絵を描くことの楽しさを感じはじめていた時期だったので、喜んでどんなにしようか考えて、描き始めた。
- ・友達と一緒にこづくりを楽しんでいるが、自分なりに描きたいやイメージがあり、それを自分なりの色合いや構図でじっくり描いていた。同じテーマで(例えば、女の子やクワガタなど)描いていても、自分なりに描いている様子があった。

## 12月

## 12月



- ・ビニールにマジックで絵を描く
- ・ひもを結ぶ

いろいろな絵が出来上がる面白さに共感し、友達の描いたもののよさを感じたり、自分のつくったこに愛着がもてるようになりした。  
色合いを工夫したり、本物らしく描きたいをいう気持ちが強く見られるようになっていました。  
結ぶことが経験を重ねて上手になり、タコ糸を上手に結べるようになっていた。

### 1月 紙版画（鬼）

○鬼の原板をつくる  
・画用紙をイメージした形に切って貼る

○印刷する  
・用紙を入れたり、重ねて貼ったりするなどこれまで経験したこと生かしてつくり進めていたのでいろいろな素材に触れたり技法を知つたりしたことが、児童の中に溜め込まれているのだと感じた。



### 1月 雪の結晶づくり

○＊の形に毛糸をまきつける  
・いろいろな色の毛糸を用意し、色を変えて楽しめるようにする

・マフラーづくりの経験から指先を細かく動かしたり、毛糸の扱いが上手にできるようになっていました。

一本ずつ抜かさないように集中して進めており、きれいに仕上がることに喜びを感じていた。



## 2月 おひなさまづくり

○雛人形や屏風、小物をつくる

- ・紙粘土や発砲球、和紙、折り紙、毛糸などさまざまな素材を使ってつくる。
- ・いろいろな素材の使い方を知らせてると、「そうやってできているんだ。やつてみた  
い」と意欲が見られ、これまでの経験を経て、つくることの楽しさを十分感じてい  
るようになった。そのことで、集中してじっくり取り組んでおり、「つくる楽しさ」が  
育つたことが丁寧につくつたり、自分の力で工夫してつくつたりする姿につながっ  
ていると感じた。
- ・出来上がるまでに工程が長いが、4日間程度に分けて少しづつ進めていくことで  
だんだん出来上がりがついていくことを楽しみに進めることができた。幼児にとって  
見通しがもちやすい、製作計画、過程を考えることも大切だと感じた。
- ・つくり方を理解して自分なりにつくり上げていくことができるように、材料をわかり  
やすく分けたり、工程を示したりした。



平成28年度

## 研究集録

テーマ「異年齢とかかわりを深めるための指導計画の工夫」

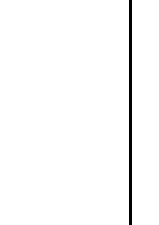


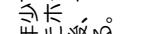
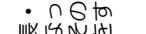
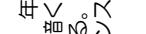
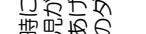
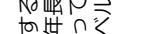
上尾市立平方幼稚園

## 平成28年度 年間異年齢交流活動

### 年長 2クラス(26名) 年少 1クラス(20名)

日程	活動	内容	活動の写真	形態	年少の様子	年長の様子
1 4/18	年長児と一緒に園庭めぐり	年長児が年少児に遊具の約束を教えた り、一緒に遊んだりする		ペア①	まだまに、落ち葉がない時期ではある が、年長児が手をつないで教えてくれ ることで、約束をよく聞いている様子 もありた。ペアによつて年長児の負 担も大きいかもしない。	初めてのペア活動に初めは戸惑いを感じて いたが、幼児なりに一生懸命遊び方や約束 を伝えよううとしたり、年少児の話を聞きな がら一緒に遊んだりしていった。
2 4/28	年少組みを迎える会	迎える会の中でペアで一緒にリズムを したり、年長から年少にプレゼントを 渡したりした。		ペア①	年長さんと一緒に参加するということで普段より も落ち着いて参加していた。年少トントーでは 年長さんからの手作りプレゼントがとても嬉しい 様子だった。また、リズムではたくさん笑顔が見 られ、みんなでできるリズムがたくさんあるとい いと感じた。	緊張している年少児を気遣つたり、話しか けたりしながら一緒に楽しんでいた。プレゼントも喜んでもらえ、嬉し かったようだった。
3 5/17	一緒に弁当を食べる	年長組の部屋でお弁当と一緒に食べる		ペア①	ペアを組んで一緒に食べることで 親しみをもつたり、また、あの子 と遊びたいという気持ちになつて いたようだ。ペアを組んで食べた ことがよかったです。	年長組の部屋の説明をしたり、同じおかず に喜んだりしながら楽しくお弁当を食べて いた。なかなか会話が弾まない幼児もいた が、教師がきっかけ作りをすることで、少 しずつ話すことができるようになっ た。
4 5/27	一緒に弁当を食べる	下校庭への散歩を予定していたが、雨 のためホールでシートをひいて、ペア と一緒にお弁当を食べる		ペア②	続けて食べる機会があることで、それ が楽しみになっている様子がある。前 回と違うペアであつても、年長児と ホールという特別な場所で食べる楽し さを感じていた。	ペアの年少児にシートで食べる時の準備の 仕方や食べる時の姿勢など教えてあげようと する姿が多く見られた。ペアを変えたこ とに戸惑う様子も見られた。前回の ペアのままのほうが会話も弾んだかもしれない。
5 5/31	下校庭へのお散歩校庭と 園庭遊び	下校庭から小学校校庭へお散歩に行 き、そのまま小学校校庭と園庭で遊び		ペア②	今回は遠足に向け、並んで歩くというのが大事な経験につ いたが、年長児と一緒に経験することで、教師が注意すること が多い、楽しんで散歩することができた。年少だけでは 行つたかもしれない、「ちゃんと並んで歩くこと」を重視してし まつたかもしない、「今日は一緒に長く過ごした」と「運 われのお兄さん、お姉さん」という存在になった幼児も見ら れた。	年少児にシートで食べる時も元氣 に歩いてくることができた。また、ク ラスの友達よりもトラブルも少なかつ た。
6 6/17	園外保育（丸山公園）	丸山公園からの帰り道、一緒に手をつ ないで歩いて幼稚園まで帰る		ペア②	年長児が一緒に帰りに手をつないでく れただけで、疲れが出てる帰り道も元氣 に歩いてくることができた。また、ク ラスの友達よりもトラブルも少なかつ た。	疲れている年少児の手を引き、「もう少し だよ」「大丈夫？」などどこかで掛けたり、 話や歌で楽しく歩くことができるように気 遣つたりする姿も見られた。

7 7/11	カレーノバー <sup>ティー</sup>	年長児の調理（ニンジンを切る）の様子を見たり、お皿を3クラスの教室に分かれてペアで一緒に食べれる	ペア③	調理の様子を見ることで「すごいな」「やつてみたいな」というあこがれの目でじっと見ていた。この特徴になると、自分たちの活動とは違う、年長児の活動への興味や関心、憧れが出てきていった。	自分たちが調理したこともあり、野菜が苦手な年少児に対して「食べてみたら美味しいかもよ」「ひとだけ頬張つてみたら?」などと励ましている姿があった。まさに年少児から「美味しい」「ニンジン切るの上手だね」などと褒めてもらうとともに嬉しそうにしていく。
8 9/6	泥遊び	泥遊びが十分にできる時間と場を確保し、同じ場で楽しめるようにする			同じ場で遊びが中で、自分の知っている遊びを教えてあげながら一緒に楽しんだり、年少児の遊びに参加したりしてやりとりを楽しんでいた。
9 10月	異年齢競技 玉入れ	運動会種目として、異年齢玉入れを行い、紅白のチームを組んだり、一緒に練習したりして遊び			年少児にとっては、年長児のリレーに興味がある年少児が多く、運動会前から一緒に遊んで楽しんでいた。玉入れが同じ場で一緒に遊ぶことによってそれができるようになり、何か年少児の年長児がチヨコチヨコと走り回る姿が可愛らしくて、互いの遊びが重なることがわかった。
10 10月	運動会後の遊び	運動会であこがれたりーやダンスを教えてもらったり、一緒に遊んだりする			ダンスやリレーは、運動後の異年齢のかかわりの深まりにつながった。あこがれたりーと一緒に遊びを一緒に楽しめた年長児にとっては、年長児とのかかわりが自然と多くなった。年少児は、年長児の遊びにはついいていくことばかりだった。教師も年長児に遊びを進めるこどを任せ、見守るように心がけた。
11 11/17	4年生 遊び交流	4年生との遊び交流の際、年長と年少もグループを組み、そのグループを4年生と合体し、異年齢で一緒に遊び（ドッジボール・縄跳び・だるまさん・竹馬）	グループ		ペアの機会が多かったことで、同じクラスの中にペアがない年少児と一緒であることにだけで十分安心している様子だった。織の交流が強くなかった年少児が、一緒に遊ぶことで、年少でも一緒にできることが自然とあります。また、友達と一緒に自分ので行きたい動物の所で積極的にかわって遊んでいた。幼児同士でやりとりを自然な形で楽しむためには、これまでに年長児とのやりとりが積み重ねられてきたことでも大きいのではないかと感じた。
12 11/21	動物園ごっこ	年長児がつくった動物園に年少児が招待してもらいう（年長児からチケットをもらう）			「どうやってつくったんだもう?」「すごいね」など「年長さんってすごいな」という気持ちは強くなかった様子だった。また、友達と一緒に遊ぶことで年少児が十 分に楽しめた。年少児の年長児を抱っこしてあげたり、目を合わせていい動物の秘密を話したりしていった。「次は〇〇してあげたい」という願いも胸かげ、2回時間設けられたことで十分にかわるることができるようになった。
13 11/29	誕生会 言葉あそび	4人グループで言葉遊びを一緒に楽しむ（乗り物の名前・赤い食べ物などを一緒に考え、グループ対抗ゲームをする）	グループ		年少児との混合ペアといふこともあり、張り切つている初児がとても多かったが、張り切りすぎた年少児の思いに耳を傾けられない年少児もいたが、年長児しか思いつかないアイデアを開いて楽しむことでいい機会になつたと感想の、今後も取り入れていくといいのではないかと思う。

14	12/13 点灯式（12/19ダンス）	点灯式に参加する時に、年長・年少でペアを組み、年長児が暗くなつたホールに連れていってあげる。その後、と一緒にシングルベルのダンスをする。	ペア		初めて点灯式に参加する年少児を案内するということで、一緒に参加する内容だったが、こういった小さなかかわりになつていくことよりも大切な年長児と顔見知りになっていくことほど思つた。ダンスも年長児によることでより、リズムを楽しめたようだと思った。(仲良くなつた年長児と説いて、ペアを組んでいる幼児もいた)。
15	1月 お正月遊び	いちご組を開放し、かるたやおはじき、トランプ、すごろくを異年齢で一緒に楽しめる場にする			まだまだ遊び始めてあるため、年長児に教えてもらひうどいうのは難しい。この時期は「お正月遊び」など興味を持ち、同じ場で一緒に遊びを楽しむ「年少児」として仲立ちしながから、遊びが楽しめるようにすることが必要だと感じた。しかし、トランプや双六など年長と一緒にすることによって年長の友達と一緒に遊ぶ異常に面白さを感じることができた。
16	1月 お正月遊び	いちご組を開放し、おはじき、こま台を置いて、一緒に楽しめる場にする			いちご組に設定してあっても、なかなか年長児と遊びが合わせられず、クラスの友達と一緒に遊んでしまった。何度か機会があつたときには、すぐに混ざり、その点で難しいグループも多かつた。折り紙を折つたり、トランプを教えたり、子供たち自身は初めての3年生とのかかわりも楽しんでいた。
17	1/26 3年生 室内遊び交流	3年生・年長・年少の縦割りのグループをつくって、幼稚園で遊び（トランプ・しきりとりなど3年生が考えた遊びをした）	グループ		3年生の遊びがあまり定まつていなかつたうまい始められない様子があつたり、その点で難しいグループも多かつた。折り紙を折つたり、子供たち自身は初めての3年生とのかかわりも楽しんでいた。
18	2/8 戸外遊び交流とお弁当	ドッジボール、ドロケイ、大縄の3つのコーナーに絞つて、好きな遊びで遊び	ペア④ お弁当はペア④		普段している遊びであり、年長児にあこがれたドッジボールだったの、よりスピード感を感じ、一緒に遊びに来ており遊びしさを感じていた。ただ、大縄は他の2つに比べてかわりが少なく、年少が多かつたので、個々の遊びになつてしまっていた。
19	2/24 一緒にお弁当を食べる	インフルエンサの流行で予定していたクッキングを変更してお弁当を年長組2部屋で食べる。お弁当後少し遊び（バスル・絵本・トランプなど）	ペア④		年少は年長にプレゼンつくりを始めたので、そのままで横並びで一緒に遊ぶことなどができた。子供たちと一緒にできる遊びもつ正在する子を決めてプレゼンつくりをしていて、その子と一緒に食べるにこが嬉しい、会話を弾んでいる。同じ月に2回、お弁当を一緒に食べられたことでより多く、年少が多かつたので、一緒に食べられたお母さんたち、絵本を読んでもよかったです。
20	3/10 お別れ会	年少が司会、飾り付け、プレゼンつくりなど自分たちでできることを計画したり、考えたりし、楽しそうに遊ぶ、お昼もホールで食べる	ペア④		年長さんと一緒に遊びたい、何かゲームをしたい、ご飯を食べたいという思いを基盤に子供たちと一緒に計画していくよく雰囲気をつくるようにした。子供たちと一緒にできる年少は年長が主となることが多く、「年少見が一生懸命進ようとする姿に「年少さんすこいね」と感心している。手作りフレゼントも「机があるから飾ろう」「鉛筆が入るね」と喜び、とても大切そうに教師に見せたり、友達と見せ合っていた。

平成29年度

## 研究集録

研究テーマ 幼児の興味・関心を広げ、充実した生活や遊びの実現を目指して  
～計画的な継続視聴を通して～



上尾市立平方幼稚園

## <2年保育4歳児>

## テーマ 生活習慣を身につけるために

時期	教材名	作者	教師の思い	幼児の様子
4月下旬	おべんとう なあに？ <絵本>	山脇 恭	・お弁当開始を前に、お弁当がが始まることに期待がもてるようになると読み聞かせを行なった。偏食の幼児が多いので、自分のお弁当への楽しみと食への興味の広がりになるきっかけになつてほしい。	・自分が入っているか、一緒に物が入っているかなど興味をもち、教師に知らせたり、聞いたりする姿が見られた。
5月中旬	がんばれ はぶらしハーマン <絵本>	木村 裕一	・1日保育にも慣れ、歯磨き指導を始めるときに、歯磨きの大切さ、歯磨きへの興味をもつてもらえるようにと考え、読み聞かせを行なった。	・歯磨きしながら「ハーマーン！」と呼んだり、「こうやって磨くんだよね」と思い出しながら磨いたりする姿が見られる。 ・絵本をとても気に入り、「これ読んで」ともつてきて繰り返し楽しんでいる。
5月下旬	ナンタン ぶらんこのはなし <絵本>	キヨノ サチコ	・戸外遊びが増えてきて、順番を守ったり、友達が使っているものを「貸して」などのやりとりができるようになって欲しいと考え、幼児が親しみやすいソントンの絵本を選んで読み聞かせた。	・絵本を知つている幼児が多く、一緒に「ノンタン ブランコのせて！」と声に出して楽しんでいた。 友達が使っているときには「貸して」と伝えることを使いたい友達がいる時には順番に使うということは理解している幼児が多かったが、実際に遊び始めるとなかなか交代や順番に使うことができない。
6月下旬	おともだちになつてね <絵本>	岡本 一郎	・友達への興味が出てきた幼児が増え、同じ場で遊ぶ中でやりとりをしたり、友達のしていることに興味をもつたりする姿が見られるようになつたため、絵本でも取り入れた。友達の存在やかかわりのきっかけになつてほしいと考えた。	・「みんなで一緒に食べるとおいしいよね」「くまさん優しいね」など一人よりもみんなで一緒に楽しいという気持ちをもつた幼児がいた。 友達を意識するというよりも「優しくしてあげよう」という意識や思ひが感じられるようになつた。
10月上旬	ななちゃんのおかいたづけ <絵本>	つかね ちかこ	・園生活や遊びに慣れ、遊びが活発になってきたが、片付けがいい加減になっている様子があり、「綺麗に片付けようね」などの言葉掛けよりも視覚的に知らせていくことが効果的ではないかと考え、取り入れた。	・片付けをしているときに、場所や片付け方を無視してしまう幼児に対し、「おもちゃが出てきちゃうよ」「ここじゃないって怒るんじゃない？」など絵本を利用して友達に聞いてあげようとする。一人ひとりが少し片付けに対して意識をするようになつてきている。
10月下旬	くれよんのくろくん <絵本>	なかや みわ	・友達に対する意識の高まりとともに、「何で〇〇ちゃんは口口できないの？」「お話できないのは赤ちゃんなの？」などの疑問が聞かれるようになり、「一人ひとり違う」ということ、互いを認め合えるようになつて欲しいと思い、選んだ。	・「くろくんすごいね」と感心すると同時に、くろくんが真っ黒にした引きかき絵に興味をもち、自由画帳で練り返し楽しんでいた。 「互いを認める」ということは難しかつたが、クレヨンの黒を通して、新たな魅力を発見するという経験ができた。

時期	教材名	作者	教師の思い	幼児の様子
12月上旬	〈絵本〉 きもち	谷川 俊太郎	・友達とのかかわりが深まっている中で、自分の思い が優先になってしまいトラブルになったり、相手の気 持ちを考えられず傷つけてしまったりすることが多い。 絵を見て様々な気持ちを一緒に考える中で、自分と 友達の気持ちの違いに気付いて欲しい。	・1ページ1ページ進めるたびに幼児がそれぞれ イメージをしながらどう感じるかを考えていた。 自分の気持ち、友達が感じる気持ち、話をしたり 聞いたりする中で互いに「それもある」「そうだね」 と気付いたり共感したりしていた。
1月下旬	〈絵本〉 うそ	中川 ひろたか	・「うそ」って悪いことばかりなのかななどいうことを 考えるきっかけとして、「うそ」ってどんなな時につ かのを一緒に考え引き受けにいたいと考え た。	・少し難しかったようだったが、「いやあ、〇〇は いいそ？」「〇〇はどうなんだろう？」と考え たり、友達がうそをついた時に「今のは悪い そだ！」と話したりする様子が見られた。
2月中旬	〈絵本〉 ないた	中川 ひろたか	・「泣く」のはどんなときなんだろうというのを絵本 を通して一緒に考えてみようと思い、読み聞かせ をした。	・「ママも嬉しい時泣くよ」「先生も！」など身近な人 の悲しい涙だけでなく、嬉しい涙を思い出したり、 泣く時は悲しいときだけじゃないんだと改めて感 じたりしている様子があつた。 泣くことはいけないことではないと感じている幼児 もいたようだつた。
3月上旬	おおきくなるつていうことは 〈絵本〉	中川 ひろたか	・年長組になる前に一年間を振り返る気持ちを込 めて、自分の成長、また新たに入園する年少組 のお兄さん・お姉さんになるという気持ちがもてる ようにと読み聞かせをした。	・靴や洋服などが小さくなつたこと、歯が生え変わつたこと のように自分の体のことを振り返つたり年少さんに優し くするよ」「色々教えてあげるんだ」など年長組への意欲 につながつたりした。 「おおきくなるということは」という繰り返しは幼児に心地 いい響きだったようで、幼児も繰り返し言葉にしていた。

#### 〈園内研究を通して〉

- ・1年間、どの時期にどのような絵本を読み聞かせることが効果的であるかを改めて考えることができました。今回は、生活習慣をテーマとして、幼児の実態や  
クラスの様子を見ながら教材を探していくことの難しさ、テーマに沿ってはいても内容が難しいなど今まで以上に事前に自分自身が絵本と向き合い、選んで  
いくことができました。教師の思いがあつて選んだ絵本ではあっても、読み聞かせてみると幼児には教師の思いとは違う感じ取り方があることも改めて感じ、  
教材選びや伝えることの難しさも実感しました。
- 4歳児の読み聞かせでお話を楽しむことではなく何かを伝えたい時には、話が簡潔で、繰り返し同じ言葉が出てきたり、短い文章で一緒に考えたりするもの  
の方が心に響きやすかったり、幼児の印象に残つたりすることを感じたので、今後の絵本選びに生かしていきたいと思います。

## 〈2年保育5歳児〉

## テーマ 幼児の食に対する興味や関心を深めていくために

時期	教材名	作者	教師の思い	幼児の様子
4月中旬	【絵本】おべんとうばこのうた	ひさかたチャイルド さいとう しのぶ 構成・絵	・園生活の中で、お弁当の時間を楽しみにしている幼児が多い。食事をすることに対してさらに関心が高まるよう、新年度のお弁当開始に合わせて読み聞かせを行った。	・絵本の文章が歌「おべんとうばこのうた」であることに気付き、友達と歌を見合せながら喜んだり、口ずさみながら絵本を見たりしていた。 ・お弁当の時間にも本の内容を思い出した様子で、自分のお弁当に入っているおかずを歌のフレーズに合わせながら嬉しそうに歌っている幼児もいた。
7月上旬	【絵本】パパカレー	ほるぷ出版 武田美穂	・7月の「カレーパーティー」に向けて興味・関心をもつてほしいと考え読み読み聞かせを行った。カレーパーティーでは調理体験が予定されていたので、カレーが出来上がるまでの工程が具体的に描かれている絵本を選ぶことにした。	・絵が大きく、言葉が少ないのでこの絵本の特徴である。幼児を見て自ら気付いたことを言葉にして、「僕もおうちでジャガイモ切ったことある」と経験を思い出したりする姿が見られた。 ・中にはカレーが出来上がるまで「こうやってつくるんだね！」は初めてだった幼児もあり、「明日(カレーパーティー当日)おいしそう」と興味をもち、「明日(カレーパーティー当日)同じ材料でつくるの？」、「早くお料理したいな」と行事に期待をもっている様子がうかがえた。
11月下旬	【絵本】かこさとしのたべものえほん1 ごはんですよ おもちですよ	農山漁村文化協会 加古里子・文 中沢正人・絵	・12月に行われる「もちつき」に向けてこの絵本を取り上げた。単につくられたもの・出来上がったものを食べるのではなく、料理に使われている食材がどのようにしてつくられ食卓に届くのかを知るきっかけにしたかった。	・「もちつき」の行事に向けて話をする中で、「もちとは何からできているの？」という教師からの問い合わせに、「お米(もち米)」と答えたが、「お米はどうやってつくるの？」という問い合わせには戸惑つたり、「分からないと答える幼児が多かった。一粒の米から数百の米ができるんですよ、できた米もそのままではなく皮をむいて(精米)食べることなどを教えると、「すごいいいいっぱいだね」「うそなんだ」と驚いた表情で話を聞いていた。 ・その後のお弁当の時間では「このおにぎりは何粒入っているのかな?」「おもちはどれくらい(米粒が)入っているのかな?」「どくどく」という食材に興味をもっている会話が聞かれた。
通年	【ポスター】元いよいよまんべんポスター	ベネッセコーポレーション こどもちゃんじ 幼児のまなび応援団	・日常的に幼児の目が届きやすい保育室(ままごとコーナー)に年間をとして掲示しておき、食材や料理に関心をもつきっかけにした。	・はじめは特に気にする様子は無かったが、徐々におまごとコーナーにある食べ物とともにものを見つけて「ピーマンあつた」「目玉焼きもあるね」と照らし合わせながらポスターに目を向ける幼児が増えていった。 ・エプロンシアター・や絵本を通して食べ物の働き(赤・黄・緑)について知ると、お弁当を食べながら「おにぎりは黄色だね」「ハンバーグは何色(の)はたらき(の)だろ?」「今日は緑が少ないな」と栄養に注目しながらポスターを見ている幼児も多くなっていました。
1月中旬	【エプロンシアター】中谷真弓先生の 食べものいっぽいエプロンシアター	学研 中谷真弓	・これまで行事に合わせて教育指導を行うことが多かつたが、一方で偏食がちな幼児が多いこともクラスの課題であった。そこで食べ物の働きについて気付かせ、バランスよく食べることの大切さを知らせたいと思い、エプロンシアターを行った。	・絵本とは違う教材ということもあり、幼児の関心がとても高く感じられた。 ・初めは食べ物の働き「赤・黄・緑」について理解が難しい幼稚もいたが、「ご飯を食べると元気が出る」「牛乳を飲むと骨が強くなる」「野菜を食べると体がきれいになる」といった日常生活で耳にしたことを重ねながら少しずつ理解を深めている様子だった。 ・幼児には「バランスよく食べる」ということを言葉だけではなく、視覚的教材も用いて知らせしていくことが有効的だと感じた。

時期	教材名	作者	教師の思い	幼児の様子
1月下旬	【絵本】 げんきをつくる食育えほん1 たべるのだいすき！ みんなげんき	金の星社 吉田 隆子・作 せべ まさゆき・絵	・エプロンシアターをきっかけに食べ物の栄養や動きについて関心が高まった。「バナナうんち(健康な排便)をするにはバランスよく食べることが必要」ということを伝えていた。はじめは「うんち」の響きに笑いが起きていたが、食事と排便に深い関係があることを理解し始める、「たまにベチャベチャうんちが出る時もあるよね」「野菜食べるといつてママが言つてた」など、それぞれの経験を語り始める姿もあり、体や食について関心をもつている様子がうかがえた。	・第一巻は主に食べ物が体の中に入つて消化される様子が描かれていた。「バナナうんち(健康な排便)をするにはバランスよく食べることが必要」ということを伝えていた。はじめは「うんち」の響きに笑いが起きていたが、食事と排便に深い関係があることを理解し始める、「たまにベチャベ
2月上旬	【絵本】 げんきをつくる食育えほん2 じょうぶなからだをつくるたべもの あかのえいのうのなかまたち	金の星社 吉田 隆子・作 せべ まさゆき・絵	・そこで、「赤」「黄」「緑」の食べ物について深く掘り下げ、さらに関心を深めていくことにした。これまでに一冊ものの教材を扱うことが多かったが、今回は5冊シリーズの教材を扱うことで、興味や関心が持続していくことをねらった。	・第二巻から第4巻まではこれまでにも多く触れてきた「赤・黄・緑」の栄養について、より深く知るきっかけとなった。「赤」の栄養について「体のもとになる食べ物」ということを伝えると、「筋肉になるよね」「牛乳は骨の基なんだよ」多くの幼児が話していた。また、肉が食卓に届くまでを描いた場面では「僕たちが食べるため牛さんとか豚さんが死んでくれるんだよね」とぶやいている幼稚の姿は印象的だった。普段は当たり前のようになっていたりするものも、改めて考えてみるとどうではないことが多く、幼児がどこまで深く考えているのかはわからないが、「生活を振り返る」いう点ではよい機会になったと思う。
2月上旬	【絵本】 げんきをつくる食育えほん3 びょうきからまもつてくれるたべもの みどりのえいのうのなかまたち	金の星社 吉田 隆子・作 せべ まさゆき・絵	・このシリーズは食材に関して、生産される様子、さまざまな調理方法、栄養など、多岐にわたって描かれている。あらゆる視点から幅広く食材を見つめ欲しいと思い、取り上げることにした。	・「緑」の栄養について、「緑=野菜」というイメージが幼児の中でも強く、印象に残った様子だった。驚いたのは偏食気味の幼児が絵本を見た後のお弁当の時間に「緑の食べ物が入ってる」「(緑の食べ物も)食べないと赤と黄色の食べ物だけになっちゃうなど」と食べ物について意識を持ち始めたことだった。エプロンシアターに引き続き、根覚的教材の効果を感じることができた。
2月上旬	【絵本】 げんきをつくる食育えほん4 つよいからがでるたべもの きいろのえいのうのなかまたち	金の星社 吉田 隆子・作 せべ まさゆき・絵	・また、はつきりとした絵の色づかいや分かりやすい言葉で描かれているので、教師が読み聞かせをするだけでなく、幼児だけでも繰り返し読むことができるのは魅力的だった。	・「黄」や「白」の食べ物についても、いろいろな栄養や働きがあることを知り、興味深く読み聞かせを聞き、豊かな絵本があった。
2月上旬	【絵本】 げんきをつくる食育えほん5 おいしいあじのおつだい しろのえいのうのなかまたち	金の星社 吉田 隆子・作 せべ まさゆき・絵		・当初のねらい通り、シリーズの絵本だったので次は何色の食べ物の話?」「明日も読んでね!」と興味が持続し、食べ物への関心が高まっていた。

#### <園内研究を通して>

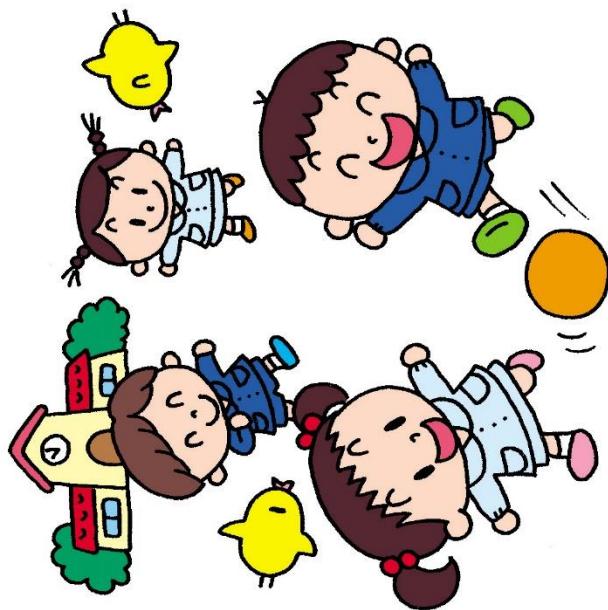
- ・教材を提供するごとに幼児の食べ物に対する興味がわき、知っていることや考えたことを自分なりに話す幼児も出てきた。いろいろな角度から食について触れたことで、より関心が高まつたように思う。
- ・これまでには時期を考慮しながら読んだにことのある絵本を選ぶことが多いかった。今回の課題研究を通して、新しい教材に出会うことができたと共に、絵本だけでなくエプロンシアターやポスターも幼児ににとって効果的な教材であることが分かった。
- ・副題にある「計画的な継続」という部分が想像していなかった以上に難しいことだった。幼児に教材を提供する前に、教師自身がテーマに対して意識を高くもち、課題やテーマにそつた教材を探していく必要である。「なんとなく」日々が過ぎてしまわぬよう、計画的に今後も保育を進めたい。

平成30年度

## 研究集録

### 研究テーマ 健康な心と体を育てる環境や活動の工夫

～心と体を働かせながら、充実感や見通しをもって生活や遊びに取り組む幼児の育成を目指して～



上尾市立平方幼稚園



「心は妄想の終りに有る」

省評価・反響と計画導引間

4

期	発達の姿	Ⅰ期(4月～5月上旬)		Ⅱ期(5月中旬～7月)		Ⅲ期(9月～10月中旬)	
		育てたいこと	環境構成(☆)と教師の援助(△)	活動な	評価・反省(児童の育ち)		
○進んで戸外に出て、自分の思いを教師や友達に伝えながら遊ぶ ○安心して過ごす中で、一日の見通しをもち、できることは自ら進んで行うとする ○好きな遊びを見つけ、じっくりと取り組んだり、友達と一緒に遊んだりする	○思い切り体を動かして遊ぶ心地よさを味わい、様々な遊びに友達や教師と一緒に楽しむ ○危険な遊び方が分かり、安全に遊ぶ ○夏野菜の栽培を通して、食べへの興味・関心をもち進んで食べようとする気持ちはもつ	☆年少時との変化は分かり分かりやすいように絵・文字表示を作る ☆幼児のしたい遊びが十分にできるように時間と場を確保する ☆幼児が安心して遊びに取り組めるよう、児童の興味を探り必要なものを出しておく	☆天候を考慮し、砂や泥、巧技台など計画的に取り組めるようにする ☆全身を使つて遊ぶことができるような遊具や道具を用意する ☆興味・関心に応じて、材料、道具を用意し、自ら試したり、工夫したりできることにする ☆野菜の生長が分かるように写真や文字を使つた掲示をする	◇年長になった喜び、不安を受け止め、一人一人とじっくり関わる ◇園生活を進んで行おうとする姿を認め、年長児としての自觉や自信がもてるようになります ◇教師も一緒に遊ぶ中で、幼児の興味・関心を把握したり、幼児が友達とのつながりを感じたりできるようになります ◇幼児の思いをを受け止め、友達に伝えられると同時に援助したり、足りない言葉を補つたりする	◇走ったり、跳んだり、投げたりといつた様な全身運動を通じて、体を動かす楽しさを感じたり、自分の体に関心をもちました ◇友達の言葉や動きに気付かせたり、相手の思いを受け止めたことを認めたりする ◇野菜の世話ををする中で、色々形、大きさなどに気付けるようになります ◇安全な遊び方を学級で話題にして考え、行動で起きるようになります	○砂・泥・水遊び ○巧技台 ○プール ○野菜の栽培 (夏野菜) ○カレーパーティー ○ボール教室 ○内科検診 ○歯科検診 ○避難訓練	・砂場や巧技台で友達と考えたり、試してみたりして繰り返し遊びを始めた。幼児のイメージや道具を協力して思いを実現させてきている。 ・身支度は進んで行おうとする姿はあるもののベースに差があり、友達を待たせてしまってもいる。このことで、自ら確認をして行動しようと示したことで、自ら感じられたようと思ふ。
○年長になつた喜びの中で張り切つて環境に働きかける時期	○思いを伝え合いながら友達とのつながりが深まつていく時期	○自分の体を知り、意欲的に体を動かしたり、いろいろな運動遊びを十分に楽しむ ○友達と力を合わせたり、競つたりする中で、自分の力を十分に發揮する	○自分なりの目あてや目標をもち、繰り返し取り組んだり、挑戦したりする	☆年少担任とともに園庭の使用について話し、時間や場所を確保する ☆興味をもつた遊びができるよう、用具を出しておく ☆目当てや目標に応じ、ラインを作つたりする	◇幼児がどんなことに興味を持っているかを把握する ◇友達と一緒に遊んで、頑張りやできるようになつてなどを見つめたり、遊べるように守つたり、きっかけを作つたりする ◇自分なりの目当てや目標に向かつて繰り返ししたり、取り組んだりする姿を認め、他の児童も知らせさせていく ◇遊びを振り返る時間を確保し、お互いに頑張っていることや、できるようになったことを伝え興味・関心がもてるようになる	○発育測定 ○竹馬 ○サッカー ○かけっこ ○リレー ○リズム ○ボール教室 ○お芋ほり ○野菜の栽培 (ダイコン) ○お芋ほり	・保護者がつくりてくれた竹馬に喜んで遊び、繰り挑戦したり、目標に向かつて取り組んだりするのが多く見られた。しかし、児童より取扱い組大きな差があり、みんなで取り組む時間を設け「できない」と感じている幼児が「やってみよな」という気持ちに変わった時を見逃さず、じり開わつたり、できるようになつたことを認めることで児童の意欲や興味が高まつていくを感じた。また、竹馬を通して、繰り返し挑戦することでできるようになることがあること、頑張れきるようになるというふうに思ふ。 ・砂場や野菜栽培が見られた。幼児のイメージや道具を協力して思いを実現させてきている。 ・泥遊びができるようなく、なかなか離続して遊べなかつたので、暑さの続く2学期始めに計画的に取り入れていき、遊びなど体で感じていいくことができるようになつてきている。 ・泥遊びが少しずつ感じる日が少しくらいで、泥遊びが少しずつ感じる日が少なく、なかなか離続して遊べなかつたので、暑さの続く2学期始めに計画的に取り入れていき、遊びなど体で感じていいくことができるようになつてきている。 ・砂場や野菜栽培では、毎日の世話の大変さに気付き、野菜を作つてくれる人への感謝の気持ちをもつたり、野菜への興味・関心が高まつた。また、ジャガイモの収穫では、みんなで数をかぞえたり、大きさ比較をしたりすることで、数や形、大きさに興味をもつ幼児が増えた。

健 康 な 心 と 体 を 育 て る 環 境 や 活 動 の 丁 夫

心と体を働かせながら、充実感や見通しをもつて生活や遊びに取り組む幼児の育成を目指して～

平成30年度 園内研究課題題

卷之三



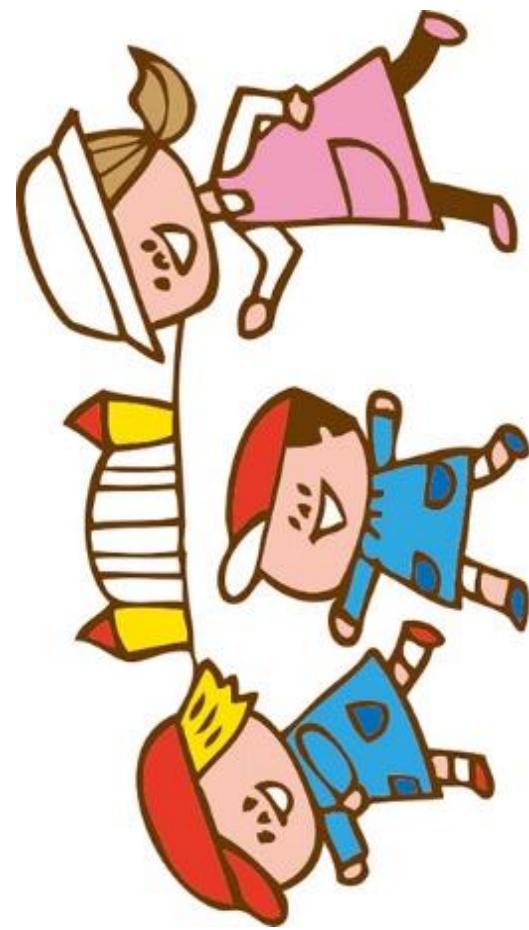
上尾市立平方幼稚園

令和元年度

研究集録

研究テーマ

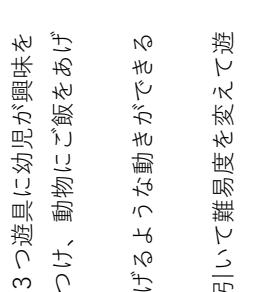
「幼児が充実感を味わうための戸外遊びの感化用や活動の工夫」



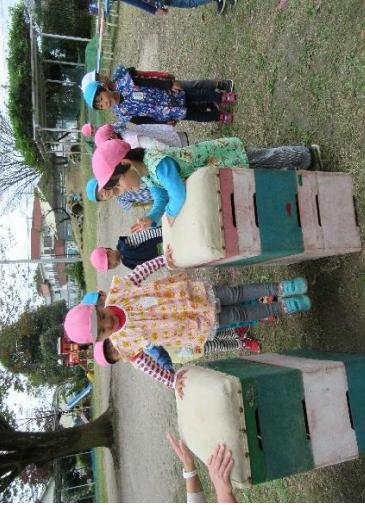
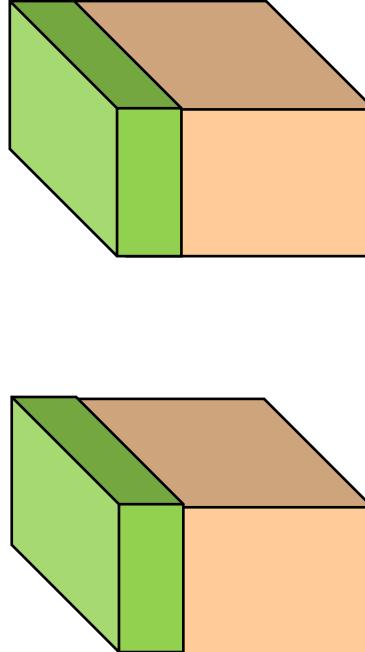
上尾市立平方幼稚園

# 4歳

## 玉入れ遊び

	発達段階 幼児の興味・関心	ねらい
	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな戸外での遊びや新しい環境、友達の遊んでいる姿に興味をもち、積極的に取り組む姿がある。</li> <li>クラスでボール送りゲームをして、チームで競い合う楽しさを感じている。</li> <li>運動会があることを知り、リズムを練習したり、かけっこで協奏したりすることを楽しんでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と一緒に思い切り体を動かして遊ぶ楽しさを味わう</li> <li>○思い切り投げたり、狙って投げたりして、ボールを使った遊びを楽しむ</li> </ul> <p>(実習生 研究保育)</p>
	環境構成	遊びの様子
	 	 
4歳 9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>雲梯・太鼓橋・ジャングルジムの3つ遊具に幼児が興味をもてるような動物や恐竜の目標をつけ、動物にご飯をあげて遊ぶ環境にした。</li> <li>玉入れにつながるように、上に投げるような動きができるような環境にした。</li> <li>幼児の遊びに合わせて、ラインを引いて難易度を変えて遊んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろなコーナーがあったことで、自分なりに投げ方を試しながらよく遊んでいた。入ったことを喜び、教師に見せたり、少し離れてラインの外から投げることに挑戦してさらに楽しんでいた。</li> <li>ジャングルジムは幼児は鬼に見立て、思い切り投げたり、段ボールに強く当て跳ね返って入ることを面白がったり、椅子を持ってきて座って投げて入れる遊びをしたりし、幼児なりの発想で遊んでいた。</li> <li>太鼓橋のサルが一番難しかったようで、なかなか入らないと話していた。</li> </ul>
		評価・反省
		<ul style="list-style-type: none"> <li>工夫した環境を整えることで、幼児の意欲や遊びが充実するのが感じられた。</li> <li>いろいろな難しさを考えた環境にすることで「入る楽しさ」と「なかなか入らない面白さ」を味わいながら、幼児が自分の力に応じて試しながら遊ぶことができた。</li> <li>動物という幼児にとって親しみやすいものや「動物にごはんをあげようよ」というイメージで玉入れ遊びを実習生が考えており、幼児がすぐさま楽しんで遊んでいた。また、園庭に出るとすぐに目にに入ったよう、「何か楽しそうなのがある！」と、興味をもっていた。いつもの遊具が魅力的な環境に変化することで幼児はとてもわくわくしていた。</li> <li>その後の運動会の玉入れにもつながり、急に玉入れをするよりも、投げて入る楽しさを味わっていた経験が玉入れの高いかぎりにも繰り返し挑戦して遊ぶ気持ちにつながっていた姿も見られた。</li> <li>継続的にこの遊びをできる時間が多くは確保できなかったので、玉入れの前にじっくり遊べる指導計画にできるとよりよかったです。</li> </ul>

# 腕支持遊び

発達段階	幼児の興味・関心	ねらい
運動会を終え、体を動かして遊ぶことの楽しさや運動遊びでの興味が深まっている。 ・友達のしていることに興味をもつて遊び姿を見られる。 ・やってみようとする気持ちが見えた、いろいろ遊びに挑戦する幼児が見られる。	○自分の力を試したり、いろいろな身体の動きを経験したりしながら全身を使って遊ぶことを楽しむ	
環境構成	遊びの様子	
		
4歳 10月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに興味をもって力を試して、遊び始めた。</li> <li>・腕に力がなく出来ない幼児もいたが、サークルの中の一つのコーナーに取り入れたことで、繰り返し遊び中でコツをつかんだり、力の入れ方がわかつたりした。</li> <li>・友達の姿を見て、刺激を受けたり、数を数えて「〇〇くん、すごいね」と一緒に喜んだりしていた。。</li> </ul>
評価・反省		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで試したことにはなかったが、幼児が興味をもつて遊び始めたので、やってみてよかったです。</li> <li>・幼児の遊び姿から、一人一人の腕の力を把握することができた。</li> <li>・その後、サークル遊びの途中にもこのコーナーを取り入れたことで、幼児が遊びの中で繰り返し挑戦する姿が見られ、継続して遊びことができたことがよかったです。</li> <li>・いろいろな運動遊びや道具があるが、幼児が遊びながらどんな動きを経験し、どんな力が育っているのか、また、あまり経験していない動きはどんなことか知ることをもつと学ぶことが必要だと思った。腕の力や腕支持の力を遊びの中でつけることで、遊びの中できることが増えたり、この時期に興味をもつている鉄棒の力にもつながったりすると考えた。</li> </ul>

# 4歳

## 縄を使ってごっこ遊びを工夫する

発達段階	幼児の興味・関心	ねらい
汽車の遊具を家にして、下でご飯をつくったり、上を寝る所に見立てたりして友達とごっこ遊びを楽しむことが多い見られる。	・ごっこ遊びの中で友達とやりとりしたり、同じイメージで遊んだりする楽しさを感じている。 ・遊びの場を工夫して遊ぶことが増えてきている。	○友達とのごっこ遊びの中で、縄に触れて遊ぶことを楽しむ
環境構成	遊びの様子	
4歳 10月		<p>・つくった葉っぱのごちそうを上に上げたり、下ろしたりしてごっこ遊びに使っていた。 ・縄を引いたり、そつと下ろして入ったりして縄に触れて遊ぶことに興味をもつており、その動きや上下の友達とやりとりして遊ぶことを楽しんでいた。 ・出してしばらくは興味をもってよく遊んでいたが、しばらくすると、あまり使っていなかった。</p> <p>・汽車の遊具の2階から縄を下ろして、バケツを結んで下から上に運んだり、下ろしたりして遊べるようにした。 ・縄を取り入れる。</p>
	評価・反省	<p>・縄を遊びに取り入れるということをやってみたかったので実践してみた。井戸のようなこういった動きは遊びの中ではなかなかないので幼児も面白さを感じていた。</p> <p>・この時期になると、友達の動きが見えてきたり、やりとりして遊んだりできるようになってきていたので、急に人の上に落としたり、人が使っているときに引いたりといったことは心配したが見られなかつた。「引っ張るバー」などと幼児同士で声を掛け合ったり、友達の動きをして遊んだりしたことは幼児の姿として成長の一歩と捉えられた。</p> <p>・継続して楽しむことはあまりできなかつたので、もっと幼児の遊ぶ姿を見て、それに応じて工夫できるよかったです。（大きさを変えるとか）</p>

# 挑戦ブースレットでサークル遊び

発達段階	幼児の興味・関心	ねらい
・運動会後、運動することの心地よさや楽しさを感じながら、いろいろな遊びに意欲的に遊ぶようになった。 ・鉄棒に興味をもち、前回りやぶたのまるやきに繰り返し挑戦するようになつた。 ・鉄棒をきっかけに太鼓橋や雲梯など、できるようになつたこと見せたり、友達の姿からやってみようとしたりする幼児が増えた。	○いろいろな運動遊びに興味をもち、全身を使って遊ぶことを楽しむ ○挑戦することを楽しんだり、できた喜びを味わったりする	
環境構成	遊びの様子	
	毎日、遊びの様子に応じて、コースを変えたり、幼児とつくりました	友達の姿から前回りができるようになりたいと挑戦し、多くの幼児ができるよう
4歳 11月	<p>挑戦ブースレット：</p> <p>サークットをゴールした幼児やできるようになったこと増えた幼児にシールを貼る</p>  	<p>太鼓橋から汽車の遊具まで、ジャンプ台、平均台を置きながら、線路つなげ、いろいろな運動遊び具に挑戦して楽しめるようにした</p> 
	評価・反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>道具と遊具を線路のラインでつなげたことで、「汽車のところまでつなげてゴールにしよう」という声があがり、ゴールということでブースレットにシールを貼ることにした。すると、ブースレットに興味をもって、やってみたり、鉄棒に挑戦していた幼児もいろいろな遊具に挑戦したり遊ぶようになりました。</li> <li>すべてでできるところにこだわらずに、4歳児なのでその子にとつてできるようになつたことに対しても、シールを貼るようにしました。統一性はなかつたのがよかったです。</li> <li>「誰にでもできるところへの興味や意欲にはつながつた」</li> <li>「スタートから友達と一緒に繰り返しやってみたり、いろいろな遊具に取り組む中で身体の動きが慣れてきて、できることが増えてくるのが感じられたりしたので、遊具をつないでサークット遊びになったのはよかったです。</li> </ul>

# ドッジボール（四角）

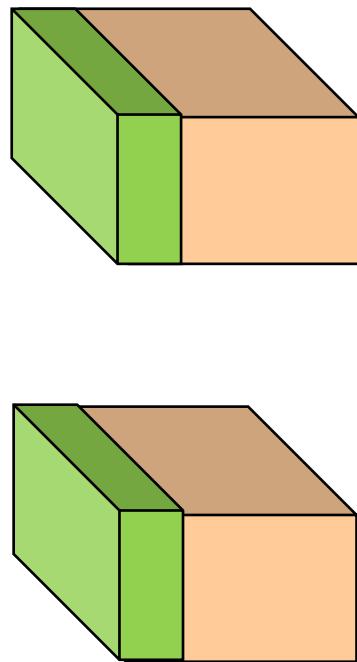
	発達段階	幼児の興味・関心	ねらい
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期半ばから、円型の転がしドッジボールのルールを理解して繰り返し楽しんでいる。</li> <li>・幼児の中には、転がしドッジボールで外野になり、友達を当てることが楽しくなっている様子があり、当てに入ることをあまり好まない姿も見られる。</li> <li>・チームで競い合う遊びが好きな幼児が多い。</li> <li>・ボール遊びで投げることやキャッチすることを以前より楽しむ姿が見られる。</li> <li>・年長児が遊んでいる四角のドッジボールに入つて遊んだ幼児も数名いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○四角のドッジボールの遊び方やルールを理解して、友達と伝え合いながら新しいルールのある遊びを繰り返し楽しむ</li> <li>○ボールをキヤッチしたり、狙った相手に投げたりする面白さを感じて遊ぶ</li> </ul>	
	環境構成	遊びの様子	
	赤ライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>帽子の色に合わせて、赤チーム、白チームのラインにし、真ん中のラインは全く違う色にした。</li> </ul>	<p>予想よりも早い段階で遊び方やルールを理解し、チームでの勝負を楽しんでいた。「緑の線から出ちゃだめだよ」と幼児同士で伝え合う時に、相手に伝わりやすかった。遊び初めのチームで別れる時にも、ラインを見て集まっていた。ルールがわかりやすいと、幼児もすぐに楽しさを感じていた。</p> 
4歳 2月	緑ライン 白ライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>色を変えてラインを引くことで、ルールや遊び方が幼児にとって目で見てわかりやすくなり、共通理解して遊べるようにする。</li> <li>遊びの中で友達同士でルールを伝えやすくなると考えた。</li> </ul>	<p>遊び始めると、仲間が増えていく様子があり、繰り返し遊びの中で、チーム内でパスし合ったり、友達のボールがされたことを喜んだり、円型ドッジボールとは違った新たな楽しさを感じ遊び、好きな遊びの一つになった。</p> 
	評価・反省		<ul style="list-style-type: none"> <li>この時期、遊びが継続して楽しめるようになるためには、幼児同士で遊び方を伝え合うことができることも大切なことだと思う。そのために、できる一つとして、ラインをわかりやすくすることで、幼児同士で伝え合う中で、相手に伝わり、遊びが中断することが減り、楽しさをより感じられるように感じた。</li> <li>遊び方がわかりやすいことは興味の継続には重要な要素で、とくに理解に時間がかかる幼児にとっては大きな影響しているように感じた。どうしたら、幼児にとって、わかりやすく新しい遊びを紹介できるか、小さなことでもできる工夫を考えていきたい。</li> <li>強いボールや速いボールを投げたいという気持ちがより一層芽生え、上手に投げる友達の姿を見て、その友達のよさを認めたり、刺激を受けまねてやってみたりする姿にもつながった。</li> </ul>

# 竹馬遊び（スマーリーステップで）

	発達段階 幼児の興味・関心	ねらい
	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めてのことには消極的な部分があり、なかなか取り組もうとしないことが多い。</li> <li>お父さんやお母さんがつくれた竹馬に興味をもついて進んで遊び始める姿がある。すぐに乗れるようにならぬことに興味が薄れ始めてしまう幼児もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○竹馬に興味をもち、意欲的に取り組む</li> <li>○出来たという経験を重ね、自分なりの目標をもつ</li> </ul>
	環境構成	遊びの様子
4歳	 	<p>・どうやつたら竹馬に乗れるようになるかをわかりやすく絵と字で示し、一つ一つクリアしたらシールを貼っていくように表にしたものを配布する。全部クリアしたら賞状を渡す。</p> <p>・名人になった幼児が増えたら、さらに難しいものを用意し、幼児自身が何に挑戦するか考えられるようにした。</p> <p>・コーナンや石灰を使ってコースをつくり、ただ歩くだけではなく、楽しんでゴールまで行けるようにする。</p>
9月		<p>・毎日コツコツ取り組んで「乗れるようになりたい」と頑張る幼児と、乗ることが難しいとわかるとすぐに諦めてしまう幼児の差がとても大きい。</p> <p>・担任や担任外が補助をしながらコツを教えていくようにならなかったが、なかなか乗れないことで意欲がなくなってしまう幼児もいた。</p> <p>・配布した表を見ながら、できるように繰り返し挑戦する幼児がとても増えた。</p> <p>・友達と距離を競ったりししながら一緒に挑戦する姿が見られた。</p>
		評価・反省
		<p>・乗れるようになるための過程を可視化したことで、次に何をすればいいかがわかりやすく、進んで取り組むことができたようだ。また、一つ一つの項目も細かく区切ったことで、「できた！」という達成感が感じやすくなり、意欲に繋がっていった。</p> <p>・竹馬に乗り始めたころは、みんなが補助を必要とするため、担任・担任外と複数で対応したが、それでも待つ時間が長くなってしまったので、グループごとなどで時間を分けてやることも必要だったと思う。</p> <p>・竹馬を通して、くり返し、継続的に取り組むことの大切さや努力をすればできるようになることを多くの幼児が感じられたようだ。</p>

# 5歳

## 腕支持遊び

	発達段階	幼児の興味・関心	ねらい
	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭遊びの中で、バランスコヤスベリ合は好きでよく遊び姿が見られるが、鉄棒、雲梯、上り棒などへの興味・関心がほとんどない</li> <li>クラスで上り棒や鉄棒にみんなで挑戦した時に、自分の体を支えられない幼児が多く、前回りすらできない幼児が半数以上いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返し挑戦する中で、コツをつかんだり、友達と競い合ったりして遊ぶことを楽しむ</li> </ul>	
	環境構成	遊びの様子	
			
5歳 10月			<p>力を試して、遊び始めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初めはなかなか腕で保つことが難しい幼児もいたが、何回かやるうちに、コツをつかんで足を動かさないようにしたり、力の入れ加減を考えたりしていた。</li> <li>数を数えて長い時間できることに達成感を感じたり、友達と競い合ったりして楽しんでいる。また、なかなかやつてみようとした幼児も友達の姿に</li> </ul>
			評価・反省
			<ul style="list-style-type: none"> <li>雲梯や鉄棒、上り棒など腕を使った遊具への取り組みに消極的だったり、実際にやってもできない幼児が多かったりしていた理由がこの遊びを通して分かった。</li> <li>幼児の遊び姿から、腕力のない子、支え方のうまくない子など一人一人の腕の力を把握することができた。</li> <li>なかなかやつてみようとしない幼児もいたので、時間を設け、みんなで順番に挑戦したり、長くできる遊具を見せてもらつたりした。友達の姿をみるとことで刺激を受け、「〇〇秒まで頑張る！」と遊び始めた幼児もいた。友達の姿から刺激を受けたり、興味をもつたりする幼児も増えていることを感じた。</li> </ul>

# バスケット遊び

	発達段階 幼児の興味・関心	ねらい
	<p>・運動会を終え、玉入れを経験したことつながり、ボール遊びにも興味をもっている。            ・「ねらって球を入れる」面白さを感じた幼児から、「高いバスケットやりたい」という声が聞かれた。            ・自分の力を試したり、挑戦する楽しさを感じたりする幼児の姿が多く見られる。</p>	<p>○自分なりに試したり、挑戦したりしながらボール遊びを楽しむ。            ○狙ったところにボールを投げて遊ぶ。</p>
	環境構成	遊びの様子
	<p>(環境の配慮点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつものバスケットゴールをより高く設定した。</li> <li>・時期や発達に応じて、いつもの遊具を少し変化させて出すことで意欲や興味をもって、繰り返し挑戦できるようにした。</li> <li>・壁の前に設定したことで遊びやすかった。</li> <li>・ラインを何段階か引くことで年長児もさらに難易度を変えて遊べるようにした。</li> <li>・支柱と結ぶことで倒れずに高いバスケットを設定することができた。</li> </ul>	 <p>・投げ方のコツをつかみながら、何度も挑戦して遊ぶことを楽しんでいた。            ・年長児も年少児も、ラインに立って、それぞれ離れたところからやってみたり、「次はこっちで挑戦！」と自分なりに試したりしていた。</p>
5歳 10月		評価・反省
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「もっと高いのがやりたい」という幼児がいたので、いつも使っているバスケットであるが、高さを変えて遊べるようにし、挑戦して楽しむことができた。</li> <li>・幼児の興味や実態に応じて、どうやれば実現できるか考えて、既存の遊具を工夫して使っていけるようにならうにしたいと思う。</li> </ul>

# 5歳

## ケモ鬼

	発達段階 幼児の興味・関心	ねらい
	<ul style="list-style-type: none"> <li>腕支持遊びや鉄棒などで、腕力がない幼児が多い</li> <li>鬼ごっこが好きで、水鬼、ドロケイ、色鬼など様々な鬼ごっこを友達と誘い合って遊んでいる</li> <li>運動会を通して、友達と競い合うことに楽しさを感じている</li> </ul>	<p>○クモ鬼を通して遊びながら体力づくりをする</p>
	環境構成	遊びの様子
5歳 11月		<ul style="list-style-type: none"> <li>鬼ごっこはとても好きなので、新しい鬼ごっここの提案にもとても興味を示していた。</li> <li>逃げる側の四つん這いが腕力をとても使うのできつく、すぐに捕まってしまう幼児が多い。</li> <li>腕力のある幼児は逃げるのもとても速く、逃げてる時間も長いので、幼児によって大きな差ができる。</li> <li>ホールでもできる鬼ごっことして幼児はとても楽しそうにくらべて遊んだ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい鬼ごっここの提案</li> <li>裸足で鬼は四つん這いになり、追いかける。</li> <li>逃げる幼児はお腹を上にして四つん這いになって逃げる</li> <li>捕まつたら鬼になり、四つん這いで追いかける（鬼が増ええる）</li> </ul>
	評価・反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>腕支持遊びから、全体的に腕力がないことが感じられたので、幼児の好きな鬼ごっこと合わせてできる遊びを提案した。</li> <li>逃げている幼児は慣れない姿勢に苦戦していたが、繰り返し遊びすることで慣れていき、自分なりに動いたり・休んだりを工夫している姿が見られた。</li> <li>継続して遊びことで、遊びながら腕力や持久力が身に付くことができるので、3学期も継続して遊びに取り入れていきたい。</li> </ul>

## 園内研究を通して

(年長)

- ・運動遊びへの興味・関心がうすいと感じていたが、様々な環境を用意しておくことで、自ら興味を持つて参加したり挑戦したりする幼児が増えたように思う。

(年少)

- ・小さな環境の変化でも、幼児が気付き、興味をもって遊び始める姿がどの実践でも見られた。幼児が新しい遊びに興味をもつことは、4歳児は遊びの幅や友達関係の広がりに大きく影響していくと感じた。



幼児の実態や興味に応じて新たな環境を構成することで、いつもとは異なる環境に触れ、自ら興味をもって遊び始める幼児の姿が多く見られた。そして、その遊びの様子を捉えて、環境をさらに工夫することで継続的な意欲につながったり、挑戦する気持ちが育まれたりし、幼児が充実感を味わうことができた。どんな環境の工夫ができるか考えていく中で、新たな環境を探っていくことは難しく、日々の保育がどんどん過ぎてしまったことは反省点である。戸外遊びは気候や遊びやすい季節の影響があるため、実践計画を早めに立ておかなければ、タイミングを逸して実践が積み重ねられないことも実感した。簡単で小さな環境の工夫でも幼児の姿に変容があり、遊びの充実につながると感じ、大きな環境の工夫と構えず、日々の中で実践していくことが大切である。また、これまで実践した遊びも、さらにできる環境の工夫はないか探りながら、実践、評価、反省を続けていきたいと思う。



令和2年度

研究集録

研究テーマ

「協同性を育む保育の在り方」



上尾市立平方幼稚園

## 1 研究主題

『協同性を育む保育の在り方』

### 2 主題設定の理由

今年度は、少人数での教育活動を展開していく。その中で、幼稚園教育要領の中で謳われている幼児期の終わりまでに育つてほしい10の姿のひとつである「協同性」を育むためには、各年齢の発達段階を踏まえた活動や異年齢での活動の両方から様々な遊びや活動を計画的に取り入れることが大切であると考える。さらに少人数の中でも幼児一人一人が、遊びが充実し、友達との関わりを深め、互いを認め合い、徐々に共通の目的をもって実現する喜びを味わうことができるようにしたいと考え、本テーマを設定した。

### 3 研究の観点

- ① 幼児一人一人の性格・興味、関心・発達・経験の把握
- ② それぞれの発達段階における協同性の芽生えや広がりを捉える
- ③ 少人数の中で協同性を育むための計画的な活動と工夫
- ④ 異年齢の関わりを通しての保育の展開・活動の充実
- ⑤ 協同して遊びようになるための環境構成や教師の援助

### 4 研究計画・研究内容

- ① 幼児期の終わりまでに育つてほしい10の姿「協同性」の内容を理解する。
- ② 研究課題の方向性を共通理解する。
- ③ クラス全体として、または幼児一人一人の中に「協同性」の芽生えがあるか、育まれているかなど生活や遊びを通して細かく見取る。
- ④ 少人数の中で幼児が「協同性」を育むために必要な経験は何かを考え、保育展開の工夫や環境構成、教師の援助をする。
- ⑤ 異年齢での保育の展開や活動を工夫し、様々な人と関わり、多様な関係性の中で協同性が育めるようにする。
- ⑥ 遊びの中で友達との関わりが生まれてくるような環境や援助を考える。
- ⑦ 幼児が主体的に活動できるような環境構成や援助をする。また、一人一人が自己充実する姿を大切にしながら、友達と遊びの中で多様な感情体験を味わい、関わりを深めたり、共通の目的をもって実現する喜びを味わったりできるようにする。
- ⑧ 様々な実践を重ねていく中でさらなる幼児の協同性の芽生えや広がりを捉える。
- ⑨ 実態を踏まえて評価・反省し、指導計画の作成や今後の保育展開について教師間で共有する。

## 4 才児

期	月	ねらい	幼児の具体的な姿 ( <u>協同性の芽生えが見られた場面</u> )	△環境構成・◇教師の援助	考索
4歳 Ⅰ期 ( 6 月 )	6月 中旬・ 下旬 ( 6 月 )	○自分の好きな遊びを見つけて、自分から遊ぶ  ( <u>砂遊び</u> ) ・園生活に慣れ、様々な遊びの環境に興味をもち、喜んで遊び始めたり、自分なりの動きを試して楽んだりする姿が見られた。 ・「今日も裸足で遊ぼう」と、前日に楽しんだことを翌日も友達と楽しむ姿が見られた。 ・沙場では、「羨もブルドーザーだ!」「こつちから砂を集めよう」など、繰り返し、動きを友達と試し、自分たちのイメージがつながって遊んでいることが楽しい様子が見られた。	☆幼児が興味がもてる環境、「楽しそう」「やってみたい」と思えるような環境を構成した。  ☆思いを出して、満足いくまで遊べるように十分に満足できる時間の確保をした。  ◇幼児が好きな遊びを見つけて、楽しんでいることを教師も一緒に楽しみ、思いに共感し、教師との信頼関係を築けるようにした。  △同じ場で遊ぶ友達のしていることや楽しんでいることを知らせ、同じ場で遊ぶ心地よさや楽しさを感じられるようにした。	☆幼児が興味がもてる環境、「樂しそう」「やつてみたい」と思えるような環境を構成した。  友達の存在に気付き、一緒に過ごす楽しさが感じられるようになり、それが協同性を育む土台となっていくと思われる。そのためには、興味がもてる環境、思いを出して遊べる環境の構成が必要と考え、実践した。  ・	・園生活に慣れ、自分のしたい遊びを十分に楽しみ、幼稚園で安心して遊ぶことが大切である。その基盤ができることで、友達の存在に気付き、一緒に過ごす楽しさが感じられるようになり、それが協同性を育む土台となっていくと思われる。そのためには、興味がもてる環境、思いを出して遊べる環境の構成が必要と考え、実践した。  ・同じことをしたり、同じ動きをしたりすることとは友達の存在を意識したり、刺激を受けたりしている表れである。こういったことが協同性の芽生えの一歩だと考えられる。
4歳 Ⅱ期 ( 6 月 )	6月 中旬 ( 7 月 )	○友達に親しみをもち、同じことをしたり、関わったりして遊ぶ  ( <u>ダイナミックな絵の具遊び</u> ) ・絵の具遊びでは、友達と同じような動きをしたり、同じようにことをしたりすることの楽しさを感じている様子が見られた。 ・五感を使って、感触や心地よさを味わいながら遊ぶ中で、心が開放されて、自分の思いを動きでのびのびと表していた。	☆砂・水遊び、絵の具遊びなど、五感で感触を十分に味わう経験を多くできるような計画を立て、気持ちを解放して遊ぶ中で友達と一緒に過ごす楽しさを感じていけるようにした。  ◇遊びの中で、友達と「楽しい」「気持ちいいね」など、気持ちを共感し合えるように、教師がそれぞれが楽しんでいる姿や感じたことを言葉にして、互いに伝わるようにした。	☆絵の具遊びでは、友達と同じような動きをしたり、同じようにことをしたりすることの楽しさを感じている様子が見られた。 ・五感を使って、感触や心地よさを味わいながら遊ぶ中で、心が開放されて、自分の思いを動きでのびのびと表していた。	・全身で遊ぶことが好きな二人の美態を踏まえ、大きな紙でのクレヨン遊びやいろいろな絵の具の活動を通して、思いきり遊べる遊びを多く計画した。手形・足形の絵の具遊び、ローラー遊びでは、友達と一緒に楽しみ、「今日は気持ちよかったですね」「また、やりたいね」という気持ちのつながりが友達との仲を深めた。 そういう経験が「一緒に○○しよう」と遊び始める姿につながったと考える。  ・同じことをしたり、同じ動きをしたりすることとは友達の存在を意識したり、刺激を受けたりしている表れである。こういったことが協同性の芽生えの一歩だと考えられる。



4歳 II期 (7月)	○友達に親しみをもち、同じことをしたり、関わったりして遊ぶ	<p>☆年長児と一緒に遊べる時間を確保できるようには日々の計画を立てるようにした。</p> <p>◇「年長さん、すごいね」という憧れの気持ちを受け止める。また、年長児の活動や姿に目を向けられるように気付かせる。</p> <p>◇年長児一人との友達関係が築けるように仲立ちし、時には、教師は様子を見守り幼児同士の関わりを大切にするようにした。</p> <p>◇年長児と関わることで「みんなで遊ぶと楽しい」という気持ちやいろいろな幼児と触れ合う中で「〇〇君は面白いよね」「〇〇君が教えてくれたよ」など、その子らしさを感じ取る気持ちを大切に受け止めた。</p>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年少組だけであると、大勢の友達の中で過ごす楽しさを感じる経験やいろいろな友達の思いや遊び方に触れる経験が少なくなるてしまう。しかし、たくさんの時間を異年齢で生活するようになると、年長児の中に入っても、安心して遊べるようになってきた。</li> <li>・憧れの存在ができることで、意欲につながり、相手の姿をよく見て真似たり、相手の話に耳を傾けたりする姿が見られた。異年齢での関係は、憧れの気持ちを抱くことだけではなく、様々な場面で吸収することがより大きくなると感じた。</li> </ul>
4歳 II期 (7月)	(年少同士で刺激を受ける姿)	<p>○友達に親しみをもち、同じことをしたり、関わったりして遊ぶ</p> <p>◇相手のしていることに気付けるような言葉かけを意識し、友達の工夫しているところや得意なことを知って、「すごいね」「頑張っているね」と認める気持ちを大切にした。</p> <p>◇友達に刺激を受け、「僕もやってみたい」と相手を意識し、工夫したり、取り組んだりする姿が多く見られるようになった。</p> <p>・製作活動や戸外でのジャングルジムなど、「僕もできるよ」「僕の方がすごいよ」という『自分の力でできる』という充実感が、様々な遊びへの主体的な姿につながっていた。また、「負けないぞ」という気持ちも芽生えていた。</p> <p>・同じ物ができる嬉しい、同じことをしていることで気持ちがつながっていく様子も感じ取れた。</p>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刺激を受けている姿は、相手を認めたり、「すごいな」「いいな」と感じる心の現れでもあると考える。</li> <li>・協同性を育む中では、「相手のよさを知る、認める」ことが後に、互いの考えを出し合って、協力することにつながっていくので、4歳の「いいな」「すごいな」という気持ちちは、協同性の芽生えの大きな一つであると思う。刺激を受けたときに、それを認めたり、自分もやってみようという気持ちをもてるようになしたいためには、友達のしていることに関心が向かれるようにする教師の援助が重要だと感じた。</li> </ul>
4歳 II期 (7月)			

4歳 II期 ( 7月 )	○友達に親しみをもち、同じことをしたり、関わったりして遊ぶ	(電車遊び) ・二人は、遊びの中で「ここに10秒止まってから、出発しよう」など遊びのルールや遊び方を決めていた。 ・「次はどうに行く？」「次はホールに行こう」「ここのは階段は通らないようにしよう」など動きを合わせるだけではなく、言葉で伝えて一緒に動く姿が見られるようになった。 ・年長児とも教師の仲立ちがなくとも、声を掛け合って一緒に乗って遊んでいた。 「ゆうたくん、出発するよ、乗って」など年少から年長児への言葉掛けも聞かれた。	☆積み木で新幹線をつくって遊んでいた姿が見られたので、段ボールで新幹線を用意した。「同じ物を使いたい」と思っている新幹線にこだわることよりも、一緒に新幹線に乗っている所に行くことが楽しい様子であった。そのため、「行き先」や遊び方も相手と会話しながら、二人で決めていた。	・思いがぶつかり合うのではなく、二人は使いたいと思っている新幹線にこだわることよりも、一緒に新幹線に乗っている所に行くことが楽しい様子であった。そのため、「行き先」や遊び方も相手と会話しながら、二人で決めていた。
4歳 II期 ( 7月 )	○感じたことや思ったことを言葉や動きで表す	◇特に新幹線の種類にこだわる様子はなかったが、「交換しよう」などの言葉のやりとりではなく、なんとなく、交換している様子があつたので、言葉で相手に伝えられるように知らせた。 ◇遊びの中で「ここに十秒止まってから、出発しよう」など遊びのルールや遊び方を二人で決めていた。伝えたことや受け入れて遊ぶ様子を認めるようにした。	・この遊びでの経験では、言葉でやりたいこと、したいことを相手に伝えることが増えたことである。「友達に分かってもらいたい」「一緒にやりたい」という思いが自分の思いを表現するということにつながっており協同して遊ぶためには、大切な一歩であると思われる。	・思いがぶつかり合うのではなく、二人は使いたいと思っている新幹線にこだわることよりも、一緒に新幹線に乗っている所に行くことが楽しい様子であった。そのため、「行き先」や遊び方も相手と会話しながら、二人で決めていた。
4歳 II期 ( 7月 )	○友達に親しみをもち、同じことをしたり、関わったりして遊ぶ	(銅育活動) ・教師と一緒に飼育物の世話をする中で、わたしはカタツムリをもつことができたが、じんたかで泣くなかった。毎日、教師と3人で世話をする中で、自分ができること、苦手なことがわかり、友達と一緒に協力し合う場面が見られるようになった。 ・「わたるくん、カタツムリに入れ。僕がもつてるから」「いいよ。じゃあ、僕が蓋も閉めるね」など、自分のやりたいことを伝えたり、相手がやろうとするのを受け入れたりする言葉のやりとりが聞かれた。	◇世話をすることに関心をもち、自分達だけで生きるという気持ちが見られ始めたので、二人にできる仕事を任せながら一緒に行うようにした。日々の中で「二人でやれたよ」という気持ちを味わえるように「ありがとう」「二人でできたなんてすごいね」と関わるようにした。 ◇「先生できない」と言った時に、「〇〇くんが上手に昨日やってくれたよ」と伝え、児童同士で協力できるようなきっかけをつくる。	・生活の中で、年少児にもできるような場面で、互いのできることを認めたり、助け合ったりすることで友達と成し遂げられたという経験はこの時期でもできる大切な経験だと思う。 ・飼育の場面では、どっちが蓋を洗うか、入れ物を洗うかで、揉めたり相談したりする場面が見られ、そういう毎日の生活の場面でも協同性の芽生えの一つと捉え、見守ったり、認めたり、一緒に考えたりすることが大切だと感じた。

4歳 III期	8月 10月 上旬	(サッカー遊び)	<p>☆友達や年長児と一緒に遊び方を決めたり、相談したりするサッカー遊びの場になったので、継続的に設定し、友達とやり取りできる機会になるようにした。</p> <p>◇友達との遊びの中でどんな思いの出し方をしているか見守りながら、自分のやりたいことを言葉にできるように必要に応じてきっかけをつくる。そして、自分の思いが友達に思いが伝わる経験を重ねていけるようにする。</p> <p>◇友達の思いを聞く場面をつくり、相手の気持ちを知って、感じたり、感じたことで自分の思いが変わったりしていくことを大切にする。</p> <p>◇一緒に遊ぶ友達とぶつかり合う経験を見守り、葛藤体験を大切にする。教師が共感したり、受け止めたりすることで、自分の気持ちに折り合いをつけていく支えとなるようする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一学期は、自分の思いを主張したり、そのことで友達とぶつかり合ったりする場面はあまりなかった。しかし、二学期に入り、友達や年長児との仲が深まっていくとの同時に、自分の思いが出せるようになつた。そのことで友達と思いがぶつかる場面が見られるようになり、このことを通して、自分とは違う相手にも思いがあることに気付いたり、それを知り、葛藤したりする経験につながつた。</li> <li>・相手にも思いや考えがあることに気付き、自分の思いをどのように表すのか、どう折り合いをつけるのか、経験を重ねることが四歳児の二学期は大切であると考える。主張が受け入れられない悔しさ、それを乗り越える力、教師や友達に気持ちが伝わった嬉しさなど、様々な感情体験を経験することで友達との関わりが深められていくことがこの時期に必要な協同性の芽生えの一つかと思う。</li> </ul>		

4歳 Ⅲ期	10月 中旬 ～8月 下旬 ～10月 中旬)	(集団遊び) ・自分たちの好きな鬼ごっこには、自ら入って楽しむ姿が見られるが、初めての遊びや鬼ごっこ以外の遊びは、二人でマイベースに遊ぶのが楽しそうな様子が見られた。 ・10月に入つて、転がしドッジボールやドッジボールも年長児がしている姿に少しずつ興味をもち、二人で「どうする？ 入れてもらおうよ」と相談する姿が見られ、しばらくすると、二人で「入れて」と自分たちで仲間に加わった。 ○大勢の友達と一緒にいろいろなルールのある遊びを楽しむ: ・たくん、いっぽい投げてるでしょ」と二人ともボールから手を離さない。また、ボールが取れないことでつまらなさそうな表情も見られた。 ・ルールを守らなければならぬことは理解しよく守れているが、大勢の友達と遊んでいると、自分の思うようにはいきないことで、つまらなさや強く主張する様子が見られた。 ・しかし、翌日は遊びを見つけると、仲間に加わっていた。また、ヘビジャンケンなど、いろいろな遊びに入つて、繰り返し楽しめるようになつた。	◇教師が誘い掛けけるのではなく、「みんながやつての樂しそうだな」と興味をもつて、入つてみようという気持ちになるまでこと待つようとする。 ◇楽しかったという気持ちに教師も一緒に遊びながら共感する。幼児がどんな所に楽しさを感じているのかを読み取り、みんなの中で自分なりの動きをしたり、力を発揮して楽しんだりしている姿を認める。 ◇大勢の友達と一緒に通う事によって、自分の思い通りにならないことや我慢することも出てくるが、その気持ちを受け止めたり、我慢できたりしたことを十分に認める。	・大勢で遊ぶと、気の合う友達と遊ぶよりも思い通りにならないことや我慢することも増えるが、大勢で遊ぶからこそ、感じられる樂しさやたくさんの友達と面白さを共有することができる。自分の好きな遊びを楽しむ中で「みんなでやるともっと楽しい」という気持ちを経験することが協同性を育む土台として必要であると考える。運動会を経験し、友達との関わりが深まつたこの時期に、「みんなでなにかやつて。楽しそう。一緒にやりたい。」という気持ちで主体的に遊びを育てたい。そのためには、教師から誘いかけり、クラスでやる活動だけではなく、幼児がどの段階まで気持ちが育つてきているか、見取ることも重要ではないかと思う。	・また、このように遊びを通して幼児同じ土の関係性が広がっていくことは、協同して遊ぶために大切な土台あると考える。クラスやより多くの友達関係の中で自分を思いを出し、幼児同士で試行錯誤、葛藤しながら、自分の気持ちの出しどうを調整できるようになつていくと考える。



4歳 IV期	10・ 11月 （一 0月下旬）	<p>（ケーキ屋さんごっこ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家でつくりてきたチヨコを並べて、隣にケーキづくりができるお店のように環境を用意しておくと、喜んで木の実を使ってつくり始めた。</li> <li>できあがったケーキを先生とやり取りして、遊んだ。「あたためますか」「500円です」とやり取りすることを楽しみ、二人でお店やさんになるのが面白いようだった。</li> <li>いろいろなお店さんが作った月刊絵本を見せて、「こういう旗みたいな看板がほしい」と看板を一人でつくりついた。</li> <li>年長児がたくさん来てくれると、初めはやり取りに戸惑う様子があつたが、だんだんなりきっていろいろなやり取りをして楽しんで遊んでいた。</li> <li>「食べるテーブルを用意しなくちゃ」「コロナだから、少し離して置こう」など遊び場を考えて友達とつくって楽しんでいた。</li> </ul>	<p>☆幼児が興味をもてるように、お店屋さん風につくつて遊べる環境を設定しておいた。</p> <p>☆家庭で画用紙でチヨコをつくってきて、大菓子屋さんのようにして遊んでいたので、興味がつながっていくきっかけになると考え、環境や紙粘土でつくったクッキーや材料を用意した。</p> <p>◇幼児が「トッピング」「アイスラッキー」など、イメージしていることに応じてやり取りすることで、なりきって会話を楽しんで遊んだり、イメージを広げてつくりする楽しさを感じられるようにする。</p> <p>◇友達と考えたり、イメージがつながったりする楽しさに共感すると共に工夫を認め、友達と一緒にごっこ遊びをする楽しさを味わえるようにする。</p> <p>◇お財布やお金、看板など、やり取りがより楽しめるようなものを幼児のイメージに応じて材料を提案したり、きっかけをつくったりする。</p>	<p>・二人だと活動が偏るために、秋の自然物に触れて遊んだり、必要なものをつくったり、イメージを広げて友達とやり取りして遊んだりできるとは何がいいのか、幼児の幼児の遊びの様子、興味、タイミングを探った。協同性を育む遊びの豊かな経験をするために、時期やタイミングを逃さず、また、幼児の主体的な遊びになるようにすることはとても、難しい。</p> <p>この遊びに興味をもつたが、これまでにいろいろなきっかけを教師自身が試行錯誤してつくりたが、なかなかうまくいかないことも多かった。協同性を育むようにならないを達成できるよう遊びを開くために教師自身がクラスの実態、興味を捉え、いろいろアプローチしないと、経験してほしいことがないままになり、協同性の芽生えを育めないことになってしまったのだと感じた。</p> <p>・この遊びを通じて、友達とイメージを広げて遊び樂しさや自分達のアイデアや工夫が形になっていく樂しさを味わうことができた。こういった経験が年長になつて、考え方を出し合つて自分で進めていく協同した遊びにつながつていくと思う。</p>
-----------	---------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



4歳 IV期	○友達と一緒につくる楽しさやイメージがつながる楽しさを感じる	(ホワイトタイガーブク) ・動物園後は、一番お気に入りだつたホワイトタイガーを積み木でつくって、見立てて乗って遊んだ。乗つて遊ぶのが楽しいようで、そこから、年長児の動物づくりをまねして、積み木を段ボールに変えてつくることにした。 ・「明日は、足つくりう」「その次は顔だね」と毎日少しづつつくり、だんだん出来上がっていくことが嬉しいだった。 ・初めは、ガムテープを切るのも、思い思いにやっていたが、「ここもつくるから切って」 「わっちゃんが形描いて。僕が切るね」と二人で二人で一緒につくりうとすると姿が増えていった。 ・「こっちのカッ普のがいい！」「これの方がいい」とぶつかり合うと、写真を見ながら、折り合いをつけ決めたりしていた。	☆年少は素材のイメージやたくさんの材料から選ぶことは難しいので、幼児が「丸っぽい棒みたいな形」など話していたことに近い物を多すぎないようにいくつか用意しておくようにした。 ◇それぞれがイメージしたことや、アイディアが相手に伝わるように言葉を補って支え、友達の思いや考えに気付いたり、関心がもてるようにしていたりする。	・年少の実態としては、協力することは、協力することや考えを出し合うことは難しいため、ねらいとして「一緒につくる楽しさを味わうこと」「友達に思いを伝えたり、相手の思いに気付いたりする」ことを目指した。このねらいは、協同して遊ぶ経験にもなる。ただ、教師がねらいをどこにおくかで全く違う活動や実態に合わない活動になってしまったため、年少としてのねらいを意識することがとても重要だと感じた。	・年少はイメージを言葉にするのはとても難しいので、そこは配慮し、言葉を補い、「僕はここをやりたい」「この材料を使いたい」など自分の思いを言葉にして伝えることを経験できるようにした。 年長になって、協力して進めたり、考えを出し合ったりする段階に至る前に、二人で伝え合いながら、一緒につくることで、二人なりに手伝い合ったり、自分の得意なことをやつたりする姿が遊びの中で見られるようになった。	・二人にとっては、協同して遊ぶ経験になつたが、今年度の体制、この二人だからできた活動だと感じた。	
4歳 IV期	○自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気付いたりしながら遊ぶ	（） 1 0 月 下 旬 （） 1 1 月 下 旬 （） 1 2 月 （）	・動物園後は、一番お気に入りだつたホワイトタイガーを積み木でつくって、見立てて乗って遊んだ。乗つて遊ぶのが楽しいようで、そこから、年長児の動物づくりをまねして、積み木を段ボールに変えてつくることにした。 ・「明日は、足つくりう」「その次は顔だね」と毎日少しづつつくり、だんだん出来上がっていくことが嬉しいだった。 ・初めは、ガムテープを切るのも、思い思いにやっていたが、「ここもつくるから切って」 「わっちゃんが形描いて。僕が切るね」と二人で二人で一緒につくりうとすると姿が増えていった。 ・「こっちのカッ普のがいい！」「これの方がいい」とぶつかり合うと、写真を見ながら、折り合いをつけ決めたりしていた。 ・出来上がると、大喜びして、走らせたり二人で乗つて遊んだりしていた。	◇つくる中で相手に自分の思いや考えを伝えようとする姿を支えたり、自分の思いだけで進めているときには、相手に聞いてみることを促したりし、言葉で伝える経験を重ねていけるようにする。	◇出来上がった物で、一緒に遊んだり、楽しんだりすることで、一緒につくれた楽しさや嬉しさが十分に感じられるようになる。		

4歳 IV期 (ー) 1月 11月 下旬 0月 下旬 1月 2月	<p>(動物園ごっこ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児との動物園ごっこでは、ホワイトタイガーのグループに加わって、つくり、開園準備に参加したでした。</li> <li>・動物園が開園すると、初めは飼育係を少し不安な表情でしていたのだが、何日か遊ぶと「飼育係がいい」とお客様ではなく、飼育係をいつも選んでいた。</li> <li>・動物園が開園し、何日間か遊んだときに振り返りをすると「秘密とか話したりと嬉しいことに話していた。」</li> </ul>	<p>◇年長児の中で思いを表したり、伝えたりで生きおくようにきっかけをつくると共に年長児からアプローチをかけてもらえるようになる。</p> <p>◇つくるだけではなく、動物の生態に関するように一緒に絵本や図鑑を見て、いろいろなことを知る楽しさを感じ、興味を深めていけるようになる。</p> <p>◇お客様が喜んでいた様子や本児がつくつたものに対して、年長児が話していたことを伝え、できあがつたうれしさやみんなと一緒に動物園を開くことができた楽しさを感じられるようになる。</p> <p>◇本児がどんな様子で年長児の中で過ごしているか、感じているか、育ちが何なのかを捉え、考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動では、年長児と一緒に活動する楽しさを味わえることが大きなねらいとして捉えていた。しかし、この活動が終盤に差し掛かったときに、本児が伝えることの楽しさ、相手に伝わることの楽しさを味わい、充実感を味わっていることを感じた。</li> <li>・自分の気の合う友達ではなく、たくさんの人との関わりの中で、相手に分かるように伝えようとしたり、コミュニケーションをはかりながら自分のできることをしようと一生懸命活動したりしたことは、教師が考えていた以上に幼児自身が自信をもつこことができた。友達との関わりの中で充実感を味わって遊びを楽しめたことが、協同性の芽生えとも言えるのではないかと思う。</li> </ul>
4歳 IV期 (ー) 1月 12月 下旬 1月 2月	<p>(かるたやトランプ遊び)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児とのつながりが少しずつ感じられるようになってきて、「入れて」「抜けるね」「誰から?」など年長児に必要な言葉を伝えたり、やり取りしたりして遊ぶ姿が見られた。</li> <li>・「今日は年長さんと勝つって、2位だった!」と楽しさを感じ、「やり方知らない」という新しい遊び10月びも年長児から教えてもらひながら遊んでいた。</li> </ul> <p>○自分の気持ちを伝えたり、相手の話をよく聞いたりしながら遊び</p>	<p>◇遊びの中で幼児同士でやり取りする中で伝え合う姿を見守り、その中で相手の話を聞いたり、自分の思いを伝えたりする経験を重ねられるようになる。</p> <p>◇「勝手嬉しい」「負けた悔しい」など遊びの中での感情体験をする中でも、そこに面白さを感じ、繰り返し楽しめるように、気持ちに共感したり、応援して楽しい雰囲気をつくったりする。</p> <p>◇友達がしていることに関心をもち、友達の話をよく聞くとする姿勢を大切にし、気付いていないときには、気付かせていくようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達との関わりを深めて遊びの中で「相手の話に関心をもつて聞く」ということがこの年少のこの時期に育たいことであると思う。</li> <li>・年少の協同性を育てるということを考えると、友達との関わりにおいて、「伝える」「聞く」「やり取りを楽しむ」など、年長の活動につながっていく様々な観点がねらいになると感じた。</li> </ul>
4歳 IV期 (ー) 1月 12月 下旬 1月 2月			

(①1月 お正月遊び)	・戸外での鬼ごっこやこま回しなどでは、友達と遊ぶことが楽しい様子がある。年長児が遊んでいる中に「入れて」と伝えて遊んでいるが、年長児に伝わっていないかたり、何の鬼ごっこなのか、誰が入っているのかわかつていなまま遊んだりしている様子が多い。相手とのやり取りではなく、「入れて」って言つたから！？という気持ちが見られた。こま回し遊びでも、勝負しているグループに急に加わっている場面が多い。	◇幼児自身が友達との関わりの中で伝わつてないことで困ったり、自分なりに考えたりする場面を経験できるよう少し見守るようにする。	・年長児と遊ぶことが多いため、誘い掛けてもうつたり、なんとなく仲間に入っていたりしていったため、幼児同士で相談する中で話があまり理解できていなくて、一緒に遊ぶことができてしまう様子があった。
4歳 V期 1月～3月)	○友達との関わって遊ぶことを楽しみ、やり取りをしたり、相談したりしながら遊びを進めようとする	◇教師自身も言葉の伝え合いの様子を深く見て、誰に伝えたいのか、どんな言葉が足りてないのか、把握して援助につなげていく。	・遊びの中で必要な言葉を伝えることや簡単な言葉のやり取りが2学期には育ってきたが、年長で幼児同士で遊びを進めていく姿の前段階として、3学期は幼児同士での言葉のやり取りが活発になることが大切な課題と思われた。「相手に伝わっていない」「聞いても覚えない」「遊びたいのに、続かない」など、うまくいかずに困る経験を重ね、どんな伝え方がよかつたのか、どうやって相談するとうまくいくのか、友達はどうんな話をしていたのか、など教師は幼児が困り感を経験できるよう見守りながら、必要に応じて考え、気付かせて、幼児が試行錯誤しながら友達とやり取りすることこそが、協同性の芽生えを育むためには必要だと感じた。

## (②2月 戸外遊び)

・「バナナ鬼やろう」と年長児に誘い掛けたが、鬼がわからないうま、みんなが逃げ始めてしまい、困っていた。普段は、遊び始めや相談している時に場を離れてしまうことが多かった。「鬼はどうする？」と言っても、伝わらずに困り果てた。年長のゆうきがその様子を見て、「待って待って」と一緒に声をかけてくれ、「鬼は誰？」「何人する？」と伝え、なんとか決め、遊び始めたことができた。



◇自分が伝えたいことや決めたいことを一緒に遊ぶ友達が聞いてもらえないことで、感じたことや気付いたことを受け止め、相手の話を聞く大切さや相談するときは、近くで一緒に考えないと困ることなどに気付けるようにする。

◇自分から年長児に誘い掛けたり、やりたいことを伝えたりして、自分から発信する姿を大切にしながら、相手に伝わってうれしいという気持ちが経験できるようにする。

・遊びの中でも必要な言葉を伝えることや簡単な言葉のやり取りが2学期には育ってきたが、年長で幼児同士で遊びを進めていく姿の前段階として、3学期は幼児同士での言葉のやり取りが活発になることが大切な課題と思われた。「相手に伝わっていない」「聞いても覚えない」「遊びたいのに、続かない」など、うまくいかずに困る経験を重ね、どんな伝え方がよかつたのか、どうやって相談するとうまくいくのか、友達はどうんな話をしていたのか、など教師は幼児が困り感を経験できるよう見守りながら、必要に応じて考え、気付かせて、幼児が試行錯誤しながら友達とやり取りすることこそが、協同性の芽生えを育むためには必要だと感じた。

・協同性の芽生えが明らかに見えるものではなく、一度経験したから、すべに身に付くものではない。そのため、この事例の場面で協同性が芽生えが見られた明らかな場面はない。しかし、日々葛藤経験を重ね、試行錯誤しながら、自分の思いの表し方や友達との言葉のやり取りの仕方を学んでいくことこそが協同性の芽生えを育む上での時期に必要なことだと思った。

4歳 V期	2月 中旬	( 1 月 ) ～ ( 3 月 )	<p>（戸外遊び）</p> <p>・二学期は、鬼ごっこをしていても、「僕は警察」と決めていて、相手チームの人数が足りなくとも、変わることがなかった。しかし、「どっちが少ない？」という言葉が聞かれるようになってしまった。</p> <p>○友達の話をよく聞き、思って気付いたり、受けようとしたりする入れようとしていた。</p>	<p>◇友達の表情や動きに関心をもつて気付いたり、それを受けて考えたりしている姿を大切に認める。</p> <p>◇友達と遊びの中で友達の話に耳を傾けたり、相談しようと友達の輪の中に加わって一緒に考えたりする姿が見られるようになつたことを、具体的に認める。</p> <p>◇幼児同士で相談してみんなで決めた遊び方が十分に楽しめるように、遊び出しの場面を見守ったり、教師も仲間の一人として、最後まで一緒に遊びを楽しんだりしながら、支えていく。</p> <p>・また、遊びから抜ける時には、「この一回が終わったら、やめるね」と伝え、「なんで？」と言われると、「ブランコがやりたいんだ。抜けていい？」と相手の話を聞いて、自分のやりたいことを伝えていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三学期に入つて、自分自身が困る経験を重ねたことで、友達の気持ちを考えたり、自分の思いを伝えたりするだけではなく、それに対して、友達の気持ちや反応を気にかけ、耳を傾けるようになつていった。</li> <li>・協同性を育む段階を考え、実践を重ねる中で、「友達の話を聞く」「耳を傾けて聞く」というねらいの奥には、友達の表情や動きから、相手の気持ちに关心をもつてることが、育ちの一段階として重要だと感じた。この気持ちの育ちがあると、教師の仲立ちがなくとも、幼児同士のやり取りが活発になり、相手を受け入れたり、相談したりすることができるようになつていくよう思う。</li> <li>・今年度、気持ちの面で、段階を追いながら育ちの姿が見られているのは、一緒に遊ぶ相手が年長児だということでも大きいかもしれない。相手が話を聞いてくれているということが、日頃から経験できているので、自分も話を聞くこと、受け入れることが育っていくと思われ、また、年長児がわかるように話をしてくれているので、話をより聞くようになつていつたと思われる。</li> </ul>

			(生活発表会に向けたの取り組み)
4歳V期	1月 下旬	2月 下旬	・発表会に向けての劇や合奏では、初めは、「難しそうだな。できないかもしないな」という声が聞かれていた。取組みの中で、一番意欲につながったのは、年長児の存在だった。
	（○友達とみんなで取り組む ○楽しさを味わい、つながり を深める ～）	（～）	「ゆうたくんみたいに、明日は大きい声でやってみたいな」「今日、かずてるくん、すごいじょうずだつたよね」「昨日お休みだったから、あかりちゃんが教えてくれたよ。」など、友達から刺激を受けたり、友達のいい所に気付いたりして、一緒に取り組む力になっていた。発表会を終えた時には、「難しいと思ったけど、やってみたらできた」という充実感を味わっていた。また、劇では「僕の出来事、みんなの中で自分の役割を考え、力を發揮しようとするとともに、一緒に出る友達が力を発揮する姿にも関心をもつことができた。
			・発表会に向けて、一緒に頑張って取り組む時間を過ごしたことで、今まで以上に生活や遊びの中で会話が増え、誘い合って遊ぶようになっていた。
	1月 （～）	2月 （～）	◇年長児と一緒に活動する中で、年長児のよさや頑張りがあこがれの気持ちにつながるよう、その姿を知らせ、目が向けられるようになり、一緒に過ごす中で感じたことや気付いたことを日々受け止めた。
	3月 （～）		◇日々の振り返りの時間を持ち、自分の頑張ったことや明日頑張りたいことを自分なりに言葉にする経験を大切にし、それを教師も十分に受け止め、認める。
			◇年長児が本児の頑張りを認めてくれたり、教えてくれたりする姿や場面を大切にし、年長児とのつながりを感じながら、取り組めるようになる。
			◇みんなと一緒に取り組む中で自分の力を発揮する充実感に共感したり、自分の役割を考えて行動する姿を認めたりし、やり遂げた満足感を実感できるようになる。
			◇難しいな、ドキドキするな、うれしいな、など様々な感情の流れ動きに寄り添い、それをみんなと一緒に乗り越えられたという嬉しさや楽しさが自信につながったり、友達とのつながりを深めたりできるような経験になるようになる。
			

# 5歳

期	月	ねらい	幼児の具体的な姿 ( <u>協同性の芽生えが見られた場面</u> )	☆環境構成・◇教師の援助	参考
5歳 1期	（ 6 月）	○友達と一緒に遊んだり、活動したりする 中で、互いの思いを出し合い、共感したり、試したりする	<p>(年少組を迎える会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人数が少ないこともあります。毎日一緒に遊びの中で、年少児に親しめるようになります。</li> <li>・昨年度の迎える会の様子を写真で用意する。</li> <li>・昨年度は自分たちが迎えてもらった年少組を迎える会を行うにあたり、「年少さんに喜んでもらいたい」という共通の思いが見られ、そのためにはどうしようと意見を出す姿が見られた。</li> <li>・プレゼントについて話し合うと、「男の子だから遊ぶものをプレゼントしたい」「それいけね」など友達の話に共感し、一緒に考えようとする様子もあった。</li> </ul>	<p>☆年少と一緒に遊ぶ時間を確保し、年少児に親しみがもてるようになります。</p> <p>◇写真と一緒に見ながら、昨年度振り返り、「今度は自分がやってあげたい」という意欲に繋がるようにした。</p> <p>◇話し合いの時間をじっくり取り、個々の思いや考え方を互いに聞くことができるようにした。</p> <p>◇年少児の人数が少ないこともあり、プレゼントや装飾は自分ができることや取り組んでみたいことを尊重し、分担しながら「年少組を迎える会」という共通の目的に向かって意欲的に取り組めるようにした。</p>	<p>・今年度は入園当初から年少児とのかかりが密にあったので、幼児一人一人が年少児に親しみを持ち、「喜んでもらいたい」という気持ちが強く見られたように思う。</p> <p>・初めての活動だったので、「楽しい」「やってよかった」と感じられるように、幼児の意思を尊重しながら分担して行ったことで、とても意欲的に取り組むことができたように思う。</p>
				<p>☆自分の好きな遊びや友達と関わって遊ぶ時間を作りと確保し、思い切り遊べるようにした。</p> <p>☆日々の幼児の遊びから翌日の遊びを想定し、道具や環境を整えたり、変えたりする。</p> <p>◇教師も一緒に遊びの中で、個々の児童理解を深めていく。</p> <p>◇友達とのやり取りを見守り、必要に応じて補足をしたり、仲立ちをしたりして友達との関わりを深めたり、遊びを広げたりできるようにする。</p>	<p>・友達のしている遊びに興味を持つ児童が多く、「何してるの?」「一緒にやつてい?」など積極的に参加するので、教師も一緒に遊びながら、幼児が個々の思いを伝えたり、友達の話に耳を傾けたりして遊びを進められるように見守り、援助を行うようにした。</p> <p>・試行錯誤しながらトンネルが繋がった時にはとても嬉しそうに友達と喜び合う姿が見られた。この経験が、また違う遊びや活動へつながっていくと感じた。</p> <p>◇降園時には振り返りを行い、他の児童にも知らせていく。</p>

期	月	ねらい	幼児の具体的な姿 (協同性の芽えが見られた場面 )	☆環境構成・◇教師の援助	考察
5歳 Ⅰ期 ( 6 月 )	6月 下旬	○友達との繋がりを深め、友達と考えを出し合い、遊びことを楽しむ	(ゲームボックスを使って) 「迷路を作ろう」 ・ホールに用意したゲームボックスにとても興味を持ち、意欲的に遊び姿を見られた。最初は、出来ているものだけで満足していたが、次第に物足りなくなったり「2階建てにして」「もっとつなげたい」などの思いが聞かれるようになり、友達とどこに繋げるか相談する姿もあった。 ・「お化け屋敷」「道路」「おうち」など個々にイメージを膨らませて遊び姿が見られ、 <u>イメージの違いからトラブルになることもあった。</u> ・ゲームボックスで遊び始めて1週間程度経ち、「迷路を作りたい」という思いに多くの幼児が共感をし、「迷路を作つて年少さんを呼ぼう」と作り始めた。	☆悪天候が続いたため、ホールにゲームボックスを用意し、少し繋げた状態で置いておく。 ☆残りのゲームボックス、ネジは幼児がすぐには使えないように置いておく。 ◇最初は「2階にしたい」などの思いを受け、教師が変えていく。「やってみたい」とい気持ちが見られたら、ゲームボックスを使うときの約束をクラス全体で確認し、教師と一緒に組み立てを行うようにした。 ◇単発で終わらせるではなく、継続的に遊べるように計画を立てた。 ◇一人一人のイメージに共感しながら、それぞれの思いを他の幼児にも知らせ、互に興味がもてるようになる。	・天気が悪くなかなか思い切り体を動かすことができない時間だったので、とても興味をもって遊ぶことができ、友達との遊びを充実させるよい経験になった。 ・継続的に遊べる環境を用意したことでも遊びも満足でき、友達の提案に個人の遊びも満足でき、友達の提案にも共感できるようになつたのではないかと思う。 ・ゲームボックスだけではなく、巧技台やマットなども繋げていけるように環境や援助が出来たらもっと遊びが広がったと思う。巧技台の経験がほとんどないようなので取り入れていきたい。
5歳 Ⅱ期 ( 7 月 )	7月	○友達との繋がりを深め、友達と考えを出し合い、遊びなどを楽しむ	(車遊びから街づくりへ) ・動く車をつくって走らせて遊んでいたことからホールに道をつくると、本物の道のようにラインを引いたり、駐車場をつくりする姿が見られた。 ・道をどんどん延ばしたい、自分の家をつくる、お店が欲しいなど様々なイメージの中で、共通の「街つく作りたい」という気持ちが芽生えた。そのことで「信号も必要かな」「海もくろう」「電車も走らせたい」などさらにイメージを広げ、教師や友達と一緒に実現していこうとする姿が見られた。	☆幼児の興味を把握し、遊びが広がっていくようにホールに場を設定する。 ☆段ボールや画用紙、ガムテープなど遊びに必要な物を想定し、用意する。 ◇「車を走らせたい」「家をつくりたい」など個々の思いを受け止め、一人一人が満足感を感じられるように心掛けた。 ◇遊びの終わりにはそれぞれがどんなものをつくっているのかを知らせ合う時間を設け、共感したり、友達の遊びを尊重したりできるようにした。 ◇「一緒につくろう」「手伝って」など必要な言葉を使つて相手に伝えていけるようにする。	・今までの遊びよりも規模が大きいので、一人でやるだけでなく友達と一緒につくることができるよう、コミュニケーションや必要な言葉を知らせた。 ・それぞれの興味や得意・不得意などを考えながら協力し合えるように声掛けや援助をしたが、教師の方が「みんなで」という気持ちが強くなりすぎた部分があつたので、発達などを改めて考えながら声掛けなどをしていくたい。 ・幼児のイメージを聞きながらじっくり時間をかけて遊べるように環境を整えたことで、一人一人が「樂しかった」と満足感や達成感を感じることができた活動になつたと思う。



期	月	ねらい	幼児の具体的な姿 (協同性の芽えが見られた場面 )	☆環境構成・△教師の援助	考察
5歳 III期	10月 下旬 ～11月 月中旬	(集団遊び) 「鬼ごっこ」 ・増やし鬼や氷鬼の遊びから、「ゾンビ鬼をしよう」という提案が出てきた。「どんな鬼ごっこにしようか」「ゾンビが追いかけて、捕まつた人がゾンビになる!」「ゾンビも動いていいことにしてようよ」など様々なアイディアが出てきた。	☆幼児が思い切り走って遊ぶことができるよう他の遊びを考えながら場所を確保する。 ◇幼児同士のやり取りや遊びを進めようとする姿を見守る。 ◇複数の意見でまとまらない時にはすぐに口を出さず、幼児の葛藤体験を大切にする。その上で、必要に応じて、一つずつ試してみることを提案し、一緒に遊ぶ中で良いところを認めたり、楽しさに共感したりした。繰り返し遊び中で、幼児自身が楽しいと感じるルールを友達と一緒に決めていくことができるようになる。。	・友達と考えを出し合い、考える姿や、試してみて、「楽しかったからもう一回同じように遊ぼう」など繰り返し遊びの中で、一つの「ゾンビごっこ」を友達と一緒に作り上げていくことができた。 ・大きな活動や行事だけでなく、普段の遊びの中でも協同性の芽生えや育ちが見られることが増えてきた。今までたくさん親しんできた遊びをきっかけとして、新しい遊びを提案したり、誘ったりと幼児同士の関わりが深まってきているように感じる。ただ、行事や製作等の他の活動が増えた中、まとまって遊べる時間を取り、継続して遊べる様に計画を立てるられるように心掛けたが、なかなか計画通りにいかず、遊びが中途半端になってしまふこともあった。連続して遊ぶことができるのは環境があることは友達関係や協同性を育む上で、重要だと考える。	

期	月	ねらい	幼児の具体的な姿 ( <u>協同性の芽生えが見られた場面</u> )	☆環境構成・◇教師の援助	考察
5歳 Ⅳ期	11月 0月 下旬 1月 2月	(動物園ごっこ①)  ・バス遠足をきっかけに動物園をつくることになり、どんな動物園にしたいかを話し合った。自分の思いや考えを離したり、友達の意見を聞いたりする中で、友達の考えに触れて共感したり、自分では思いつかなかったアイディアに驚いたりしながら、「動物園を開園する」という共通の目的に向かって、話し合いを繰り返した。  ○共通の目的に向かって相談したり、考えを出し合ったりし、遊びや活動を進めようとする  ○友達と一緒に思いを実現したり、見通しをもつて進めたりする	☆①様々な大きさの段ボール ②空き箱、新聞紙、芯材、などの材料 ③キャップ、ストロー、紙皿、コップなど ④絵の具、フェルト、布、ラシャ紙などの色付けの材料 遊びの様子や活動状況を見て、すぐに出せるように用意しておく	<p>☆①様々な大きさの段ボール ②空き箱、新聞紙、芯材、などの材料 ③キャップ、ストロー、紙皿、コップなど ④絵の具、フェルト、布、ラシャ紙などの色付けの材料 遊びの様子や活動状況を見て、すぐに出せるように用意しておく</p> <p>◇幼児同士のやり取りや意見の言い合いを見守りながら、必要に応じて声を掛けたり、相手の思いに気付かせたりしていく。</p> <p>◇活動の始めには、その日にやることをみんなで確認し合うようにし、活動の終わってつくった部分を他のグループにも知らせたりすることができるよう時間を作れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初は活動に戸惑い、なかなか自分の思いや考えを話すことができない幼児もいた。しかし、継続した活動の中で、自分の思いを友達が共感してくれたり、考えたことが形になつていったりすることでも少しずつ自信をもつことができるようになってきている。</li> <li>自分の思いだけでは進まない、相手の考えを受け入れるなど、様々な葛藤体験を繰り返すことは協同性を育む上で大切なことであり、受け入れたり、受け入れられたりしながら進めていくようになることで、遊びや活動が進んでいくということを学ぶよい機会になった。</li> <li>活動を始める前に、その日につくる部分や今日やることなどを具体的に考え、確認することで、見通しをもつことができ、活動に意欲的に取り組む幼児も増えた。</li> </ul> 

期	月	ねらい	幼児の具体的な姿 ( <u>協同性の芽えが見られた場面</u> )	☆環境構成・◇教師の援助	参考
5歳 IV期 ( 1 0 月 11月 下旬 )		(動物園ごっこ②)	<p>・動物づくりを進めていくと、「顔も本物みたいにつくりたい」「尻尾もあるね」「模様はどうやってつけようか」など次々と考えが出てくるようになった。そこで、友達と一緒に遊びを進めやすいように開園までの予定表をつくった。<u>2つの物の目安や開園まで何日あるかなどを友児同士で確認しあい、「今日は絶対に○だけは終わらせようね!」などと目標を共有する姿があつた。</u></p> <p>○共通の目的に向かって友達と一緒に遊びを進め、達成感や充実感を味わう</p>	<p>☆開園までの予定表を大きく用意し、各グループごとに見通しがもてるようにする</p> <p>◇イメージが沢山出ってきたことで、話し合って決めた部分ではなく勝手に進めようとしてしまう幼児もいるので、確認ができるように促したり、自分の気持ちを伝えるように援助したりした。</p> <p>◇使う素材や大きさ、接着など様々なことで悩み、迷う姿が見られたが、教師はできるだけ見守るようにし、自分たちが「これでつくろう」と納得して進められるように心掛けた。必要に応じて一緒に考えたり、ヒントを出したりして援助した。</p> <p>・活動の終わりに、今日できた部分、工夫したことや頑張ったことなどを発表するようにしたことで、<u>互いのグループの様子を知ったり、刺激を受けたりしている様子があつた。</u></p> <p>・動物園の開園では、積極的にお客様に話かけたり、自分で調べた動物の秘密を教えていた。「知らなかつた!」「すごーい」と認めてもらうことで、自信となり、自分なりに楽しみながらお客様とのやり取りをしていた。また、開園できることの達成感や充実感を一人一人が感じ、「<u>また明日も開園しよう!</u>」「<u>お客様にもなつてみたいな</u>」と繰り返し楽しんでいた。</p>	<p>・動物園の開園に向けて、予定表をつくったことで、視覚的に目標がはっきりし、幼児の意欲が高まつたように戻る。また、見通しがもてないことで不安になつてしまふ幼児も、毎日友達と確認し、表記することで、自分自身で確認をし、安心して活動することができた。</p> <p>・毎日活動を共にしても、なかなか思いやを考えを相手に分かることは伝えることが難しかったり、相手にうまく伝わらなくてライライしたりすることもあつたので、教師が見守りと援助を見極め、柔軟に対応していくことが大切だと感じた。</p>

期	月	ねらい	幼児の具体的な姿 ( <u>協同性の芽生えが見られた場面</u> )	☆環境構成・◇教師の援助	考察
5歳 V期			<p>(正月遊び)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の知っている遊びを友達に教えた り、一緒に考えたりしながら一緒に遊ぶ姿が見られる。その中で、互いの知つているルールを確認し合い、どのよ うなルールで遊びかを一緒に考える姿 が見られる。</li> </ul> <p>○遊びや活動の中で、 自分の力を発揮し、 互いに認め合いながら進める</p>	<p>☆それぞれの遊びをじっくり楽しめるよ うにコーナーをつくる。また、道具は 使いやすいように置いておく。</p> <p>◇教師も一緒に遊びの中で、幼児の考え方や 思いを認め、互いに知らせられるよう にする。</p> <p>◇できるようになろうと繰り返し努力す る姿を認め、自信をもつたり、自分の 力を発揮したりすることができるよう にする。</p> <p>◇友達の話を聞いて、取り入れたり、コ ツや遊び方を聞いて真似をしたりでき るよう声を掛けたり、気付かせたり する。</p>	<p>・友達と一緒に遊べる時間を計画的につくる ことで、幼児もやりたい遊びやでき るようになりたいことじっくり取 り組む事ができた。そうすることで、 友達と一緒に遊び方を考えたり、友 達の姿を認めたりできるようになり、 また、繰り返し努力し、自分の力を 発揮しようとする様子も見られた。</p> <p>・幼児同士が考えを出し合ったり、一 緒に遊びを考えたりすることができ るように、教師は見守ることを中心 け、必要に応じて仲立ちや補足など を行うようにした。</p> <p>・遊びの中や降園時などに、上手にな ったことを見せてもらったり、遊び について話をしてもらったりするこ とで、興味・関心を高められるよう にした。しかし、興味に偏りがあり、 全體に広がるまでに時間がかかった。 もっと誘いかけ、きっかけをつくっ たり、コツや面白さを伝えていける ようにし、もっと友達と認め合って 遊べる経験をすることができるとよ かった。</p>



5歳 V期	（生活発表会 剧） ・生活発表会に向け、どんな劇をするか、みんなで話し合いを行った。人前で話をすることが苦手な幼児は、劇をすることに消極的だった。しかし、劇が決まり、劇ごっこをして繰り返し遊ぶことで、少しずつ自分の言葉で話せるようになつた。 そのことを教師や友達に認めてもらえたことが自信となり、配役決めでは、積極的に自分のやりたい役に立候補できるようになった。	<p>☆絵本やビデオを利用し、幼児がイメージしやすいようにする。</p> <p>☆お面を用意する。</p> <p>☆遊びの様子を見ながら、小道具や音楽などを出せるように用意しておく。</p> <p>◇劇の発表に向け、幼児によって取り組み方や気持ちに違いがあるので、実態を把握し、幼児が無理なく楽しんで取り組むことができるよう計画を立てた。</p> <p>○遊びや活動の中で、様々な役を知ったり友達とのやり取りを楽しんだりすることができるよう心掛け、遊びに取り入れていく。</p> <p>◇「こうやって言ってみようかな」「こんな動きをしてみよう」という気持ちを大切にし、自分なりにできることを認めたり、他の幼児にも知らせたりする。</p> <p>◇困っている友達に教えたり、一緒に考えたりできるように、きっかけをつくり、見守る。必要に応じて教師も仲立ちしていく。</p> <p>◇自分たちが演技している様子を撮影し、観ることで、自分がどう見えているのかを知ったり友達の頑張りに気付いたりできるようにし、お互いに認め合って共通の目的に向かって頑張れるようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話をすることに抵抗や不安を感じる幼児がいる実態があったので、少しでも抵抗がなくなったがり、自信をもつたりすることができるよう進め方を考えた。</li> <li>・劇ごっこの中で、友達と一緒に自由に動いたり、真似をして話したりする時間を設けたことでどんなふうに進んでいくかを知ったり、話したことを見たときに安心したりする様子が見られた。</li> <li>・友達に助けてもらしながらできるようになつたり、出来たことを認めてもらつたりしながら、一緒に一つのものを作り上げていく楽しさや、達成感は幼児の自信となり、積極性や挑戦する気持ちなど様々な変化が見られた。</li> <li>・自分たちが演技している様子を撮影し、観ることで、自分がどう見えているのかを知ったり友達の頑張りに気付いたりできるようにし、お互いに認め合って共通の目的に向かって頑張れるようになる。</li> </ul>



			(主体的に園生活を送る)	
5歳 V期 (一) 月 2月 3月	自信をもつて行動し、友達と一緒に協力して園生活を進める		<p>☆一日の流れや予定が分かりやすいように表示する。また、時間も一緒に表示する。</p> <p>☆初めてのことや普段と変わることは細かく示しておく</p> <p>◇幼児が自分で考え行動できるように見守り、できることを認めたり、褒めたりし、自信をもつて行動できるようにする。不安が強い幼児にはこまめに声掛けをし、間違っていないことを知らせたり、「先に○○するともっと良いよ」と提案したりしていく。</p> <p>・今まで、教師に確認してからでないと、安心して行動できなかつた幼児も、友達の声掛けに応じて一緒に行動したり、友達の様子を見て、安心して動いたりすることができるようになった。</p> <p>・「お弁当だから机を準備しよう」「絵本を借りに行くからバックやカードが必要だ」など、遊びや活動のために必要なことを自分なりに考えて、やろうとする幼児の姿があり、友達に刺激を受け、自分から進んで行動しようとする様子が見られるようになつた。教師がいなくても、友達と協力したり、分担したりしながら一緒に園生活を進められることも増え、主体的に行動できるようになつた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表示を行ったことで、幼児が自分で確認しながら行動することに慣れ、協同性が育ってきたことで、教師ではなく、友達同士で気付かせ合ったり、友達の姿を真似したりできるようになつた。しかし、活動や遊びの様子次第で変更することも多く、急な変更が苦手な幼児に対しては教師の関わりが必要なこともあります。幼児や場面に応じて、見守りや援助をしていく必要がある。</li> <li>できたことを一つ一つ細かく認めたり、褒めたりすることで、自分の行動に自信をもつことができるようになり、その姿が他の幼児にも良い影響を与えたようと思う。友達同士の関わりや信頼関係が深まつたこの時期だからこそ、友達の姿に刺激を受け、行動できるようになったと思う。</li> </ul>

## 6. 事例を通して

・初めての集団生活をする4歳児は、まずは、一人一人が教師との信頼関係を基盤に、安心して自分のやりたい遊びを十分に楽しめるようになります。この時、教師は幼児の思いに寄り添い、一緒に遊びを楽しんだり、幼児が遊びを見つけ、安心して園生活を過ごせるようになります。そこで、自分の好きな遊びを見つけることや、同じことをする楽しさを感じるようになります。つまり、幼児が友達に関心をもつて遊ぶ姿は、友達と協同して遊ぶ第一歩である。そのため教師は、発達段階に応じた活動の工夫や友達（人間）関係の広がりを意識した関わりなどが重要である。友達に 관심をもち始めた時期には、クラスで簡単なゲームやリズム遊び、絵本の読み聞かせなど、触れ合って遊ぶ楽しさを感じたり、みんなで楽しさを共有したりする機会を大切にし、教師や友達と活動する楽しさを味わえるようにすることが必要である。その時間を重ねることで、クラスの友達とのつながりが生まれ、数名の友達が集まつて遊んでいると「やつてみたいな」「仲間に入れて欲しい」という気持ちが芽生え、友達関係の広がりが見られるようになる。友達との関わりが楽しくなってきた2学期には、ヘビジャンケンや鬼ごっこなどの集団の遊びを取り入れていく。それは、大勢の友達と遊ぶ楽しさを知る機会でもあるが、時には自分の思い通りにならないという葛藤や「嬉しい」「悔しい」など様々な感情体験をすることで自分の感情の出し方、折り合いの付け方などを学んでいくことができる。その際、教師として必要なことは、幼児の心の動きを受け止め、必要な言葉を補いながら友達に自分の気持ちを伝えたり、友達の思いを知ったりして、幼児が友達との関わり方を身に付けられるようにしていくことである。これらの経験を積み重ねていく中で、やがて3学期になると、友達と誘い合って遊ぶ姿が見られ、友達の中で思いを出し、関わりを十分に楽しむながら遊ぶようになつていくことが4歳児として、幼児の協同性を育む上で大切なことだと事例を通して分かった。

・4歳児は、年間を通して、個の遊びから「友達と遊ぶのが楽しい」「友達といるのが楽しい」という気持ちが芽生え、その感情が5歳児で友達と関わりを深めて協同して遊ぶ姿へとつながっていく。5歳児につながる姿を見据えて、友達との関わりが段階を追って広がっていくようになります。友達と一緒に遊びを共有したり、思いを出し合ったり、思いを進めたりする経験が積み重なるように、保育計画や環境を工夫することが重要である。その計画や環境の元、子供たちは遊びの中で、友達同士で一緒に遊びを進めていく楽しさを感じる成功体験もあれば、互いの思いの相違から遊びが停滞してしまう経験もある。停滞した時には教師が子供たちの葛藤に寄り添い乗り越えていけるようにしたり、相手の考えを聞き、仲介し、受け入れて遊ぶ楽しさを感じ取れるように関わったりする。これらを繰り返し行うことにより、子供たちは徐々に協同性が芽生え、友達と一緒に協力して生活したり遊んだり学び合つたりする姿へとつながっていくのだと思う。

・5歳児は、一人一人が自己を発揮し、友達と意見を出し合って目的やルールを共有しながら遊びを進めていくことができるようにには、互いの良さに気付いたり、認め合つたりできるようなクラスの雰囲気をつくることが大切である。

## 7. おわりに

協同性を育むためには、各年齢の発達を理解し、その時期に必要な経験ができるように教師は見通しをもって遊びや活動を計画することがとても大切であると分かった。そして教師は、児童の協同性の芽生えを見取り、何を育てたいのか焦点を絞り、実態に合わせて適切に援助することで、より友達との関わりを深め、協同して活動する充実感を味わっていくことができるのだと思った。



令和3年度  
研究集録

資料 28

研究テーマ

「生活や遊びの中で数量、図形、文字などへの興味・関心、感覚を育むためには」



上尾市立平方幼稚園

# 令和3年度 園内研究 (1) はじめに

## (2) 研究の観点

### (3) 研究計画・内容

幼児期は、数量や図形、文字等を知識としてではなく、感覚を磨くことにより、小学校以降の学習への理解につなげることが重要であると考える。幼児の数量、図形、文字などへの関心を深め、役割に気付き、活用する楽しさを感じたり、感覚を磨いたりするためには、様々な場面で触れる経験を通して育むことが大切である。そこで、教師はどのように環境構成、活動、援助が必要かなどを研究していきたいと思い、テーマを設定した。

- ① 幼児期の終わりまでに育つほしい10の姿「数量や図形、標識や文字などの関心・感覚」の内容を理解する。
- ② 研究課題の方向性を共通理解する。
- ③ 幼児が「数量、図形、標識、文字」などへの興味・関心をどのように場面で深めているかを細かく見取る。
- ④ 数量や図形、標識や文字などに親しみ、役割に気付き、活用したり、感覚を磨いたりすることができるような活動の計画や環境構成・援助を工夫する。
- ⑤ どのような経験の積み重ねが、小学校の学習につながるかを検証する。

- ① 幼児の数量や図形、文字や標識などへの興味・関心の把握
- ② 5歳児における数量や図形、文字や標識などに焦点を当てた発達理解
- ③ 小学校入学までを見通した活動計画
- ④ 数量や図形、文字や標識などに親しむための環境の工夫
- ⑤ 豊かな学びにつながる経験や援助の在り方
- ⑥ 生活や遊びの中で見られる幼児の興味・関心の広がりや深まり、変化などを捉える

## (4) 幼児の実態(年少～)

### (数量への興味)

- 数が多い、少ないという感覚は身に付いている。
- 年少入園時から、一対一対応ができる。
- 時計の針を見て、数字を読んだり、時間意識したりする姿が見られる。
- 遊びや生活の中で「あと何人足りない」等、考えることができる。
- 数字の大小への関心が強い。
- 長さや高さ、広さへの関心はあまりない。
- 何本、何枚、何人等、物に合わせた考え方には身に付いていない。

### (図形)

- 四角、三角、丸、長四角等、形の理解ができる。
- 積み木、空き箱で好きなように形を組み合わせて遊んだり、イメージしたものを作ることを読む様子が見られる。特に、つくり方や出来上がりの形が決まっているものを作ることは、ほとんどない。
- また、剣や車等、興味があるものは、友達がつくっている物を真似て、簡単な物は同じものをつくることはできる。しかし、興味がないものは、やってみようとする意欲が低い。
- 家庭でも、レゴやブロック、折り紙遊び等の形をイメージしてつくる遊びをしていない。
- 折り紙遊びは、年少の入園の時に比べ、指先が器用になってきて、角を合わせて丁寧に折ることができるようにになってきた。しかし、見本や教師の折り方を見ながら、同じ形になるようになります。
- 雲や水たまりなどの形を見て、「○○みたいな形だね」とイメージしたり、連想したりする姿が見られる。

### (文字・標識への興味)

- 文字への興味があり、教室内の表示の文字やホワイトボードに書いてあることを読む様子が見られる。生活の中で、周囲の物を見て、関心をもったことが自分で読めることに便利さを感じている。ひらがなはスムーズに読むことができる。絵本を自分で読むことは、興味が見られない。
- 3学期の年長児へのプレゼントのペン立てづくりでは、年長児の名前を50音の平仮名シールで貼ってプレゼントした。文字を探して、見つけて貼ることを楽しみ、「『ゆう』がつく子が多いね」等、同じ文字が入っていることに興味をもっていた。
- 言葉遊びでは、シリトリーや例えば、頭に「あ」がつく物、言葉を集めることを楽しんでいた。語彙は、興味があるものに偏りがあり、食べ物、動物、乗り物の名前等、一般的に知られている名称も「わからない」「知らない」と答えることが多い、興味のないことはあまり記憶していない。
- 年長進級当初になると「平仮名」だけではなく、カタカナや英字を読めるようになってきたと話し、文字を読む楽しさを感じている姿が見られる。
- 自分の名前を一人で書くことができる。年長になり、苗字も大分書けるようになっている。兄の勉強している姿を見て、影響を受け、家庭では字を練習している様子がある。
- 歩いている時に見つけた看板に興味を示し、読んだり、意味を尋ねたりする様子がある。標識には、あまり関心はない。

### (ランプ・かるた遊び)

- かるた遊びやトランプ遊びでは、「僕の方がちよつと多いから勝ちだ。」と枚数を比べることができます。

期	1期(4月～5月)				
育てたいのね活動内容	環境構成と具体的な手立て	活動の様子	気付いたこと・考察	反評価	
遊びや生活の中で数量や図形、文字などに関心をもつ ・児づくりを通して、形を比べたり、形を組み合わせたりすることを楽しむ		<p>・遊びの中で、数を数えたり、数量を意識したりする楽しさを感じる</p>			
マリオのステージのイメージで運動遊びのコースをつくった。コースをゴールするごとにコインを数えたり、コインの獲得数を足したりすることで数量を意識して楽しめるようにする。		<p>・遊びながら運動遊びを楽しむ</p>			
【主な材料】 ・大中小いろいろな大きさと柄の三角形の折り紙・台紙・工作紙 【環境】 ・実物のかぶとを飾り、かぶとに興味を持ったり、形をイメージできるようにする。 ・材料を大きくや形でわかりやすく分けておき、貼る大きさや形形を考えたり、比べたりしながら選択できるようにしておく。 【手立て】 ・大きさや組み合わせ方を考えて試行錯誤する様子を見守り、じっくり取り組める時間を確保する。		<p>・遊びの中で、マリオのステージのイメージで巧技台のコースをつくり、運動遊びを楽しんでいた。数日後、本児が、ゴールするとコインをゲットできることを考え、繰り返し挑戦することを楽しむ姿へと変化した。</p> <p>・次第にコインを多く集めることに面白さを感じ、10個集めたら金、20個集めたら銀等、数が増えるとお宝をもらえるようになると、遊びを変化させ、継続して楽しんでいた。</p>	<p>今度は、もっと難しいコースにして、成功したら2枚ゲットできるルールにしよう</p>	<p>・遊びの中で自然と足し算のように数を加えたり、「あと〇個ゲットしたら30個になる」等、数を数えたり、考えたりする姿が見られた。</p> <p>・継続的に遊びことで、「1分以内にゴールする」「3回までチャレンジできる」等、アイデアが出てきて、いろいろな数量に触れることができた。</p>	
大中小の三角形の折り紙を貼り合わせてつくる兜		<p>・いろいろな大きさの三角形の形を選び、どれが隙間にちょうどいいか、どんな向きだとピッタリだとおさまるか、試しながら進めていた。次に合わせる形を想像したりしてすることで、図形や形に関心をもち、意識して考えることにつながっていた。</p> <p>・時間の経過と共に、「ここにした方がもう一つ三角が入りそう」等、組み合わせ方を工夫できるようになっていった。</p> <p>・「三角と三角を合わせると四角になる」「向きを変えると、ダイヤ（ひし形）になる」等、組み合わせているうちに気付き、驚いている姿があった。</p>	<p>ここには、小さい△がちょうどいい</p>	<p>かっこいいかぶとができるて、うれしい！真ん中の銀のダイヤ形のところがお気に入りなんだ。</p>	<p>・児児がテレビゲームが好きであるという実態を大切にし、そこから遊びにつなげられたことで、幼児が主体となつて遊び方を工夫し、数量に親しむ体験を取り入れながら遊ぶことができた。</p> <p>・遊びの中で、幼児から出でてきたアイデアで10個で金、20個で銀等、10個毎にお宝を設定したことで、10の集まりを意識した数量の感覚を豊かにできたのではないか。これは、小学校の算数につながるのではないか。</p> <p>・児児のアイデアの多くは、家庭でのテレビゲームの影響だった。現代の児児は、普段ゲームをする中で、点数や回数、時間制限等、遊びが面白いことでも経験してきた。そして、そういう数字の目安があることで遊びが面白いくことが多いので、現代の児児の実態も探り、のだろう。教師自身の感覚と異なることでも多いので、現代の児児の実態も探り、</p>
遊びや生活の中で、数量への興味は年少の時より、高まってきたいる様子を感じられた。マリオのステージの遊びをきっかけに教室環境に絵表示以外にも文字で示すことを増やすと、読むことにも楽しさを感じていた。数量は遊びに取り入れたことで、この期にねらって形が変わることや、組み合わせて形ができることが、児児にとって興味を深めながら遊ぶ姿につながった。					

・いろいろな標準に関心をもち、よく見たり、意味を知ったりする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時計や時間に興味や関心をもち、材料を選んだり、自分でつくりたい物のイメージを組み合わせたりしてつくりつくりする</li> <li>・自分でつくりたい物のイメージを組み合わせたりしてつくりつくりする</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの中で、数を数えたり、数量を比べたりする楽しさを感じる</li> <li>・栽培物の大さや形に関心をもち、比べたり、違いに気付いたりする</li> </ul>
・ジャガイモ・ミニトマトの栽培	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニトマトの収穫数を教室に表示し、継続して関心がもてるようにする。</li> <li>・種類の違うものの（ダンシャク・キタアカリ）（ミニトマト・トマト）を栽培することで、形や大きさの違いに関心がもてるようになる。</li> <li>・栽培物の大きさや形と一緒に比べてみると、幼児が気付いたことを伝えたりする様子を受け止め、発見する面白さに共感する。</li> <li>・収穫の数を数えることで、収穫数が日にによって増えたり、減ったりすることの喜びや楽しさを感じられるようになる。</li> </ul>
	<p>【手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き箱（大小）・発泡球・蓋・厚紙・モール・文字盤・数字・針の型紙・割りビン・テープ類</li> <li>・数字を1～12まで用意し、時計盤の紙に自分で並べながら貼れるようする。</li> <li>・材料を組み合わせて考える姿を見守りながら、必要に応じて、イメージに合う材料や接着の仕方と一緒に考えるようにする。</li> <li>・出来上がった時計で「寝る時間は？」「8時」等と、時間を合わせて遊んで楽しめるようにする。</li> </ul>
・木遊び（つくりたい物を木材でつくる）・木	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに製作するのではなく、いろいろな形や大きさの木材を置いておき、見たり、自由に触れたりできるようにしておく。</li> <li>・乗り物の図鑑を用意し、イメージを広げられるようにする。</li> </ul>
	<p>【手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな大きさの木材や端材を積み木のように遊べるようにする。自分で組み合わせて形ができる面白さや偶然に出来上がった形からイメージを広げて楽ししさを感じられるようになる。</li> <li>・自分なりに自由につくって組み合せる時間を十分にとり、考えたものを認め、材料の幅や長さを比べる姿や釘の長さを自分なりに考えたり試したりして試行錯誤する場面を大切に見守る。</li> </ul>
・木遊び（つくりたい物を木材でつくる）・木	 <p>どうやって床と屋根をつけようかな 釘の長さ、中ぐらいの長さの釘で</p>
	<p>「つくる」ことにあまり意欲が見られないことが多かったが、「大工さんだ」と言つて、木遊びには、道具に魅力を感じ、遊びを楽しんでいた。</p>
・ジャガイモ・ミニトマトの栽培	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニトマトの収穫数を教室に表示し、継続して関心がもてるようにする。</li> <li>・種類の違うもの（ダンシャク・キタアカリ）（ミニトマト・トマト）を栽培することで、形や大きさの違いに関心がもてるようになる。</li> <li>・栽培物の大きさや形と一緒に比べてみると、幼児が気付いたことを伝えたりする様子を受け止め、発見する面白さに共感する。</li> <li>・収穫の数を数えることで、収穫数が日にによって増えたり、減ったりすることの喜びや楽ししさを感じられるようになる。</li> </ul>
	<p>【手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き箱（大小）・発泡球・蓋・厚紙・モール・文字盤・数字・針の型紙・割りビン・テープ類</li> <li>・数字を1～12まで用意し、時計盤の紙に自分で並べながら貼れるようする。</li> <li>・材料を組み合わせて考える姿を見守りながら、必要に応じて、イメージに合う材料や接着の仕方と一緒に考えるようにする。</li> <li>・出来上がった時計で「寝る時間は？」「8時」等と、時間を合わせて遊んで楽しめるようにする。</li> </ul>
・ジャガイモ・ミニトマトの栽培	 <p>だんだん背が大きくなつたね。 より大きくなつた！</p>
	<p>「今日は、11個だから今まで一番多いね</p>
・砂時計やデジタル時計等、いろいろな種類を見比べて、数字の表示や針の形、秒針等、違ひを見つけて書くんだね！	 <p>12のとなりに1があるんだね！ 1の隣は2だよね</p>
	<p>振り子時計ができたよ。6 時は夜ご飯の時間だよ</p>
・砂時計やデジタル時計等、いろいろな種類を見比べて、数字の表示や針の形、秒針等、違ひを見つけて書くんだね！	 <p>振り子時計ができたよ。6 時は夜ご飯の時間だよ</p>
	<p>・砂時計やデジタル時計等、違ひを見つけて書くんだね！」とつくり始めた。振り子時計が気に入り、「あの大好きな時計をつくるんだ」とつくり始めた。振り子時計を見て、つくりたいイメージが膨らみ、四角と長四角の形を選んで接着し始めた。しかし、組み合わせた箱が合わず、よりも長い材料を選び直し、いろいろな箱で試して考えることはあまり気に入らない。そこで、「先生、今日○個ついてね」「今日は○日より多いね」等、収穫数を記録し、表示することで「先生、今日は○個ついてね」「今日は○日より多いね」等、収穫数を比べ、いくつ収穫できるか楽しみにしていた姿があった。時計盤をつくったり、マスキングテーブルで装飾したりする時には、「銀の時計にするんだ」と楽しそうな様子が見られた。出来上がった時計でいろいろな時刻を合わせて喜んで遊んでいた。</p>
・空き箱の製作に比べ、興味をもつて楽しむ姿が多く見られた。	<p>・空き箱の製作に比べ、「大工さんになりたい」という思いもあるからだろう。継続して木工遊びを取り入れると、苦手とする「形の組み合わせ」や研究テーマの内容も興味を深めていいけるかもしない。</p>
	<p>・釘を使つた接着では、時計づくりでは、気付いていなかった、高さや長さを合わせるという意識が芽生えていたようだ。</p>
・空き箱の製作に比べ、興味をもつて楽しむ姿が多く見られた。	<p>・空き箱の製作では、「ダンシャクとキタアカリ」の種類で大きさが違うことに気付いていた。实物の時計を見て、組み合わせた箱が合わず、よりも長い材料を選び直し、いろいろな箱で試して考えることはあまり気に入らない。そこで、「先生、今日は○個ついてね」「今日は○日より多いね」等、収穫数を報告するなどを楽しみにしていた姿があった。「この形は惑にうそうだな」等、イメージを具体化して、当てはめてみたり、材料から選び取つたりすることは、考えていた以上に難しいことが分かった。よりイメージや形の特徴が見えやすいうように選択肢を与えることで、自分のイメージに合わせて材料を選ぶことができたので、実態に合わせて材料提示も工夫したい。</p>
	<p>・空き箱の製作では、高さを図つて、生長を感じるというこどもがいるように感じた。</p>
・砂時計やデジタル時計等、いろいろな種類を見比べて、数字の表示や針の形、秒針等、違ひを見つけて書くんだね！	<p>・「7月6日 9個」等、文字で記録することで、関心が深まり、比べる姿につながっていたと感じた。</p>
	<p>・ミニトマトの栽培では、新たな興味や深まりになつたではないか。自分で見て背が高くなつたという発見があつたので、そんなアプローチの仕方ができたらよかったです。また、ジャガイモの収穫時にも重さ比べを取り入れてもよかったです。数字には重さ、高さ等、いろいろな表し方があることを体験の中で2学期以降取り入れてみたい。</p>

Ⅲ期(9月～10月下旬)					
育て姿た いの活動 の構成と 具体的な手 立て	活動内 容	環境構成と 具体的な手 立て	活動の 様子	活動の 考察	反評期 間の変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きさ、広さ、重さ、高さなどのいろいろな数量に関心をもつたり、比べたりする</li> <li>・いろいろな標識を捉えて、様々な形を組み合わせて遊ぶことをする</li> <li>・いろいろな形の特徴や組み合せ方に気付き、形に触れて遊ぶ面白さを感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本でタングラム（シルエットパズル）を楽しむ</li> <li>・自分なりにイメージを膨らませて、形を組み合せて遊ぶことを楽しむ</li> <li>・自分なりにイメージを膨らませて、形を組み合せて遊ぶことを楽しむ</li> </ul>	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「のりもの」、「どうぶつ」2種類の簡単なタングラムの絵本を置いておき、興味をもつたと見えた。</li> <li>・絵本【手立て】とへんしんプレタングラム（のりもの）（どうぶつ）</li> <li>・手立て【手立て】に向きや組み方を様々に試しながら見守りながら姿勢を守るために気付くこと</li> <li>・失敗したらすぐに元に戻す姿勢がついた時の嬉しいところの声と一緒に声を出していくこと</li> <li>・「この通りやかん」という言葉で、形を比較すること</li> </ul>	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室に大きなマグネットホワイトボードを貼って遊べるようにする。</li> <li>・教科【マグネットシート】（直角・三辺・2等辺三角・丸・四角・長四角等、それぞれ大中小の大きさ）</li> <li>・手立て【手立て】で保育園からの帰り道に標識探しを楽しむ、「どこで見たのかな」という興味をもつたことを立てる。</li> <li>・手立て【手立て】で見つけたものに合わせて、教師も一緒にイメージを膨らませて遊ぶ。遊びの中でいろいろな標識に触れ、生活の中でも、よく見たり関心を深めたりできるようになる。</li> </ul>	<p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・標識マークを印刷して、カードにする</li> <li>・標識マークを自由に貼って遊べるようにする。</li> <li>・手立て【手立て】で「どこで見つかるか」についてある！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年2期の2期の実態や反省を基に教材や活動を考え、実践したことでの特徴を捉え、遊びの中で形を組み合わせ楽しむことで、形の特徴を捉え、見守って関わることで、自分の力で試行錯誤誤する経験になつた。問題自体は簡単で、「出来上がり」というゴールもあるため、じっくり取り組む時間を設け、見守って感じた。</li> <li>・この経験がついたことで、その後の折り紙製作にも変化が見られたので、形認識が育つ教材だと感じた。</li> <li>・じっくり取り組むことで、自分の力で試行錯誤誤する経験になつた。最後まで自分で考えれる経験になり、自信にもつながったと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きい特徴を捉えて、様々な形を組み合せて遊ぶことをする</li> <li>・いろいろな標識に関心をもち、身近な道路でよく見た</li> <li>・意味を知ったりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標識に関心をもち、身近な道路でよく見た</li> <li>・意味を知ったりする</li> </ul>	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「のりもの」、「どうぶつ」2種類の簡単なタングラムの絵本を置いておき、いろいろな大きさの</li> <li>・教科【マグネットシート】（直角・三辺・2等辺三角・丸・四角・長四角等、それぞれ大中小の大きさ）</li> <li>・手立て【手立て】で見つけたものに合わせて、教師も一緒にイメージを膨らませて遊ぶ。遊びの中でいろいろな標識に触れ、生活の中でも、よく見たり関心を深めたりできるようになる。</li> </ul>	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「のりもの」、「どうぶつ」2種類の簡単なタングラムの絵本を置いておき、いろいろな大きさの</li> <li>・教科【マグネットシート】（直角・三辺・2等辺三角・丸・四角・長四角等、それぞれ大中小の大きさ）</li> <li>・手立て【手立て】で見つけたものに合わせて、教師も一緒にイメージを膨らませて遊ぶ。遊びの中でいろいろな標識に触れ、生活の中でも、よく見たり関心を深めたりできるようになる。</li> </ul>	<p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・標識マークを印刷して、カードにする</li> <li>・標識マークを自由に貼って遊べるようにする。</li> <li>・手立て【手立て】で「どこで見つかるか」についてある！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年2期の2期の実態や反省を基に教材や活動を考え、実践したことでの特徴を捉え、遊びの中で形を組み合わせ楽しむことで、形の特徴を捉え、見守って関わることで、自分の力で試行錯誤誤する経験になつた。問題自体は簡単で、「出来上がり」というゴールもあるため、じっくり取り組む時間を設け、見守って感じた。</li> <li>・この経験がついたことで、その後の折り紙製作にも変化が見られたので、形認識が育つ教材だと感じた。</li> <li>・じっくり取り組むことで、自分の力で試行錯誤誤する経験になつた。最後まで自分で考えれる経験になり、自信にもつながったと思う。</li> </ul>

## Ⅳ期(11月～12月)

- ・生活や遊びを通して簡単な文字を読んだり、自分の名前を書いたりする
- ・標識がもつ機能を理解して生活したり、活用したりする

・自分の描きたいイメージを形にしながら、つくる楽しさを味わう

・壁面製作（自分の家をつくってみよう）

・文字に触れて、読んだり言葉遊びをしたりして楽しむ

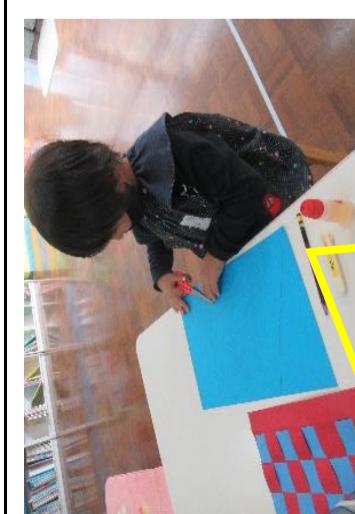
・文字マグネットでしりとり遊び

**【環境】**・壁面にいろいろな形の屋根の動物の家を掲示し、いろいろな家の種類が目に触れるようにする。

**【材料】**・色画用紙（色を選べるようにする）

**【手立て】**・保育園の帰り道にいろいろな家の屋根や窓の種類に触れられるように話題にし、関心をもつてよく見る機会をつくる

・自分なりに大きさを考えたり、形を描いたりする姿を大切に、じっくり取り組める時間を確保する。



僕がいいなと思っている屋根の形があるんだ！こうかな



「えんぴつ」の「つ」の文字



- ・文字がたくさん並んでいるボードを見て、声に出して読んで楽しんでいた。
- ・初めに、教師としりとりをする、文字を探して言葉をつくることの面白さを感じ、会話の中でしりとりをするよりも、興味をもち、喜んで遊んでいる姿が見られた。
- ・しりとりでは、自分の順番になった時に、文字を見て考えることで、いろいろな言葉を思い付いている様子があった。
- ・「あの言葉もあるな」「いいこと考えた」等、自分なりに考えてアイデアや言葉が出てくるのが楽しいようで、「しりとり苦手だったけど、楽しくなってきた」と話していた。
- ・『4 文字の食べ物』『2 文字の動物』等、いろいろな題材で文字カードを使って遊んだ。

- ・保育園の帰り道に「あの屋根の形みたいにしたい。三角に似てるけど上がまっすぐみたいなやつ」と台形の屋根をつくりたいと話しており、自分なりに形のイメージがあるようだった。
- ・土台の大きさと合わせながら、自分なりのイメージをすぐに描いてみようとしていた。描きあがるとすぐに形に切るのではなく、合わせて確認し、丁度良い大きさを考えていました。また、切って形ができると、自分の思い描いたものと合っていたことをとても喜んでいた。
- ・「窓は四角で2つにしよう」と工夫してつくろうとしていた。

- ・導入として、土台の組みみがあり、「今度は屋根をつくりうね」と話したことで、自分のつくりたい屋根を実際の家を見てイメージできたり、自分のつながらたと思う。
- ・「わからない」「難しそう」という気持ちからではなく、自分なりのイメージをもつことができるように導入は必要で、それが得意となったり、「自分がいいな」という気持ちは豊かなイメージになつたりすると思う。
- ・この活動でもⅡ期の活動での自信が「やってみよう」という気持ちや「自分でじっくり考えてやり遂げよう」とする気持ちが育つてきているのが感じられた。段階を追って、経験を重ねることで、できることが増えるだけではなく、楽しく取り組むことができるようにになっている。
- ・家づくりだけではなく、全身を描く時にも、全身を描けるようになっており、描きたいものを形にすることができるようになってきた姿を見ることができた。

- ・会話の中でしりとりをすることとの違いが考えていた以上に大きくあり、幼児は文字を見ながら考えると、思ひ付きやすかつたり、いろいろな言葉が連想できたりする様子があつた。そのことで、すごく喜んで遊ぶことができ、文字に触れて遊ぶことの楽しさを十分に味わうことができた。
- ・大人が考えている以上に頭の中で文字をつなげたり、連想したりすることは難しい幼児が多いのもかもしれない感じた。そういう実態の時には、視覚的な教材を利用することは、とても効果的だ。
- ・クラスの友達が多い時には、「〇〇ちゃんの好きな動物は何でしょう？」と問題にして、答える子が文字を選んで並べたり、みんなで読んだりするような遊びも楽しいのではと思った。幼児にとっては、みんなで声を合わせて読むことにも楽しさを感じるようになった。

- ・4期は幼児の数量や文字への関心が深まってきており、どの活動においても、幼児が活動 자체を楽しんだり、活動の中で自分なりに考えることの面白さを感じたりしている姿が多く見られたと思う。5歳の半ばを過ぎると、思考力も育まれてきているため、活動一つ一つにおいて、教師は、幼児がじっくり考え、試し、取り組めるように時間の確保や教師の関わり方を配慮することが大事だと感じた。

期	IV期(11月～12月)		
育てたいのね活動の内容	環境構成と具体的な手立て	活動の様子	気付いたこと・考察
育てたいのね活動の内容	<p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>葉書き・便箋・切手・あいうえお表</li> <li>【手立て】           <ul style="list-style-type: none"> <li>季節の行事や友達からの手紙など、「手紙を書きたい」というタイミングを逃さず、機会をつくる。</li> <li>幼児にとって「手紙を書くために、文を考える」という活動の形にならないようにし、相手に伝えたいことを話題にし、それを伝える手段として手紙という方法があることを提案するようになる。</li> <li>友達への返信や年賀状はポストに投函する経験ができるようにし、郵便のしくみやしごとに 관심をもてるようになる。</li> </ul> </li> </ul>	 <p>【準備したもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>量り・物差し・ひも・記録用紙</li> <li>【手立て】           <ul style="list-style-type: none"> <li>収穫した大根の大きさの違いに関心がもてるか一緒に考えたり、比べることができる道具を知らせたりする。</li> <li>比べる時には、すぐに量るのではなく、見た目の違いを見て比べたり、重さを感じたり、重さを丁寧に受け止め共感する。</li> </ul> </li> </ul>	<p>・9月から育ってきたダイコンを収穫する際、「すごく長くなっているといいな」と長さに期待ど開心をもって収穫する姿が見られた。また、保育園でももらったダイコンよりも長い物ができることに期待をもち、「どちらが勝つか」比べたいと話していた。</p> <p>・2本目収穫し終えると、「こっちの方が短いけど太い」と長さだけでなく、太さにも気付いていた。</p> <p>・「これが一番重い気がする」と手でもって比べた後に、量りで図った。重さの違いが太さに関係があることがわかり、どうやったら太さを比べることが出来るか、考えた。</p> <p>・先生にヒントをもらしながら、紐を使って太さが比べられるところを知り、太さ比べました。重さ、太さ、長さ等、いろいろな方法で数量が比べられることが学んできた。</p>
育てたいのね活動の内容	<p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>葉書き・便箋・切手・あいうえお表</li> <li>【手立て】           <ul style="list-style-type: none"> <li>季節の行事や友達からの手紙など、「手紙を書きたい」というタイミングを逃さず、機会をつくる。</li> <li>幼児にとって「手紙を書くために、文を考える」という活動の形にならないようにし、相手に伝えたいことを話題にし、それを伝える手段として手紙という方法があることを提案するようになる。</li> <li>友達への返信や年賀状はポストに投函する経験ができるようにし、郵便のしくみやしごとに 관심をもてるようになる。</li> </ul> </li> </ul>	 <p>【準備したもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>量り・物差し・ひも・記録用紙</li> <li>【手立て】           <ul style="list-style-type: none"> <li>収穫した大根の大きさの違いに関心がもてるか一緒に考えたり、比べることができる道具を知らせたりする。</li> <li>比べる時には、すぐに量るのではなく、見た目の違いを見て比べたり、重さを感じたり、重さを丁寧に受け止め共感する。</li> </ul> </li> </ul>	<p>・長さを比べるだけではなく、幼児が大きさの違いをいろいろな観点でじっくり比べてみるとことができたことで、「こんな方法で比べることができるんだ」といろいろな方法を知る経験になった。</p> <p>・幼児期は、まず自分が感じた重みやもった感触の太さ、並べて比べた長さに興味をもつ経験をすることが大好きだと思う。そして、今回のような体験で、生活の中で必要な時に、道具を使って、確かめるという方法があるということを知ることができた。こういった体験を通して、数値の違いに開心をもつたり、違いを確かめることの面白さを感じた。</p> <p>・2学期は収穫したひまわりの種、おいもほりのサツマイモ、クッキングの材料等、重さを調べている機会を重ねてきた。そういう小さな経験が、日々取り入れることのできる活動</p>
育てたいのね活動の内容	<p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>葉書き・便箋・切手・あいうえお表</li> <li>【手立て】           <ul style="list-style-type: none"> <li>季節の行事や友達からの手紙など、「手紙を書きたい」というタイミングを逃さず、機会をつくる。</li> <li>幼児にとって「手紙を書くために、文を考える」という活動の形にならないようにし、相手に伝えたいことを話題にし、それを伝える手段として手紙という方法があることを提案するようになる。</li> <li>友達への返信や年賀状はポストに投函する経験ができるようにし、郵便のしくみやしごとに 관심をもてるようになる。</li> </ul> </li> </ul>	 <p>【準備したもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>量り・物差し・ひも・記録用紙</li> <li>【手立て】           <ul style="list-style-type: none"> <li>収穫した大根の大きさの違いに関心がもてるか一緒に考えたり、比べることができる道具を知らせたりする。</li> <li>比べる時には、すぐに量るのではなく、見た目の違いを見て比べたり、重さを感じたり、重さを丁寧に受け止め共感する。</li> </ul> </li> </ul>	<p>・今回の手紙を書く活動は、伝えたいことを手紙に書くことで、会えない相手にも伝えられることを実体験することができます。学習ではなく文字を生活や遊びの中で活用する便利さや楽しさを感じるよい体験になったと思う。友達との手紙のやりとりが動き始めたと感じた。</p> <p>・教師が書き順について知らせると、ひらがな表を見ながら、書き順を気にかけて書いており、文字を正しく書くことに楽しめた。また、数字や苦手だった文字が書けるようになれたことをとても喜んでいた。</p> <p>・友達（昨年の年長児）から手紙が届いた返事や年賀状を書く時には、自分で書きたいことを考えて「〇〇って書くんだ」と相手に伝えたいことを手紙にすることを楽しめた。</p> <p>・切手を貼って、ポストに投函することを楽しみにしていた。</p>
育てたいのね活動の内容	<p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>葉書き・便箋・切手・あいうえお表</li> <li>【手立て】           <ul style="list-style-type: none"> <li>季節の行事や友達からの手紙など、「手紙を書きたい」というタイミングを逃さず、機会をつくる。</li> <li>幼児にとって「手紙を書くために、文を考える」という活動の形にならないようにし、相手に伝えたいことを話題にし、それを伝える手段として手紙という方法があることを提案するようになる。</li> <li>友達への返信や年賀状はポストに投函する経験ができるようにし、郵便のしくみやしごとに 관심をもてるようになる。</li> </ul> </li> </ul>	 <p>【準備したもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>量り・物差し・ひも・記録用紙</li> <li>【手立て】           <ul style="list-style-type: none"> <li>収穫した大根の大きさの違いに関心がもてるか一緒に考えたり、比べることができる道具を知らせたりする。</li> <li>比べる時には、すぐに量るのではなく、見た目の違いを見て比べたり、重さを感じたり、重さを丁寧に受け止め共感する。</li> </ul> </li> </ul>	<p>・今回の手紙を書く活動は、伝えたいことを手紙に書くことで、会えない相手にも伝えられることを実体験することができます。学習ではなく文字を生活や遊びの中で活用する便利さや楽しさを感じるよい体験になったと思う。友達との手紙のやりとりが動き始めたと感じた。</p> <p>・手紙を書くことは、文字を書くという経験だけではなく、自分の気持ちを文章にするという点でも幼児にとっては、言葉の面での育ちが大きい。</p> <p>・2学期に保育園の友達とのお手紙ごっこでは、あまり遊ぶことができないままになってしまったので、手紙を書く楽しさを味わった経験を継続的にできるように考え、簡単な文の手紙でやり取りする遊びを経験できるようにしていきたい。</p>
評価	反評	期の省	<p>・活動の中で、国語や算数につながる体験になるのでは・・・というように感じたことはなかった。学習の先取りではなく、生活の中での体験をして、活動計画をたてて進める中で、前年までやってきた活動を工夫したことや、前年までやった活動を意識して、活動計画を立てたことの豊かな体験が豊かになったと思う。</p>

・生活や遊びの中で数や図形、文字などに親しんだり、興味・関心を深め活用したりする楽しさを感じる

- ・自分のイメージを言葉や絵で表現しながら紙芝居づくりを楽しむ
- ・遊びの中で書いたり、読んだりして文字を活用する楽しさを感じる

#### ・紙芝居づくり

##### 【準備したもの】

- ・色画用紙・クレヨン・絵の具・あいうえお表
- 【手立て】  
・自分の方向性やイメージがより具体的になるように聞かわる。  
・題名を自分で書く、児童の考えた話を裏面に教師が書いて読むなど、文字に触れる場面を多くつくり、楽しさや必要性を感じられるようになる。
- ・充実感や自信につながるように友達や保護者、教師の前で発表する機会をもつ。

- ・数を数えたり、合わせて考えたりしながら遊ぶことを楽しむ

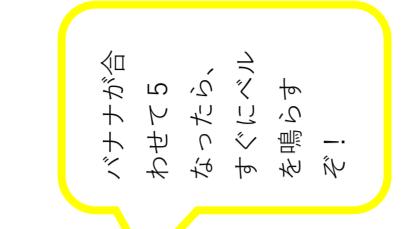
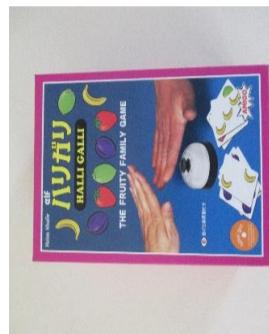
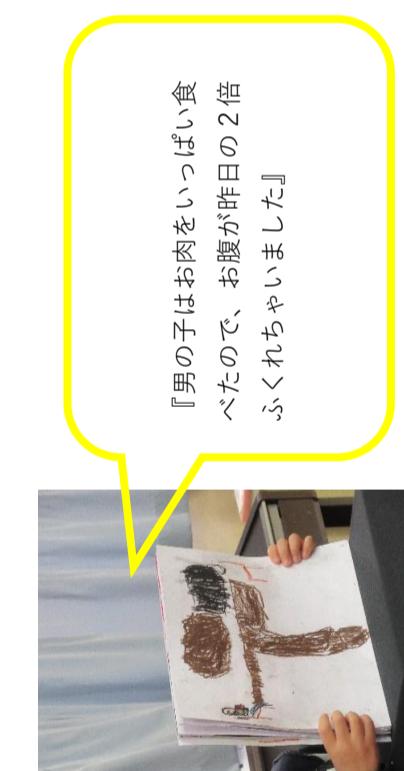
#### ・カードゲーム「ハリガリ」をやってみよう

##### 【教材】

- ・カードゲーム「ハリガリ」  
※ルール：1つ～5つまで描かれた5種類のフルーツのカードがあり、場に出したカードのいずれかのフルーツが合わせて5になつたら素早くベルを鳴らすゲーム。速く鳴らした人の勝ち。

##### 【手立て】

- ・数を数えたり合わせたりしながら、遊ぶ楽しさを感じるために、ルールを簡単にしながら遊び始め、少しずつ難しくしていく。
- ・児童が素早く反応したり、自分の考え方の間違いに気付いたり、遊びの中で考え方付く姿を大切に認める。



・初めは、「イチゴが出たら鳴らす」などの簡単な遊び方にし、次第に「どのフルーツでも合わせて2になつたら鳴らす」など、ルールの難易度を少しづつあげたことで、児童が楽しく夢中になつて遊べるようになつた。

・指を使って、数えるのではなく、頭の中で数えたり、2つの数を合わせたりしてゲームができていた。

・カードをめくると、いろいろな数やフルーツが出てくるのをよく見て、集中してゲームに参加していた。また、ルールを変化させて遊ぶ中でも、ルールを理解している様子があつた。

・初めは2、3人で遊んだが、一緒にゲームをする仲間を増やし、5人で遊んだ時にも、ルールを理解し、競うことを楽しんでいた。また、複雑なルールになつても、自分の力で数を数えて合わせ

・「僕は面白い話にしたいな」と自分で話を考へ、楽しんでつくっている姿が見られた。  
・考えた話を絵で表現することに戸惑っていたが、徐々に「椅子は横からみるとこんな感じかな？」と自分なりに形を想像しながら描く姿が見られた。また、テーブル、横向きに寝ている男の子、骨付き肉など、自分の描きたいものがたくさん出てきて楽しめた。

・表紙づくりでは、「小さい『つ』がいるのかな？」と文字を正しく書きたいという思いが見て取れた。

・紙芝居の裏面の字を読むにあたり、「小学生の音読みみたい」と楽しそうに話していた。また、いろいろな字を自分で読めるようになつたことが嬉しそうだった。  
・話の中で「2日経ちました」「2倍になりました」など、数量を取り入れて話を面白く表現しようとする姿が見られた。

・もともど数量への興味は早い段階からあつた。1学期は、数える、比べるということを大切に、2学期は重さ、長さ、大きさなど、いろいろな数量に関心をあげることができるようになっていった。3学期は、今までやつていたババ抜き、神経衰弱などのトランプゲームに加えて、数を合わせて考えることが必要になるこのゲームは、難しくなるが、現在の児童の実態に合つた楽しい教材だつたと思う。児童の実態に合つた教材研究をし、取り入れることが大切だ。

・この事例では、遊びの中で自然と足し算のような思考を経験しながら、繰り返し楽しみ、遊びに

・この面白さを感じることができた。児童にとって、小学校での学びにつながるところでもよい経験になったと思う。

・3学期の児童の姿から、1、2学期の経験が土台となつていることを感じ取れることが多くあつた。5歳児の終わりに、児童が単に知識として、文字や数字を知っているのではなく、生活や遊びの中で自ら活用する姿を育てていくことがとても重要であると実感した。

## (6) 成果と課題

### ①成果

○数量や図形、文字などに、日常生活や遊びの中で幼児が触れる機会がどのくらいあるか改めて着目してみると、想像以上に多くのことがあります。そして、教師が意図的な環境づくりや関わりをすることで、より幼児が数量や図形、文字などの興味・関心、感覚を育むことができるということ分かった。

○幼児の実態に即して簡単なことから始め、段階を追って、次の経験につなげられるよう环境や活動を工夫することが大切である。幼児が「わかった」「できた」と感じることで、さらに興味・関心が高まる姿が見られた。

○例年、語彙を増やしたり、文字に興味をもつたりするきっかけとして、「しりとり」や「言葉集め」等を取り入れてきただが、初めて視覚教材（文字を書いたマグネット）を使い、言葉遊びをした。耳で聞くだけの言葉遊びをした時よりも、視覚教材があることで、幼児がよりイメージを広げながら楽しむ姿や、様々な言葉や文字を知ったことがよく分かった。また、遊び方の工夫次第で、いろいろな言葉遊びにつなげられるよい教材だと感じた。

○数量では、数を数えるだけでなく、例えば「多い・少ない」「大きい・小さい」「長い・短い」「重い・軽い」など大きさや重さ、長さ等の様々な概念に触れる経験になるよう意図して児童に関わるようにした。そのことにより、数量に対する感覚が磨かれ、自分なりに知識を活用している様子も見られるようになった。その経験は、具体的な体験として小学校算数の基礎となり、学習の理解につながると考える。

○形を捉えることが苦手な幼児に対して、三角や四角等を組み合わせると、動物や乗り物に変身する簡単な図形パズルをしたり、マグネットを自由に組み合せてイメージしたものを作ったりする遊びから始めた。幼児にとって親しみやすく簡単な教材を用意し、形を組み合わせると新たな形が出来上がると面白さを感じられるようにしていくことが大切だと分かった。そして、形が見えるようになってくると、イメージに広がりが見られ、描きたい絵を描けるようになったり、折り紙製作できることが増えたりし、表現の仕方や出来上がる作品、製作時の意欲や取り組み方の姿にも変化が見られた。

### ②課題

○在園児が一人のため、幼児の実態に即した活動の工夫ができた。しかし、今回の指導方法や環境、活動の工夫を集団の中で行った場合は、個人差があり、必ずしも幼児一人一人が文字や数量、図形などの興味・関心を高め、感覚が育まれた姿につながるとは限らない。大人数の場合は、友達からの刺激が活動に広がりを生むという良い点を考慮し、集団活動の利点を生かした環境づくりや活動の工夫をすることを大切にしながら、研究を深めていくことが必要である。

○今年度の研究は、5歳児のみである。4歳児が文字や数量、図形などに興味・関心をもつたためにはどんな環境や活動の工夫が必要なのか考えたり、5歳児の前段階として4歳児にどんな経験をし、つなげていくのかを考えたりすることで、より充実した研究になるだろう。さらに、就学を見据え、小学校1、2年生の学習内容について教師が理解を深め、活動を設定していくことも課題である。